

龍谷大学大学院国際学研究科

設置の趣旨等を記載した書類

■ 目 次 ■

ア	設置の趣旨及び必要性	1
イ	修士課程までの構想か、又は、博士課程の設置を目指した構想か ...	7
ウ	研究科、専攻等の名称及び学位の名称	9
エ	教育課程の編成の考え方及び特色（教育研究の柱となる領域（分野） の説明も含む）	11
オ	教員組織の編成の考え方及び特色	33
カ	教育方法、履修指導方法、研究指導の方法及び修了要件	36
キ	施設・設備等の整備計画	56
ク	基礎となる学部と修士課程・博士後期課程との関係	58
ケ	入学者選抜の概要	59
コ	取得可能な資格	63
サ	管理運営	63
シ	自己点検・評価	64
ス	認証評価	65
セ	情報の公表	65
ソ	授業内容等の改善のための組織的な研修等	70

ア 設置の趣旨及び必要性

1. 龍谷大学大学院国際学研究科の沿革

龍谷大学は、寛永 16（1639）年に浄土真宗本願寺派の教育機関「学寮」として創立して以来、浄土真宗の精神（親鸞精神）を建学の理念とし、人間性豊かで深い学識と教養を備え、社会の発展向上に貢献する人間を養成することを目的としてきた。現在は、文学部、経済学部、経営学部、法学部、理工学部、社会学部、国際学部、政策学部、農学部の 9 学部をもつ。各学部を母体としそれぞれに研究科を設置し、文学研究科、実践真宗学研究科、経済学研究科、経営学研究科、法学研究科、理工学研究科、社会学研究科、国際文化学研究科、政策学研究科、そして平成 30（2018）年度に開設した農学研究科を含む 10 研究科を開設するまでになった。これら諸研究科および短期大学部を含めて、今では 9 学部 10 研究科 1 短期大学を擁する総合大学に発展している。

今回改組する「国際学研究科」は、国際学部をその母体とする。国際学部は、平成 8（1996）年に開設された国際文化学部を起源とし、龍谷大学全体の国際化を推進する学部として位置づけられてきた。少人数による語学教育や多様な世界の文化の理解に力を入れ、学生の多くが在学中に留学を体験してきた。また、専任教員の半数近くを外国籍の教員が占めるとともに、留学生や海外の大学からの短期研修の受け入れも積極的に行う等、学部内で多様な言語・文化環境を体験することができることが特色である。

平成 27（2015）年度には、国際文化学部は国際学部として、国際文化学科（以下、「IC 学科」という）とグローバルスタディーズ学科（以下、「GS 学科」という）の二学科体制に再編された。同時に学部を瀬田キャンパス（滋賀県大津市瀬田）から深草キャンパス（京都市伏見区）に移転し、急速にグローバル化する世界の情勢に合わせた教育を展開することにより、大学としての方針である深草キャンパスの多文化共生キャンパスの実現に貢献してきた。

2. 国際学研究科設置の趣旨

国際文化学研究科は、平成 12（2000）年に修士課程を、平成 14（2002）年に博士後期課程を設置した。開設以降、総数 166 名の修士課程修了生を、また 10 名の博士後期課程修了生を輩出した。本研究科のこれまでの研究動向ならびに成果を簡潔にまとめると、次のとおりである。

第一に、「多様な研究テーマにおける統一感」が挙げられる。修士課程において、また博士後期課程においても、研究テーマは言語研究から音楽や庭園などの具体的文化要素についての研究など多岐にわたる。しかし、これらのさまざまな研究に共通してうかがえるのは、ある文化要素が別の文化の構成要因と触れあう時、どのようにして異種混合（ハイブリッド）がおこりうるのかという変化の過程に着目するという探求姿勢であろう。そのような変化の過程への着目により、異文化相互の理解がいかんして促進され、逆に疎外されるのかを解明しようとしてきた。このような探求の背景には、平和共存をどのようにして支えるのかという問題意識が貫かれている。事実、これまでに研究に従事してきた大学院生の多くは、世界各地からの多様な背景を有しており、そのような多様な大学院生たちが

教員とのやりとりを通じて、文化交流における諸課題について、理論面からも実践面からも研究を展開してきた。

第二に、「多様な文化要素間のさまざまな接触のありかたをめぐる比較研究」という視点である。「文化」とは、ある国を代表する文化を指し示すこともあれば、特定の時代の文化や、ある民族集団の文化など、多様な形態をとりうるものである。地域性、民族性、時代性といった多様な観点から文化を比較考察することにより、既存の学問分野では軽視されがちな「視角」を浮かび上がらせることに取り組んできた。

このような取り組みが成果をあげつつあるなかで、平成 27（2015）年に基礎となる学部である「国際文化学部」を「国際学部」へと改組し、国際文化学科とグローバルスタディーズ学科の 2 学科体制とした。この国際学部の改編経緯をふまえ、なおかつ、これまでの大学院研究科における成果をさらに発展させ、高度の専門的職業人の育成、並びに研究者の育成を図ることを目的に、今般、「国際学研究科」へ改組し、新たに修士課程及び博士後期課程を設置することとした。

3. 龍谷大学大学院国際学研究科設置の必要性

今回の研究科の改組は学部の改組を受けて、さらなる教育・研究の高度化を進めるものである。20 世紀の終盤に始まったグローバル化は、21 世紀になってさらに加速し、人と情報の流れは言語や国境を越えてボーダーレスに展開している。こうしたグローバル化の時代における大学院教育には、多様な価値観を受け入れる寛容な態度を持ち合わせるとともに、互いの立場や考え方の違いを尊重しながら、そうした違いを乗り越えて人類全体の未来を志向する担い手を育成することが求められている。また、このような時代を生きるためには、世界的課題やそれぞれの地域社会が抱える諸問題を明らかにする必要があるが、そのためにはまずもって複眼的にこれらの諸課題を検討することが必要となる。その上で、多様な見解を持つ他者との対話や交流を通じて、自らの考えを深め、解決方法を提示し、関係者を説得していくことが、理論的にも実践的にも必要となる。そしてそのような対話や交流が円滑に行われるためには、日本語のみならず英語を含む多様な外国語の運用能力がますます必要になってきている。今回申請する「国際学研究科」は、このように近年急速に進展しつつある多文化化ならびにグローバル化しつつある今日の世界のあり方が問われている現状を踏まえ、社会的ニーズに応えるための本学の姿勢として、現「国際文化学研究科」のこれまでの実績を基に、新たな教学展開を図るものである。

今回の改組の背景要因としては、研究科が学部 IC・GS 各学科生の進路先としての役割を果たす必要があることがまずあげられる。さらに、GS 学科の修了生は国際文化学部の時以上に英語力をつけ、さらなる勉学・研究を望むことが想定されるため、この受け皿を準備することも大切である。また、近年のグローバル化した国際情勢を反映して、英語を主要言語として研究をおこない、英語のみで履修できる大学院教育の必要性が海外の留学生からも高まっていることも指摘できる。そして、内外の情勢が変化する中で、龍谷大学の研究科が改組によりその魅力を高める必要があることも考慮されるべき事項である。

そのため、今回の改組にあたっての検討の主要ポイントとしては、学部再編を受けて、IC 学科と GS 学科が協力しつつも、それぞれの特徴を生かして、国内外に発信できる魅力的な研究科となることが第一である。その上で、近年その必要性が指摘されているように、英

語でのみ修了できる大学院課程を展開すること、さらに関連する資格課程の開設を予定している。これら新規の教学展開により、これまで以上に本学大学院において多様な大学院生が研究に従事することが期待される。また、論文指導の充実と審査過程の透明化・厳格化を両立させ、質の保証を一層向上させることも大切である。【資料 1. 龍谷大学国際学部と大学院国際学研究科との関係】

4. 龍谷大学大学院国際学研究科が養成する人材像

上述の通り、グローバル化が加速的に進展する現在の国際社会において、その急速な変化によって引き起こされている諸課題・諸現象と批判的に向き合い、多様な文化が共生する社会の実現に向けて、国際的な舞台でリーダーシップを発揮し活躍できる人材の養成は急務と言える。それらの諸課題に対して、高い外国語運用能力・コミュニケーション能力を発揮して、具体的な解決方法を提示し、その実現に向けて活躍できる人材に対する社会的要請はきわめて高い。

このような状況を背景に、国際学研究科では、建学の精神に基づいて、次のような人材を養成する。

【修士課程】

修士課程は、多文化化ならびにグローバル化の様相を呈する世界で、複雑多様に入り組むさまざまな課題に対して、その問題の背景を探究し、解決能力を備えた人材を養成する。各専攻による具体的な養成する人材像は次の通りである。

国際文化学専攻では、グローバル化の進展によって相互依存が著しく進む現代世界が直面する新たな諸現象・諸問題を、文化の視座から批判的に考察し、高度な専門的知識と外国語能力を発揮して解決方法を探究することができる人材、また得られた知見を高度の専門的職業人および実務家として発信できる人材を養成する。

グローバルスタディーズ専攻では、グローバル化が急速に進展する現代の国際社会が抱える諸問題を、歴史・地域・社会・倫理などの幅広い視座から複合的かつ批判的に理解し、高度な専門的知識と外国語能力を発揮して、その解決方法を探究することができる人材、また得られた知見を高度の専門的職業人および実務家として発信できる人材を養成する。

言語コミュニケーション専攻では、グローバル化が急速に進展する社会における言語およびコミュニケーションの意義や役割に関する問題意識をもち、主体的かつ自律的に学ぶことによって卓越した専門的知識や言語習得や英語教育に関わるさまざまな技能を修得し、高い語学力・対話力をもってリーダーシップを発揮して高度の専門的職業人および実務家として相互理解や多文化理解の推進に貢献できる人材を養成する。

【博士後期課程】

博士後期課程では、多様化しグローバル化する国際社会が抱える諸課題を複眼的な視点から大局的に分析し、そこから今後の展望を導き出すとともに、問題解決に向けた実践的な行動を起こすことができる人材を養成する。各専攻による具体的な養成する人材像は次の通りである。

国際文化学専攻は、修士課程の学修で身に付けた深い学識と研究能力、フィールドワー

クを通じて得た知見・技能・経験を土台とし、高度で国際的な水準で国際文化学に関わる創造的研究を行うことのできる自立した研究者となる人材を養成する。

グローバルスタディーズ専攻は、修士課程の学修で身に付けた研究能力と学術的・実践的議論を展開できる外国語能力をもつ、高度で国際的な水準の創造的研究を行うことのできる自立した研究者となる人材を養成する。

5. 国際学研究科のディプロマポリシー

国際学研究科では、以下のようなディプロマポリシーを掲げて、学位授与をおこなう。

【修士課程】

(1) 修士課程国際文化学専攻

大学院学生に保証する基本的な資質

＜備えるべき能力＞

- ・日本、共生社会、言語文化、宗教文化、芸術・メディアなどの研究内容について国際的な視野の中で位置づけたうえで理解することができる。
- ・相互依存が著しく進む現代世界が直面する新たな諸現象・諸問題を、文化の視座から批判的に考察することができる。
- ・高度な専門的知識と外国語能力を発揮して解決方法を探求することができる。

＜将来発揮することが期待される能力＞

- ・国際文化学の総合的知識や専門分野の知識を、多角的に活用できる。
- ・研究を通じて得られた知見を高度の専門的職業人・実務家として発信し、社会に貢献することができる。

学位授与の諸要件

- ・修士課程に2年以上在学すること。
- ・正規の授業を受け、所定の科目について30単位以上を修得すること。
- ・必要な研究指導を受けたうえ、修士論文を提出してその審査および最終試験に合格すること。

(2) 修士課程グローバルスタディーズ専攻

大学院学生に保証する基本的な資質

＜備えるべき能力＞

- ・グローバル化が急速に進展しつつある現代世界を、幅広い視点から複合的かつ批判的に理解することができる。
- ・特定の課題について既存の研究と比較しながら研究テーマを設定し、その解決方法を探求することができる。

＜将来発揮することが期待される能力＞

- ・ 高度な専門的知識と外国語能力を発揮して、現代の国際社会が抱える諸問題の解決方法を探求することができる。
- ・ 研究を通じて得られた知見を高度の専門的職業人・実務家として、国際的な舞台でリーダーシップを発揮し提言することで社会的に重要な役割を担うことができる。

学位授与の諸要件

- ・ 修士課程に2年以上在学すること。
- ・ 正規の授業を受け、所定の科目について30単位以上を修得すること。
- ・ 必要な研究指導を受けたうえ、英語で修士論文を提出してその審査および最終試験に合格すること。

（3）修士課程言語コミュニケーション専攻

大学院学生に保証する基本的な資質

＜備えるべき能力＞

- ・ グローバル化が急速に進展する社会における言語およびコミュニケーションの意義や役割を批判的に理解することができる。
- ・ 言語コミュニケーションに関する高い専門的知識や英語運用能力を身につけている。

＜将来発揮することが期待される能力＞

- ・ 高い語学力・対話力をもってリーダーシップを発揮し、国内外の社会に貢献することができる。
- ・ 高度の専門的職業人・実務家として相互理解や多文化理解の推進に貢献することができる。

学位授与の諸要件

- ・ 修士課程に2年以上在学すること。
- ・ 正規の授業を受け、所定の科目について32単位以上を修得すること。
- ・ 必要な研究指導を受けたうえ、英語で修士論文を提出してその審査および最終試験に合格すること。

【博士後期課程】

（1）博士後期課程国際文化学専攻

大学院学生に保証する基本的な資質

＜備えるべき能力＞

- ・ 変化の著しい国際社会を、文化の視点を軸として複合的かつ批判的に理解することができる。
- ・ 既存の研究と比較して自らの研究テーマを適切に位置づけ、特定の課題についての独自

の解決方法を内外に向かって提言することができる。

- ・多様化する国際社会が抱える諸課題を文化の観点から批判的に理解したうえで独自の視点から説得力ある議論を展開することができる。

＜将来発揮することが期待される能力＞

- ・高い職業的倫理観と責任感を持って、自立した研究者あるいは高度の専門的職業人として社会に貢献することができる。
- ・語学力、文献検索能力、フィールドワークの能力などを活かして、日本や世界において活躍することができる。

学位授与の諸要件

- ・博士後期課程に3年以上在学すること。
- ・所定の科目について12単位以上を修得すること。
- ・必要な研究指導を受けたうえ、博士論文を提出してその審査及び最終試験に合格すること。

（２）博士後期課程グローバルスタディーズ専攻

大学院学生に保証する基本的な資質

＜備えるべき能力＞

- ・グローバル化が急速に進展しつつある現代世界を、幅広い視点から複合的かつ批判的に理解することができる。
- ・既存の研究と比較して自らの研究テーマを適切に位置づけ、特定の課題についての独自の解決方法を内外に向かって提言することができる。
- ・先行研究によっても十分解明されていない研究テーマについて、独自の視点から説得力ある議論を英語にて展開することができる。

＜将来発揮することが期待される能力＞

- ・高い職業的倫理観と責任感を持って、自立した研究者あるいは高度の専門的職業人として社会に貢献することができる。
- ・グローバル社会が抱える諸課題に対して独自の視点から説得力ある議論を英語で展開することができる。

学位授与の諸要件

- ・博士後期課程に3年以上在学すること。
- ・所定の科目について14単位以上を修得すること。
- ・必要な研究指導を受けたうえ、英語で博士論文を提出してその審査及び最終試験に合格すること。

イ 修士課程までの構想か、又は、博士課程の設置を目指した構想か

1. 修士課程ならびに博士後期課程の改組を目指す理由

近年、多文化化ならびにグローバル化の様相を呈する世界において、複雑多様に入り組むさまざまな課題に対して、その問題の背景を探究し、解決能力を備えた人材が一層必要とされるようになった。今回の改組にあたっては、このような近年の社会的要請に応えるべく、次のように配慮をおこなった。

グローバル化が加速的に進展する 21 世紀の今日においては、文化という視点から世界の諸課題を把握するとともに、その根本的原因を解明し、可能な限り多様な文化が共生する社会を構築する必要性が高まり重要なものとして認識されるようになった。「国際文化学専攻 (IC 専攻)」の修士課程、並びに博士後期課程は、これまでの国際文化学研究科の成果をふまえ、このような時代の要請に、よりの確に込えられることをめざしている。

また、研究活動や研究者の養成という観点からは、国内外を問わず、英語による論文執筆や学位修得が一般化しつつあり、その機会を積極的に用意することも求められている。本研究科においても、近年は留学生を中心に英語による論文提出が増える傾向にあり、英語のみによる大学院教育の機会を確保することは社会からの要請に応えるものであると考える。このため、今回の改組を機に、「グローバルスタディーズ専攻 (GS 専攻)」の修士課程、並びに博士後期課程においては、全ての授業開講科目を英語で開講し、また修士論文・博士論文ともに英語で執筆する課程として設置することで、この受け皿となることを意図している。これにより、本学全体の国際化・グローバル化にも寄与することを意図している。

加えて、英語や外国語による意思疎通ならびに情報発信が、近年ではますます重要視されるようになった状況を踏まえ、「言語コミュニケーション専攻 (LC 専攻)」の修士課程ならびに「GS 専攻の博士後期課程」においては、急速にグローバル化する世界が抱えるさまざまな課題を、言語コミュニケーションという視点から鋭く考察し、英語や他の言語による理解や意思疎通を深めることにより、世界の諸課題の解決を担える人材の育成を図ることを目的としている。

こうした現代社会が抱える諸課題や社会的要請に対応していくために、国際文化学研究科の修士課程及び博士後期課程を国際学研究科に改組することとした。

2. 修士課程及び博士後期課程の同時開設とする理由および課程編成の考え方

(1) 修士課程及び博士後期課程の同時開設とする理由

前述したような三つの異なる意図を明確に持つ専攻を、一つの研究科に配置することで、個々の専攻においては、より掘り下げた教育・研究を展開するとともに、研究科全体では関係する研究領域がそれぞれ異なる視点から互いに協力した教学展開を図ることとなり、多様な価値観を育み、複眼的視点の養成を図る効果が期待できる。

特にグローバル化と多文化化の進展が急速に進み、国際社会全体からそれぞれの地域社会にいたるまで、各種の諸問題が複雑多様に入り組んだ今日の情勢を踏まえると、そうした教育・研究体制の確立は一刻も早くなされることが望ましい。今回の改組においては、

既設の国際文化学研究科の修士課程在学学生に対しても、新たな教学展開による教育・研究の機会を継続して提供することが適切であると判断し、修士課程と博士後期課程の両方を同時に改組し設置することとした。

このことによって、学士課程教育から大学院での修士課程、博士後期課程に至る一連の教学展開を、それぞれの課程において多様な分野の知見を融合しつつも、他方では学部ならびに研究科全体の体系的な一貫性が確保したものとして構築できると考えている。

(2) 課程編成の考え方

修士課程は「国際文化学専攻」、「グローバルスタディーズ専攻」、「言語コミュニケーション専攻」の三専攻とし、博士後期課程は「国際文化学専攻」、「グローバルスタディーズ専攻」の二専攻として開設する。【資料2. 課程編成の考え方】

「国際文化学専攻」については、既存の国際学部国際文化学科から一貫した教学展開を行うために、修士課程・博士後期課程ともに独立した専攻として開設する。

「グローバルスタディーズ専攻」についても、既存の国際学部グローバルスタディーズ学科を基盤とした教学展開を行うために開設されるが、そのなかのコミュニケーションに関わる領域については、修士課程は「言語コミュニケーション専攻」として独自の専攻課程を設ける。これは、ともに人文学を基盤とした学問領域ではあるものの、グローバル化が進展する社会のなかで緊要性の高い中学校・高等学校英語教員（専修免許）の養成や通訳・翻訳などに携わる高度な人材の育成を目的として、専門性を明確化した専攻を設置するのが望ましいとの観点からである。

博士後期課程については、グローバル化に関わる諸問題に対して、複数の学問的観点から総合的にアプローチし、高度な学術的研究として既存の知識を融合するために、修士課程の「グローバルスタディーズ専攻」と「言語コミュニケーション専攻」を統合し、「グローバルスタディーズ専攻」として開設する。これにより、さまざまな観点からグローバル化にともなう諸課題に接近できる編成とする。

ウ 研究科、専攻等の名称及び学位の名称

研究科、専攻の名称および学位の名称については、以下のとおりとする。

研究科名 : 国際学研究科 (Graduate School of International Studies)		
設置課程 : 修士課程 (修業年限2年・入学定員15名)、博士後期課程 (修業年限3年・入学定員4名)		
修士課程 (修業年限2年・入学定員15名)		
専攻名	学位	入学定員
国際文化学専攻 (IC専攻) Department of Intercultural Communication	修士 (国際文化学)	7名
グローバルスタディーズ専攻 (GS専攻) Department of Global Studies	修士 (グローバルスタディーズ)	4名
言語コミュニケーション専攻 (LC専攻) Department of Language and Communication	修士 (言語コミュニケーション)	4名
博士後期課程 (修業年限3年・入学定員4名)		
専攻名	学位	入学定員
国際文化学専攻 (IC専攻) Department of Intercultural Communication	博士 (国際文化学)	2名
グローバルスタディーズ専攻 (GS専攻) Department of Global Studies	博士 (グローバルスタディーズ)	2名
開設時期・・・修士課程・博士後期課程ともに 平成31 (2019) 年4月		

1. 研究科の名称

国際学研究科は、修士課程においては、国際文化学専攻 (IC 専攻) とグローバルスタディーズ専攻 (GS 専攻)、また言語コミュニケーション専攻 (LC 専攻) の三専攻で構成する。博士後期課程においては、国際文化学専攻 (IC 専攻) とグローバルスタディーズ専攻 (GS 専攻) の二専攻で構成する。多文化化ならびにグローバル化が顕著に進展する今日の世界のさまざまな課題を複合的視点から考察し、解決方法を多様な言語によって発信していくことができる人材を育成するために、これらの専攻からなる大学院課程の教学展開がなされる。研究科の名称についてはそれぞれの専攻の特色を包摂する上位概念が望ましいこと、また学部における名称との連続性を考慮し、「国際学研究科」とする。英訳名称については、外国の類似の教育内容を有する大学・部局でも一般的な「Graduate School of International Studies」とする。

2. 専攻の名称

(1) 国際文化学専攻

国際文化学専攻は、既存の国際文化学研究科の設置趣旨を受け継いだ専攻であり、その名称を継承し「国際文化学専攻」とする。相互依存が一層著しく進む現在の世界が直面する諸課題に対して、文化という観点から批判的に研究を遂行し、その研究で得られた知見を国際社会のなかで専門的かつ実践的に発揮できる人材が重要となる。このことは、単なる「外国語が使える」ことにとどまらず、異なる文化間のコミュニケーションを担う人間

育成の必要性を示唆している。一方で、現実には「国家」という枠組みは、国際法や国際社会といった用語に象徴されるとおり厳然と存在している。こうした現実を踏まえ、国際文化専攻は「国際」と「文化」を専攻の名称として冠し、端的にその教育課程や人間育成方針を表そうとするものである。英訳名称については、「異なる文化間のコミュニケーション」を担う人間育成に重点を置くとともに、国際文化学研究科の趣旨を承継し「Department of Intercultural Communication」とする。

(2) グローバルスタディーズ専攻

グローバルスタディーズ専攻は、①人文学の視座を中心に、理論的かつ実証的な見地からグローバル・イシューに関する専門的な知識の修得と批判的思考の涵養を目指すこと、②グローバル化した現代社会においては、国家を基礎単位とするアプローチだけでは十分ではないこと、③「グローバルスタディーズ」という概念自体が新しく、適切な日本語訳が確立していないことを踏まえて、カタカナ表記の「グローバルスタディーズ専攻」とする。これは、土台となる国際学部グローバルスタディーズ学科にも対応する名称となる。これにより、「グローバルスタディーズ」の概念およびその学問的意義を広く社会に訴求する。英訳名称は、日本語名称と同じく「Department of Global Studies」とする。

(3) 言語コミュニケーション専攻

社会の急速なグローバル化の進展の中で、実質上、世界共通語として機能しつつある英語力の一層の充実が我が国にとって極めて重要な課題である。高度な協調と競争が求められる今日の世界情勢をかんがみる時、様々な社会的・職業的な立場で英語を使ったコミュニケーションの機会は格段に増えている。そのような背景から、言語コミュニケーション専攻は、英語教育の充実を急務と捉え、高度な語学力・対話力をもった人材や言語コミュニケーションに関する専門知識や実践力を備えた人材の育成を目的とし、名称を「言語コミュニケーション専攻」とする。また、英訳名称としては、「Department of Language and Communication」とする。

3. 学位の名称

設置の趣旨、育成する人間像などを反映し、日本語名称ならびに英語名称をそれぞれ、「修士（国際文化学）」・「Master of Intercultural Communication」、「修士（グローバルスタディーズ）」・「Master of Global Studies」、「修士（言語コミュニケーション）」・「Master of Language and Communication」とする。博士後期課程修了生に対する学位は、「博士（国際文化学）」・「Doctor of Intercultural Communication」、「博士（グローバルスタディーズ）」・「Doctor of Global Studies」とする。これらの名称は世界的にも通用するものである。

エ 教育課程の編成の考え方及び特色（教育研究の柱となる領域（分野）の説明も含む）

1. カリキュラムポリシー

国際学研究科の各専攻は、下記のようなカリキュラムポリシーを掲げて、教育課程を編成し実施する。【資料 3. 大学院国際学研究科の 3 ポリシー】

【修士課程】

（1）国際文化学専攻

- ・ 国際文化研究の多様な側面を理解し、その中で自分の方法論を確立していくために、「国際文化学」「調査方法論」を必修として配置する。
- ・ 1 年次から演習を配置し、指導に当たる主・副となる教員の指導を受けることで、研究遂行にあたっての基礎知識を修得し、自らの研究テーマに関わる分析力・考察力を養い、修士論文を作成する。
- ・ 日本、共生社会、言語文化、宗教文化、芸術・メディアに関連する専門科目を設ける。これらの専門科目においては、各自の研究テーマに必要な語学能力、文献探索能力、フィールドワークの能力などを身に付けられるような授業内容とする。

（2）グローバルスタディーズ専攻

- ・ グローバルな舞台で活躍できる人材を育成するために、全ての授業は英語にて提供される。1 年次科目として「Introduction」ならびに「GS Research Methods」を配置し、各自の研究がどのような意義を持ち、またその遂行にはどのような方法論を選択する必要があるかを修得する。
- ・ 1 年次から演習を配置し、主・副担当教員からの助言と指導をもとに、研究遂行にあたって必要な基礎知識を修得し、自らの研究テーマに関わる分析力・考察力を養い、英語で修士論文を作成する。
- ・ 既存の国際学部グローバルスタディーズ学科に対応し、グローバルスタディーズを「グローバルイゼーション」、「コミュニケーション」、「エシックス」の 3 領域からなる研究分野であると定義する。そのうえで、これらの領域が複合的に重なりあう部分に呼応する研究テーマをそれぞれの大学院生が設定し、それらの課題を広さと深さを併せ持つ形で探求するような授業内容とする。

（3）言語コミュニケーション専攻

- ・ 1 年次には「第二言語習得」に関わる質的・量的調査法に関わる基礎科目を必修として配置し、研究方法に関する基礎を修得する。
- ・ 「通訳・翻訳」、「英語教育学」、「応用言語学」の 3 領域に関わる重点科目を系統的に配置し、言語教育の研究に関わる理論的・実践的基盤を培う。

- ・ 1年次から演習を必修として配置し、主・複指導教員の指導・助言を受けながら、研究を遂行する専門的知識や方法を修得し、自らの研究テーマに関わる分析力・考察力を養い、英語で修士論文を作成する。

【博士後期課程】

（１）国際文化学専攻

- ・ 演習指導を通じて、専門的知識をさらに深めるのみならず、複合的・学際的視点を用いて、設定したテーマにアプローチできるための幅広い学術的研鑽を積み重ねる。
- ・ 研究科内外での学会や研究会において発表を行い、内外の研究者との交流を深めるとともに、将来自立した研究者となるために必要なさまざまな能力を構築する。
- ・ 先行研究によっても十分解明されていない論点について学術的にも貢献できるように、研究の射程ならびに研究の方法論について独自の視点をもてるようにする。
- ・ 1年次から演習を配置し、主・副担当教員からの助言と指導をもとに、自らの研究テーマに関わる分析力・考察力を養い、博士論文を作成する。

（２）グローバルスタディーズ専攻

- ・ 演習指導を通じて、専門的知識をさらに深めるのみならず、人文学の視座を中心にした複合的・学際的視座から、設定したテーマにアプローチできるための幅広い学術的研鑽を積み重ねる。
- ・ 研究科内外での学会や研究会において発表を行い、内外の研究者との交流を深めるとともに、将来自立した研究者となるために必要なさまざまな能力を構築する。
- ・ 1年次に「PhD Research Seminar」を配置し、研究成果を効果的に発信するために必要なスキルと方法を学び、自立した研究者となるための能力を涵養する。
- ・ 1年次から演習を配置し、主・副担当教員からの助言と指導をもとに、自らの研究テーマに関わる分析力・考察力を養い、英語で博士論文を作成する。

2. 教育研究の柱となる領域（分野）

（１）国際文化学専攻

国際文化学専攻では、相互依存が一層著しく進む今の世界において、文化という視点から専門性と実践能力を身につけた人材を養成することを目的とする。現在の世界が直面する新たな諸現象に対応すべく、これまで比較的軽視されてきた文化という視点から斬新な研究を展開し、来たる次の時代を担うことができる人材が必要とされている。そのため、本専攻では、文化が国際関係の諸領域にもたらす変化を読み取り、その成果と負の側面の両方に目を向け、時代の進展に対応する新たな課題を設定し、かつそれを乗り越えていくことのできる人材を養成するための研究・教育を展開する。

専攻名	学問領域（分野）
国際文化学専攻	比較文化学、宗教学、言語学、 文化人類学・民俗学

（２）グローバルスタディーズ専攻

グローバルスタディーズ専攻では、既存の国際学部グローバルスタディーズ学科の基本理念を継承し、グローバルな視点から多様な価値観を捉え直し、相互に関連を深める国際情勢を「グローバリゼーション」、「エシックス」、「コミュニケーション」をキーワードにして、歴史・地域・社会・倫理などの人文学的な視座を中心に大局的に分析し、そこからグローバル化の課題と展望を導きだすとともに、問題解決に向けて行動することに重点を置いて教学を展開する。とりわけ「エシックス」を重視することは龍谷大学の建学の精神を具体化するにあたって重要である。グローバルな諸課題においては、常に複数の価値基準による異なった正当化の議論が展開されがちである。それらの議論を理解するには、東洋・西洋の宗教を含むさまざまな思想を明らかにし、複数の価値観を前提とする正義の構築によってこそ、立場が異なる関係者にとって本当の共生への扉が開かれるであろう。

また、グローバルスタディーズ専攻は、全ての授業を英語で提供することで、国内外からの入学者を積極的に多く受け入れることでグローバルな環境のなかでの研究を促進する。

専攻名	学問領域（分野）
グローバルスタディーズ専攻	歴史学、人文地理学、政治学（国際関係）、 倫理学、言語学

(3) 言語コミュニケーション専攻

言語コミュニケーション専攻では、グローバル化が進展し相互関連を深める国際社会を言語やコミュニケーションの観点から考察することで、グローバル化の課題と展望を導き出すとともに、言語やコミュニケーションの分野における問題解決に向けて行動することに重点を置いて教学を展開する。

具体的には、中学校・高等学校英語教員（専修免許）としてより深い専門性を獲得するための「英語教育学」領域、通訳・翻訳者などの高度の専門的職業人を目指す「通訳・翻訳」領域、そして言語教育の研究者を目指す「応用言語学」領域の3つを柱として研究・教育を展開する。これに加えてそれぞれの領域を包摂し、グローバル社会を見通しながら国内外の社会で活躍するために不可欠な視点を提供する「Global Ethics & History」領域を設定する。

専攻名	学問領域（分野）
言語コミュニケーション専攻	言語学、コミュニケーション学

3. 教育課程編成の基本方針 【修士課程】

中央教育審議会答申「新時代の大学院教育－国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて－」（平成17（2005）年9月5日）によると、大学院に求められる人材養成機能のひとつとして、「知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある人材の養成」があげられている。国際学研究科においてもこうした答申を踏まえ、グローバル化する社会のなかで活躍する人材の育成に向けて、学際的な知識の修得と、複合的な視点から諸問題にアプローチできる高い知見を獲得できる教育課程編成を基本方針とする。そのため、多くの授業が複数の教員の協力・共同体制によって提供され、高度で専門的な学修を深めるとともに、領域横断的・分野横断的な学術的知識や研究方法の修得を可能にする編成とする。演習科目については、研究科内の3専攻（国際文化学専攻、グローバルスタディーズ専攻、言語コミュニケーション専攻）全てに共通して、主たる指導教員が修士論文の完成および専門的知識の獲得を目指す指導の責任を担いながらも、それに加えて副指導教員となる教員らを含めた共同体制によって指導が進められる。これにより、全ての大学院生が複数の教員の指導を受けながら、専門的な研究を進められる体制とする。

さらには、各大学院生が興味・関心を有する特定の事象に関して、より密度の濃い指導を行うことを目的として、国際文化学専攻およびグローバルスタディーズ専攻については、演習（I～IV）を3単位科目として提供する。これにより演習指導の充実化をはかるとともに、専門的知識の教育をより集中的に行うことができる編成とする。

(1) 国際文化学専攻

国際文化研究を5つの領域（「日本」、「共生社会」、「言語文化」、「宗教文化」、「芸術・メディア」）からなる学問分野と位置付け、幅広く学問的方法論を身につけることができるような科目配置をおこなう。そのうえで、指導教員が責任をもって演習をおこない、それぞれの領域の他の教員と協力しつつ指導する。これらを通じて、専攻や研究科の枠組みを超えて研究活動をおこない、国内外の開かれた学問社会との交流によって、広く研究活動をおこなうことができる次代の高度の専門的職業人や研究者となる人材を育成する。

1) 5領域による専門性や能力の修得

国際文化学専攻のカリキュラムは「日本」、「共生社会」、「言語文化」、「宗教文化」、「芸術・メディア」の5領域を軸として構成され、それぞれの領域ごとに応用科目を配置する。これにより、系統のかつ分野横断的な履修を促進する。

2) 多様な言語の修得機会の提供

国際文化学専攻では英語力の向上を重視しつつも、アジア、ヨーロッパなどの各地域のさまざまな言語とその背景にある文化の修得の機会を広げ、そうした文化的多様性をもつ世界の理解に重点を置く。そのため、第二外国語・第三外国語の履修を促進し、それを専門科目と連動させることのできるカリキュラムを提供する。

3) 龍谷大学大学院横断プログラムとの提携

龍谷大学の三研究科により、地域研究の実践と専門分野の分析手法の修得を目指すアジア・アフリカ総合研究プログラムがこれまで展開されてきた。今回の改組後も引き続きこのプログラムとの連携を図り、他の研究科の教員・大学院生との共同の学修を奨励し、京都学舎の教育資源を有効に活用する。【資料 4. アジア・アフリカ総合研究プログラム案内冊子（2018年度入学生向け）】

4) 複数の専任教員によるチーム・ティーチング

「演習Ⅰ～Ⅳ」については、指導教員を中心として、副指導教員が従来以上に重点的に関わる体制とする。また、大学院生の研究対象となる領域の教員も指導に加わることで、学際的・複合的な視点からの多角的な指導をおこなう。一方、応用科目についても、5領域が提供するそれぞれの科目が、複数の専任教員によって運営されることで学際性を担保する。これにより自己の文化への理解を基軸としながら、異文化を理解・尊重し、複合的な視点から解決方法を導く能力を涵養する。

(2) グローバルスタディーズ専攻

20 世紀の終盤から急速に展開するグローバル化の中で、世界はますます多様化・流動化すると同時に相互依存関係を強め、多くの重層的・複合的な諸課題に直面している。このような状況の中で、不確実な未来を切り開きグローバル社会に貢献できる人材、すなわち多様な価値観や相互の関係性を倫理的に理解しながら、高度な専門的知識や能力をもち、国際的な舞台でリーダーシップを発揮して活躍できる人材の育成が急務である。

グローバルスタディーズ専攻では、上記のような人材の育成を達成するために、次のような特色をもったプログラムを提供する。

1) 国際的な研究や活動に裏打ちされた教員による教育

国際的な舞台で研究・活動を進めている専任教員の責任体制のもとで教育が進められる。本専攻教員の内、60%以上は海外で大学院の学位（修士号もしくは博士号）を取得しており、またほとんどの教員が国際的な舞台で英語を使用して研究成果を公開している。

2) 英語のみで修了可能なプログラムの設置

本専攻の科目は、英語のみで運営される。導入科目の役割を果たす「基礎科目」を含めた全ての科目が英語で提供され、修士論文の執筆も英語で行われる。これにより、これまでは本学での学びを希望するものの、日本語能力を障壁として、受け皿になることが出来ていなかった日本語を母語としない海外からの留学生にも門戸を開くこととなる。

3) 海外の大学院との提携

本専攻は、海外の大学院と連携した教育制度の整備を検討している。演習指導の一環として、長期休暇期間中などに海外の大学院を訪問し、フィールドワークや研究発表を行うなどの研究交流を行える体制の構築を目指す。このような施策により、大学院生がグローバルな舞台で活躍できるための教育を徹底する。

(3) 言語コミュニケーション専攻

言語コミュニケーション専攻では、社会の急速なグローバル化の進展と複雑化する国際的環境において、中学校・高等学校英語教員（専修免許）、通訳・翻訳者などの高度の専門的職業人あるいは研究者として、高い語学力や専門知識だけでなく、対話力、分析・考察力、課題探求力をもって国内外の社会においてリーダーとして活躍できると同時に、他者に対する理解力や寛容さ、あるいは柔軟性と批判的精神をもって相互理解や多文化理解を積極的に推進することができる人材の育成を目的とする。

グローバル社会の中で求められる新たな英語教育の展開に貢献するために、言語コミュニケーション専攻には教員養成課程を設置し、英語教員としての高度な専門性や実践的能力だけでなく、グローバルな視点から多様な価値観を捉え直すとともに、相互に関連を深める国際情勢を複眼的な視点から総合的・大局的に分析し、問題解決に向けて高い英語力・対話力をもって積極的に行動できるリーダーを育成する。

1) 国際的な研究や活動に裏打ちされた教員による教育

国際的な舞台で研究・活動を進めている専任教員の責任体制のもとで教育が進められる。本専攻教員の内、85%は海外で大学院の学位（修士号もしくは博士号）を取得しており、またほとんどの教員が国際的な舞台で英語を使用して研究成果を公開している。

2) 英語による科目、または日本語＋英語科目による授業の提供

グローバル化する時代における言語コミュニケーションに関わる研究では、高度な英語能力は必須と言える。そのため、言語コミュニケーション専攻の科目は5割以上が英語で開講され、またその他の科目についても日本語＋英語で行われる科目が多数配置される。

4. 科目区分の設定および科目構成とその理由【修士課程】

(1) 国際文化学専攻

第1、第2セメスターでは、専門的な研究能力の確立と、調査の方法論を修得することを目的とした科目を配置する。そのために、「国際文化学」、「調査方法論」、「リサーチセミナーA・B」を基礎科目として配置し、必修とする。応用科目として5つの領域から、それぞれ「日本研究A・B」、「共生社会研究A・B」、「言語文化研究A・B」、「宗教文化研究A・B」、「芸術・メディア研究A・B」の科目を提供する。さらに、「演習」は複数の専任教員による指導の機会となり、5領域の内容を踏まえた専門的・実践的な研究が進められるようにする。

【資料5. 国際学研究科修士課程国際文化学専攻のカリキュラム概念図】

国際文化学専攻の科目区分の設定および科目構成は下表のとおりである。

(国際文化学専攻の科目区分一覧)

科目群	修了要件単位数	備考
基礎科目	8 単位必修	国際文化学、調査方法論、リサーチセミナー A・B〔各 2 単位〕
演習科目	12 単位必修	演習 I～Ⅳ (各 3 単位)
応用科目	10 単位以上	5 領域 (日本研究、共生社会研究、言語文化 研究、宗教文化研究、芸術・メディア研究) から 2 領域を選択して重点的に履修し (計 4 科目: 8 単位)、その他の領域からの 1 科目 (2 単位) も加えて、5 科目 (10 単位) 以上を修 得する
修士論文	——	
合計	30 単位以上	

*アジア・アフリカ総合研究プログラムの修了要件は上記の要件を踏まえ、さらに下の要件を満たすものとする。

1. 特別演習 2 単位 「アジアアフリカ総合研究特別演習」〔2 単位〕
2. プログラム科目 (地域研究科目 + 総合研究科目) 10 単位
(このうち、地域研究科目から 4 単位以上履修のこと。)

<開講科目>

1) 基礎科目

科目名	単位	必修・選択	備考
国際文化学	2	必修	
調査方法論	2	必修	
リサーチセミナーA	2	必修	GS 専攻と共同開講
リサーチセミナーB	2	必修	GS 専攻と共同開講

2) 演習科目

科目名	単位	必修・選択	備考
演習 I	3	必修	
演習 II	3	必修	
演習 III	3	必修	
演習 IV	3	必修	

3) 応用科目

科目名	単位	必修・選択	備考
日本研究 A	2	選択	日本研究領域 (AA プログラム地域研究科目)
日本研究 B	2	選択	日本研究領域 (AA プログラム総合研究科目)
共生社会研究 A	2	選択	共生社会研究領域 (AA プログラム地域研究科目)
共生社会研究 B	2	選択	共生社会研究領域 (AA プログラム総合研究科目)
言語文化研究 A	2	選択	言語文化研究領域 (AA プログラム地域研究科目)
言語文化研究 B	2	選択	言語文化研究領域 (AA プログラム地域研究科目)
宗教文化研究 A	2	選択	宗教文化研究領域 (AA プログラム総合研究科目)
宗教文化研究 B	2	選択	宗教文化研究領域 (AA プログラム地域研究科目)
芸術・メディア研究 A	2	選択	芸術・メディア研究領域 (AA プログラム地域研究科目)
芸術・メディア研究 B	2	選択	芸術・メディア研究領域 (AA プログラム地域研究科目)
民際学概論	2	選択	(AA プログラム総合研究科目)
民際学理論研究	2	選択	(AA プログラム総合研究科目)
アジア経済史研究	2	選択	(AA プログラム地域研究科目)
フィールド調査研究	2	選択	(AA プログラム総合研究科目)
アフリカ社会論研究	2	選択	(AA プログラム地域研究科目)
アジアアフリカ総合研究特別演習	2	選択	AA プログラム必修科目

* AA プログラム： アジア・アフリカ総合研究プログラム

1) 基礎科目 (8 単位)

国際文化学の基礎知識を修得し、文化理解と文化交流を促進するために必要な専門知識と実践能力を修得するため「国際文化学」(2 単位)と「調査方法論」(2 単位)を基礎科目として配置し、必修の科目とする。また教員と大学院生さらには大学院生相互間の知識共有の場として「リサーチセミナーA・B」(各 2 単位)を配置し、各自の研究テーマを論理的に提供することのできる能力育成の機会とする。

2) 演習科目 (12 単位)

大学院生が個別に設定したテーマによる修士論文の完成を目指す研究を進めるために、演習を各セメスターに配置する。演習は、各領域に所属する複数の教員によって指導されることで、学際的な環境のなかで研究を進めることができる配置とする。演習指導の充実化を目的として、主・副の複数の指導教員による演習指導の時間を十分に確保するために各セメスターの演習を 3 単位科目として開講する。主指導教員の演習を毎週、副指導教員の演習を隔週、それぞれ 1 コマずつ配置し、研究テーマに対して複数の学問的知見や方法論からアプローチできる指導体制とする。

3) 応用科目 (10 単位以上)

大学院生は、「日本」、「共生社会」、「言語文化」、「宗教文化」、「芸術・メディア」の 5 領域の内から 2 領域を重点的に選択し、その他 1 領域を加えて、4 セメスターを通じて 5 科目(10 単位)以上を受講する。5 つの領域は、現代世界の諸課題を文化の視点から理解し、異文化間の対話や交流の可能性を追求することのできる構成として設定されている。

4) 修士論文

上記の 5 領域のいずれかに特化しながらも、複数の領域に関連する横断的なテーマを論じる修士論文の提出を修了要件とする。国際文化に関する研究にとって、複数言語による資料を扱うことは必須であるため、英語に限らずさまざまな言語の資料を参照したうえで作成された論文の完成が求められる。公開の論文審査委員会には、主たる指導教員が審査においては主査とならず、研究科内の教員に加えて、他研究科および学外の専門研究者を招聘することで、学位授与の透明性を高めるとともに、厳格化をはかる。また、優秀論文選考会を実施し、優秀論文の選出を行う。

(2) グローバルスタディーズ専攻

第 1、第 2 セメスターでは、グローバルスタディーズに関する基礎的な学術知識の獲得および研究遂行のための方法論の知識修得を目的として「Introduction」、「GS Research

Methods」を基礎科目として配置し、必修の科目とする。応用科目は、「グローバリゼーション」、「エシックス」、「コミュニケーション」の各領域から複数科目が提供され、大学院生が各自の研究内容と関心に沿った形で履修を行える体制を整える。また、各領域から 1 科目（2 単位）以上の履修を要件とすることで、領域横断的な観点からグローバルな諸課題にアプローチできるような配置とする。「演習」は複数の専任教員による指導の機会となり、グローバルな諸課題に関して専門的かつ分野横断的な研究を進められるようにする。

【資料 6. 国際学研究科修士課程グローバルスタディーズ専攻のカリキュラム概念図】

グローバルスタディーズ専攻の科目区分の設定及び科目構成は下表のとおりである。

（グローバルスタディーズ専攻の科目区分一覧）

科目群	修了要件単位数	備 考
基礎科目	8 単位必修	Introduction, GS Research Methods, リサーチセミナーA・B [各 2 単位]
演習科目	12 単位必修	演習Ⅰ～Ⅳ（各 3 単位）
応用科目	10 単位以上	Globalization, Ethics, Communication の各領域から 1 科目（2 単位）以上の履修を必修
修士論文	———	
合計	30 単位以上	

<開講科目>

1) 基礎科目

科目名	単位	必修・選択	備考
Introduction	2	必修	
GS Research Methods	2	必修	
リサーチセミナーA	2	必修	IC 専攻と共同開講
リサーチセミナーB	2	必修	IC 専攻と共同開講

2) 演習科目

科目名	単位	必修・選択	備考
演習Ⅰ	3	必修	
演習Ⅱ	3	必修	
演習Ⅲ	3	必修	
演習Ⅳ	3	必修	

3) 応用科目

科目名	単位	必修・選択	備考
Globalization of Education	2	選択	Globalization 領域
Global History	2	選択	Globalization 領域 LC 専攻への提供科目
Globalization and Area Studies	2	選択	Globalization 領域
Anthropology and Social Movements	2	選択	Globalization 領域
Global Ethics	2	選択	Ethics 領域 LC 専攻への提供科目
Geography of Sustainability	2	選択	Ethics 領域
Geography and Global Inequality	2	選択	Ethics 領域
Globalization, Conflict and Justice	2	選択	Ethics 領域
English as a Medium of Instruction in Global Education	2	選択	Communication 領域 LC 専攻からの提供科目
Language, Power & Identity	2	選択	Communication 領域 LC 専攻からの提供科目
Communication Studies	2	選択	Communication 領域 LC 専攻からの提供科目

1) 基礎科目 (8 単位)

第 1、第 2 セメスターに、「Introduction」、「GS Research Methods」、「リサーチセミナー A・B」を基礎科目として配置し、必修の科目とする。「Introduction」は、グローバルスタディーズに関する基礎的な学術知識の修得と、既存の研究成果に対する批判的視点の涵養を目的とする。「GS Research Methods」は、研究遂行に必要な方法論の修得を目的とし、質的研究・量的研究の双方にかかわる理論と実践方法を修得する。どちらの科目も複数教員によるオムニバス形式で開講し、学際的・複合領域的な視座からグローバルスタディーズに関連する研究を発展させるために必要な知識と方法を体系的に修得する。「リサーチセミナー A・B」は、大学院生が各自の研究の成果・進捗状況を指導教員ならびに他の大学院生に対して報告し、批判を仰ぐことで、自らの研究のさらなる展開をはかる科目として開講する。「Introduction」、「GS Research Methods」については、授業・レポート等も含めてすべて英語で、「リサーチセミナー A・B」については IC 専攻と共同して開講するため、日本語＋英語での開講となる。

2) 演習科目 (12 単位)

大学院生が個別に設定したテーマによる修士論文の完成を目指す研究を進めるために、演習を各セメスターに配置する。演習は、研究テーマにふさわしい複数の教員によって指導されることで、学際的な環境のなかで研究を進めることができる配置とする。演習指導の充実化を目的として、主・副の複数の指導教員による演習指導の時間を十分に確保するために各セメスターの演習を 3 単位科目として開講する。主指導教員の演習を毎週、副指導教員の演習を隔週、それぞれ 1 コマずつ配置し、研究テーマに対して複数の学問的知見や方法論からアプローチできる指導体制とする。

3) 応用科目 (10 単位以上)

グローバルスタディーズに関連する諸問題を多様な視点から研究するための科目を配置する。応用科目群は、国際学部グローバルスタディーズ学科の領域を引き継ぎ、「グローバリゼーション」、「エシックス」、「コミュニケーション」の 3 領域に分けて配置される。複合的・多角的な視点からの研究を促進するために、各領域から 1 科目 (2 単位) 以上の履修を必須とする。コミュニケーション領域の科目は、言語コミュニケーション専攻からの提供科目となる。4 セメスターを通じて、5 科目 (10 単位) 以上を履修する。

4) 修士論文

英語による修士論文の執筆を修了要件とする。グローバルな諸課題に関して、批判的かつ論理的な議論を展開することが目的となる。また、英語による執筆ではあるものの、研究対象となる国・地域の一次資料を参照することも必要となるため、多くの場合において英語以外の外国語能力も問うこととなる。論文審査委員会には、主たる指導教員が審査においては主査とならず、研究科内の教員に加えて、他研究科および学外の専門研究者を招聘することで、学位授与の透明性を高めるとともに、厳格化をはかる。また、優秀論文選考会を実施し、優秀論文の選出を行う。

(3) 言語コミュニケーション専攻

第 1、第 2 セメスターに、「Research Methods A・B」を配置し、言語コミュニケーションに関する量的・質的調査法を修得し、関連する学問領域の基盤を養う。その上で、「応用科目」に関しては、第 1 セメスターから第 4 セメスターまでに配置し、より高度な内容の科目は第 3、第 4 セメスターを中心に配置する。第 1、第 2 セメスターには、それら科目を学ぶまでに身に付けるべき知識を学修するための科目、学際的な素養を身に付けるための科目を配置する。

履修に関しては、自らの興味・関心や将来の進路設計に従って「通訳・翻訳」、「英語教育学」、「応用言語学」の 3 領域を中心にして計画を立て、それを踏まえてその他の関連あ

る学際的な知識を学修し、自らの学修・研究に深みを加えられるようにした。

修士課程の演習科目は第1セメスターから第4セメスターまで継続的に配置し、主たる指導教員および複数教員から継続的に指導を受けることができる構成とする。

【資料7. 国際学研究科修士課程言語コミュニケーション専攻のカリキュラム概念図】

言語コミュニケーション専攻の科目区分の設定および科目構成は以下のとおりである。

(言語コミュニケーション専攻の科目区分一覧)

科目群	修了要件単位数	備 考
基礎科目	4 単位必修	Research Methods A・B (各 2 単位)
演習科目	8 単位必修	言語コミュニケーション演習 Ⅰ～Ⅳ (各 2 単位)
応用科目	20 単位以上	
修士論文	——	
合計	32 単位以上	

<開講科目>

1) 基礎科目

科目名	単位	必修・選択	備考
Research Methods A	2	必修	
Research Methods B	2	必修	

2) 演習科目

科目名	単位	必修・選択	備考
言語コミュニケーション演習 Ⅰ	2	必修	
言語コミュニケーション演習 Ⅱ	2	必修	
言語コミュニケーション演習 Ⅲ	2	必修	
言語コミュニケーション演習 Ⅳ	2	必修	

3) 応用科目

科目名	単位	必修・選択	備考
通訳・翻訳研究 A	2	選択	
通訳・翻訳研究 B	2	選択	
日英通訳・翻訳研究	2	選択	
通訳・翻訳セミナー	2	選択	
Psychology and Language Learning	2	選択	
外国語学習方法論	2	選択	
言語政策論	2	選択	
Language Testing and Assessment	2	選択	
Pragmatics in Language Learning and Teaching	2	選択	
Communication Studies	2	選択	GS 専攻への提供科目
Language, Power & Identity	2	選択	GS 専攻への提供科目
English as a Medium of Instruction in Global Education	2	選択	GS 専攻への提供科目
Global History	2	選択	GS 専攻からの提供科目
Global Ethics	2	選択	GS 専攻からの提供科目

1) 基礎科目 (4 単位)

量的・質的調査法に関する基礎科目「Research Methods A・B」を必修として配置し、言語コミュニケーションに関わる研究において必要とされる科学的な研究方法を体系的に修得し、複合的な視座から方法論を学修する。「Research Methods A」では量的研究に関する理論・方法論、「Research Methods B」では質的調査による実証研究に関する方法、分析・検証・解釈などについて学修する。

2) 演習科目 (8 単位)

修士論文の執筆を最終的な目的として個別に設定されたテーマの研究を進めるために、各セメスターに演習を配置する（「言語コミュニケーション演習Ⅰ～Ⅳ」）。演習は、各大学院生が設定したテーマに関する修士論文の完成に向けた研究を進めるための科目であり、複数の専任教員（主・副指導教員）の指導のもとで、専門的な知識や方法の修得、データの収集・分析、独創的な議論の提起などを通じて、学際的な分析力・考察力、主体的・自律的な研究遂行力の修得を目指す。

3) 応用科目 (20 単位以上)

言語コミュニケーション専攻では、育成する人材像に鑑み、言語コミュニケーションに関連する高い専門性を担保するべく、学問分野の基礎として方法論を学ぶ基礎科目を踏まえて、「通訳・翻訳」、「英語教育学」、「応用言語学」の3つの学問領域に関わる科目に加え、異文化理解の領域科目を体系的に配置する。

応用科目のうち、「通訳・翻訳」に関する科目として、「通訳・翻訳研究 A・B」、「日英通訳・翻訳研究」などの科目を、「英語教育学」に関連する科目として「外国語学習方法論」や「Language Testing and Assessment」などの科目、「応用言語学」では「Pragmatics in Language Learning and Teaching」や「Language, Power & Identity」などの科目を配置する。また、異文化理解の領域科目として、「Global Ethics」や「Global History」を配置し、グローバル社会に関する諸課題に関して理解・分析・考察を図る。

これらの科目履修によって、言語コミュニケーションに関する専門的知識と実践力などを涵養し、また国際情勢を複眼的視点から総合的・大局的に分析しうる能力を備えた、グローバル社会の中で求められる新たな人材の育成を図る。

なお、1)～3)に共通する事項として、グローバル化する時代の言語コミュニケーションに関わる研究において、高度な英語能力は必須と言える。そのため、言語コミュニケーション専攻の科目は5割以上が英語で開講され、またその他の科目についても英語・日本語併用で行われる。

4) 修士論文

言語コミュニケーション専攻では、英語による修士論文を修了要件とし、理論的かつ実践的な見地から、言語コミュニケーションに関わる幅広く深い知識とさまざまな研究手法に基づく学際的な分析力・考察力の育成を図る。また、論文審査委員会には、主たる指導教員が審査においては主査とならず、研究科内の教員に加えて他研究科および学外の専門研究者を招聘することで、学位授与の透明性を高めるとともに、厳格化をはかる。また、優秀論文選考会を実施し、優秀論文の選出を行う。

5. 設置の趣旨、専攻の特色を実現するためのコース編成および科目領域編成【修士課程】

(1) 国際文化学専攻

国際文化学専攻では、体系的な教育を展開するため、「日本」、「共生社会」、「言語文化」、「宗教文化」、「芸術・メディア」の5領域を設定し、その内から2領域を重点的に選択し、その他1領域を加えて、4セメスターを通じて5科目(10単位)以上を受講することとする。5つの領域は、現代世界の諸課題を文化の視点から理解し、異文化間の対話や交流の可

能性を追求することのできる構成として設定されている。

「日本」領域では、国家としての狭い枠組みだけではなく、歴史・文化的な広がりを持つ領域としての「日本」を、世界との関係の中で、思想・社会・宗教・民俗などの面から多角的にとらえる。特に、外から見た日本イメージの形成や、比較研究の視点からの文化交流、また伝統文化と現代文化の葛藤と融合などの、「日本」という領域をめぐるダイナミズムに焦点を当てる。

「共生社会」領域では、地球規模で生じる紛争、人の移動、環境をめぐる諸問題を視野に置きつつ、もう一方で日常の社会で起きる出来事にも注目し、共生社会の在り方について考える。そうした人と人との関係、自然と人との関係について、人文学や社会科学における基本的な概念を用いながら、共生社会とは何か、そこでの課題や共生社会を達成するための方策について検討する。これにより自らが一員となるべき共生社会を実現するための基礎的な知識や解決能力を身につける。

「言語文化」領域では、グローバル言語としての英語をはじめ、ヨーロッパの諸言語に加え、アラビア語、ペルシア語などイスラーム系言語、また日本文化に密接な関係のある中国語・コリア語や日本語の言語文化について、大学院生の関心に応じた考察を行う。特に、複数の外国語を研究で活用できる能力を涵養することを目指し、そうした多様な言語が相互交流によってうみだす文化伝播に注目する。

「宗教文化」領域では、本学の建学の基盤である仏教のほか、キリスト教、イスラームの世界三大宗教はじめ、日本の神道、諸宗派、諸思想などについて、固有の聖典の文献学的研究に基づいた研究成果を講義する。また、各宗教が提示してきた美術、芸術などの分野も含めた多面的な宗教事象について考察する。さらに、現代の宗教的多元状況における課題についても可能な限り考慮する。

「芸術・メディア」領域では、美術・音楽・演劇・映画・マンガ・アニメなどのさまざまなジャンルとそれを横断する芸術活動に関する研究に注目する。そうした芸術活動は、地域や国、伝統と現代の枠組みを超えて展開されており、そのようななかで生み出される新たな現象の分析に重点を置く。また、芸術活動を媒介するものとしてのメディアについても重視し、現代におけるマスメディアや SNS などの役割を考察する。さらに、資料保存や文化遺産など、学部で展開する博物館学芸員課程の基礎的テーマについてもより高度な知識を提供する。

(2) グローバルスタディーズ専攻

グローバルスタディーズ専攻の応用科目は、「グローバリゼーション」、「エシックス」、「コミュニケーション」の 3 領域に分けて提供される。領域横断的な知識と研究手法の修得のため、各領域から 1 科目（2 単位）以上の履修を修了要件とする。

「グローバリゼーション」領域は、加速的に進展するグローバル化とそれに関連する諸

課題に対して批判的に考察するための科目を提供する。「Globalization of Education」、「Globalization and Area Studies」はグローバル化の現状を実証的に考察し、「Global History」、「Anthropology and Social Movements」は、現代のグローバル化を歴史的観点および人類学的な観点からアプローチすることで、現代世界の内在的な理解を目的としている。「エシックス」領域の科目は、グローバル化のなかで表面化する諸課題を明らかにするとともに、これからの国際社会が進むべき道程について考察するための科目を提供する。「Global Ethics」、「Geography of Sustainability」、「Geography and Global Inequality」、「Globalization, Conflict and Justice」がこれにあたる。「コミュニケーション」領域科目は、言語コミュニケーション専攻から科目提供をうけ、グローバル化のなかで一段と複雑になるコミュニケーションに関連する課題にアプローチするための科目を開講する。「English as a Medium of Instruction in Global Education」、「Language, Power and Identity」、「Communication Studies」がこれに該当する科目となる。

（３）言語コミュニケーション専攻

言語コミュニケーション専攻の応用科目では、「通訳・翻訳」、「英語教育学」、「応用言語学」の主たる 3 領域に加え、異文化理解の領域科目を提供する。言語コミュニケーションに関する専門的知識の獲得と複合的・多角的視点からの研究を遂行するため、重点的な領域の科目履修に加えて、他領域の科目も幅広く履修するよう設定されている（応用科目 10 科目 20 単位以上）。

「通訳・翻訳」領域の科目は、通訳・翻訳研究における理論や方法、実践に加え、それらを通じた異文化間コミュニケーションにおける言語的・倫理的問題や解決法、また言語教育への通訳・翻訳の導入についても考察する。「英語教育学」領域は、グローバル社会における英語教育の意義や役割を理解すべく、第二言語習得や外国語学習プロセスにおける方法論、言語知識獲得と言語運用能力の発達についての理論やテストに関する専門的知識や実践力を培う科目などを提供する。「応用言語学」領域は、グローバル化が進展するなかで言語や多様化するコミュニケーションが直面する諸問題を考察する科目から構成されている。「Language, Power & Identity」、「Communication Studies」、「言語政策論」がこれに当たる。異文化理解の領域科目は、グローバルスタディーズ専攻から科目提供をうけ、グローバル化が進展し相互関係を深める国際情勢に関連する諸課題にアプローチするための科目を開講する。該当科目としては「Global History」、「Global Ethics」である。

6. 9月入学の受け入れに伴う教育体制について【修士課程】

【資料 8. 4月入学・9月入学生の基本科目・演習科目の履修について】

（1）国際文化学専攻

国際文化学専攻では、海外から多様な人材を確保することなどを目的に 4 月入学のほかに 9 月入学での学生受け入れをおこなう。入学時期による定員設定は行わない。4 月入学者は基礎科目のうち、1 セメスターに「国際文化学」、2 セメスターに「調査方法論」を履修する。また、リサーチセミナーは A、B の順で履修をする。9 月入学者は、1 セメスターに「調査方法論」を受講し、2 セメスターで「国際文化学」を履修する。またリサーチセミナーは B、A の順で履修をする。リサーチセミナー A・B では、研究の進捗状況に応じて発表順を検討するなど新入生にも配慮する。このことから、9 月入学の実施に伴う、教員および学生への負担は生じない。

（2）グローバルスタディーズ専攻

グローバルスタディーズ専攻では、海外から多様な人材を確保することなどを目的に 4 月入学のほかに 9 月入学での学生受け入れをおこなう。入学時期による定員設定は行わない。4 月入学者は基礎科目のうち、1 セメスターに「Introduction」、2 セメスターに「GS Research Methods」を履修する。また、リサーチセミナーは A、B の順で履修をする。9 月入学者は、1 セメスターに「GS Research Methods」を受講し、2 セメスターで「Introduction」を履修する。またリサーチセミナーは B、A の順で履修をする。リサーチセミナー A・B では、研究の進捗状況に応じて発表順を検討するなど新入生にも配慮する。このことから、9 月入学の実施に伴う、教員および学生への負担は生じない。

（3）言語コミュニケーション専攻

言語コミュニケーション専攻では、海外から多様な人材を確保することなどを目的に 4 月入学のほかに 9 月入学での学生受け入れをおこなう。入学時期による定員設定は行わない。4 月入学者は基礎科目のうち、1 セメスターに「Research Methods A」、2 セメスターに「Research Methods B」を履修する。9 月入学者は、1 セメスターに「Research Methods B」を受講し、2 セメスターで「Research Methods A」を履修する。このことから、9 月入学の実施に伴う、教員および学生への負担は生じない。

7. 教育課程編成の基本方針と実施方針 【博士後期課程】

(1) 国際文化学専攻

一層多様化しつつある国際社会にあつては、国際文化研究の意義について十分に理解し、新たな知の領域を切り開くことのできる人材が必要とされている。博士後期課程においては、修士課程の学修で身に付けた深い学識と研究能力、フィールドワークを通じて得た知見・技能・経験を土台とし、高度で国際的な水準の創造的研究を行うことのできる自立した研究者となる人材を育成することを主目的とした教育を展開する。

(2) グローバルスタディーズ専攻

グローバル化が加速的に進展する国際社会において、高度の専門的職業人および国際的な舞台で活躍できる研究者を育成するためには、国際社会が抱える諸課題を複眼的な視点から大局的に分析し、そこからグローバル化の課題と展望を導き出すとともに、問題解決に向けた実践的な行動を起こすことができる人材を育成する必要がある。そのためには、より多様な課題に対して複眼的・大局的な問題設定と研究が必要とされるため、修士課程では別専攻としているグローバルスタディーズ専攻と言語コミュニケーション専攻を融合させ、博士後期課程はグローバルスタディーズ専攻に統合する。これにより、グローバルスタディーズを「グローバリゼーション」、「エシックス」、「コミュニケーション」という3領域が重なり合う研究領域としてとらえ、学部から博士後期課程まで一貫した問題意識の涵養と研究遂行を可能な体制とする。それにより、修士課程の学修で身に付けた研究能力と学術的・実践的議論を展開できる外国語能力をもつ、高度で国際的な水準の創造的研究を行うことのできる自立した研究者となる人材を育成することを主目的とした教育を展開する。

8. 科目区分の設定および科目構成とその理由 【博士後期課程】

(1) 国際文化学専攻

国際文化学専攻の科目区分の設定及び科目構成は下表のとおりである。

(国際文化学専攻の科目区分一覧)

科目群	修了要件単位数	備考
演習科目	12 単位必修	演習Ⅰ～Ⅵ (各 2 単位)
博士論文	——	
合計	12 単位	

1) 演習Ⅰ～Ⅵ

科目名	単位	必修・選択	備考
演習Ⅰ	2	必修	
演習Ⅱ	2	必修	
演習Ⅲ	2	必修	
演習Ⅳ	2	必修	
演習Ⅴ	2	必修	
演習Ⅵ	2	必修	

1) 演習Ⅰ～Ⅵ (12単位)

高度な水準の創造的研究を自立的に遂行できる研究者を養成するために、演習を各セメスターに配置する。演習は、主指導教員・副指導教員の複数教員が常に関与し、学際的な環境のなかでの研究を進めることができる構成とする。

2) 博士論文

博士論文を提出し、審査に合格することを修了要件とする。博士論文の審査委員会には、国際文化学専攻および国際学研究科内の教員のみならず、他研究科や学外の専門研究者を招聘することで、学位授与の透明性を高めるとともに、厳格化をはかる。

なお、国際的または全国的規模の学会誌に審査を経て掲載された論文があることを博士論文の提出資格とする。これにより、学外の専門家のなかでも評価を受けていることを確認し、博士号取得者の研究者としての質を保証することとなる。

(2) グローバルスタディーズ専攻

グローバルスタディーズ専攻の科目区分の設定及び科目構成は下表のとおりである。
(グローバルスタディーズ専攻の科目区分一覧)

科目群	修了要件単位数	備考
演習科目	12 単位必修	演習Ⅰ～Ⅵ (各 2 単位)
基礎科目	2 単位必修	PhD Research Seminar
博士論文	——	
合計	14 単位	

1) 演習Ⅰ～Ⅵ

科目名	単位	必修・選択	備考
演習Ⅰ	2	必修	
演習Ⅱ	2	必修	
演習Ⅲ	2	必修	
演習Ⅳ	2	必修	
演習Ⅴ	2	必修	
演習Ⅵ	2	必修	

2) 基礎科目

科目名	単位	必修・選択	備考
PhD Research Seminar	2	必修	

1) 演習Ⅰ～Ⅵ (12単位)

高度な水準の創造的研究を自立的に遂行でき国際的な舞台で活躍できる研究者を養成するために、演習を各セメスターに配置する。演習は、主指導教員・副指導教員の複数教員が常に関与し、学際的な環境のなかでの研究を進めることができる構成とする。

2) PhD Research Seminar (2単位)

研究者になるために必要なスキルおよび方法を学ぶための「PhD Research Seminar」を必修として配置する。この科目を通じて、学術論文として外部に成果を公表するためのスキルや、アカデミックな内容のプレゼンテーション能力の涵養を目指す。

3) 博士論文

英語による博士論文の執筆を修了要件とする。グローバルな諸課題に関して、批判的かつ論理的な議論を展開することが目的となる。また、英語による執筆ではあるものの、研究対象となる国・地域の一次資料を参照することも必要となるため、多くの場合において英語以外の外国語能力も問うこととなる。博士論文の審査委員会には、研究科内の教員のみならず、他研究科および学外の専門研究者を招聘することで、学位授与の透明性を高めるとともに、厳格化をはかる。なお、国際的または全国的規模の学会誌に審査を経て掲載された論文があることを博士論文の提出資格とする。これにより、学外の専門家のなかでも評価を受けていることを確認し、博士号取得者の研究者としての質を保証することとなる。

9. 9月入学の受け入れに伴う教育体制について【博士後期課程】

【資料 8. 4月入学・9月入学生の基本科目・演習科目の履修について】

(1) 国際文化学専攻

国際文化学専攻では、海外から多様な人材を確保することなどを目的に 4 月入学のほかに 9 月入学での学生受け入れをおこなう。入学時期による定員設定は行わない。演習科目は、大学院生の研究内容および指導希望教員に対応して開講することから教員および学生への負担は生じない。

(2) グローバルスタディーズ専攻

グローバルスタディーズ専攻では、海外から多様な人材を確保することなどを目的に 4 月入学のほかに 9 月入学での学生受け入れをおこなう。入学時期による定員設定は行わない。基礎科目である「PhD Research Methods」は、4 月入学生は第 1 セメスターに、9 月入学生は第 2 セメスターに担当し、1 年次のうちに履修が出来るようにする。演習科目は、大学院生の研究内容および指導希望教員に対応して開講する。このことから、教員および学生への負担は生じない。

オ 教員組織の編成の考え方及び特色

1. 国際学研究科教員組織の編成の考え方

国際学研究科の教員組織は、本学の学士教育課程における既存の国際学部（国際文化学科、グローバルスタディーズ学科）の専任教員によって編成される。また、本研究科における教育・研究の継続を担保することを考慮し、博士後期課程を担当する教員は修士課程も担当することとする。

2. 修士課程の教員組織編成

【教員配置の基本的考え方】

(1) 国際文化学専攻

国際文化学専攻の教員組織は、本学の学士課程教育における既存の国際学部国際文化学科の専任教員を中心に編成する。国際文化研究を、「日本」、「共生社会」、「言語文化」、「宗教文化」、「芸術・メディア」という 5 領域からなる複合体と位置づけ、専任教員はいずれかの領域に基盤をおきながら、それらの領域の専門性を教授しつつ、相互の関連についての確に学修できる機会を提供する。これにより大学院生が 5 領域の 1 領域とその他の領域の相互の関連を理解し、結びつける能力を身につけることを目指す。また、英語、フランス語、中国語、韓国語やその他のヨーロッパ・イスラーム系言語に堪能な指導教員群の

下でこれらの言語を学修し、活用できるようにする。

1 年次の基礎科目から、演習、応用科目の全てを専任教員が担当することで、一貫した理念に基づいた体系的な教育を提供する。また「演習Ⅰ」～「演習Ⅳ」については、全ての大学院生に対して、複数の専任教員が指導教員として関与することで、多様な視点からの指導と高い質の修士論文を完成することができる体制とする。

(2) グローバルスタディーズ専攻

グローバルスタディーズ専攻では、高いレベルの学術的知識をもとにした批判的で独創的な観点からグローバルな課題に関する研究の遂行を目的とするため、全ての教員が博士号もしくは PhD の学位保持者であり、国際的な舞台で活躍している教員によって教育が行われる。

1 年次の「Introduction」「GS Research Methods」などの基礎科目および全ての応用科目が専任教員によって英語で提供され、体系的な教育の展開と学修の質を担保する。また、「グローバリゼーション」「コミュニケーション」「エシックス」の全ての領域の応用科目を履修する必要があるカリキュラムとするため、領域横断的・学際的視座からグローバル規模の課題について考察することができる編成となっている。

「演習Ⅰ」～「演習Ⅳ」については、全ての大学院生に対して、専任教員が主および副指導教員として指導にあたることで、多様な視点からの指導と高い質の修士論文を完成することができる体制とする。

(3) 言語コミュニケーション専攻

言語コミュニケーション専攻の教員組織は、本学の学士課程教育における既存の国際学部グローバルスタディーズ学科の専任教員のうち、英語教育学および言語学に関わる専任教員を中心に 6 名で編成される。言語コミュニケーション専攻では、教員の内、85%は海外で大学院の学位（修士号もしくは博士号）を取得し、ほとんどの教員が国際的な舞台で英語を使用して研究成果を公開しており、国際的な舞台で研究・活動を進めている専任教員の責任体制のもとで教育が進められる。

質的・量的調査法に関する基礎科目「Research Methods A・B」では、さまざまな研究方法を体系的に修得し、複合的な視座から方法論を学修するが、この科目ではそれぞれの調査法を専門とする専任教員によって開講される。

演習科目「言語コミュニケーション演習（Ⅰ～Ⅳ）」では、修士論文の執筆に向けて個別に設定されたテーマの研究を進めるために、専門的知識や方法の修得、学際的な分析力・考察力、主体的・自律的な研究遂行力の強化を目的とする。経験豊かな専任教員を配置し、複数教員による指導体制で実施する。

応用科目では、言語コミュニケーションに関連する理論的・実践的基盤の専門性を修得するため、通訳・翻訳、応用言語学、英語教育学の各領域に関する科目を、高度な専門的知識と経験を有する専任教員が担当する。また、グローバルスタディーズ専攻からの提供科目として開講する異文化理解の領域科目は、グローバルスタディーズ専攻の専任教員が担当する。

【教員組織の年齢構成】

各専攻における教員組織の職階・年齢構成は次の通りである。なお、本学では「職員定年規程」において、教授は満 68 歳、准教授・講師・助教・助手は満 65 歳として教育職員の定年を規定している【資料 9. 職員定年規程】。本研究科専任教員のうち、言語コミュニケーション専攻の教員 1 名が完成年度までに定年規程に定められた年齢に達するが、【資料 10. 特別任用教員規程】では、「本学を定年退職した者で、大学院研究科委員会が大学院の講義編成上特に必要と認める者」については満 70 歳を定年としており、本研究科の教員組織もこれらの規程を踏まえた構成としている。当該教員の補充人事については、退職教員の専門領域や担当科目等に配慮したうえで、平成 33 年度に採用を予定している。

（１）国際文化学専攻

国際文化学専攻における教員組織構成は、教授 17 名、准教授 4 名、講師 1 名の計 22 名である。また、開設時の年齢構成は、30 歳代 1 名、40 歳代 4 名、50 歳代 11 名、60 歳代以上 6 名である。

（２）グローバルスタディーズ専攻

グローバルスタディーズ専攻における教員組織構成は、教授 4 名、准教授 2 名、講師 2 名の計 8 名である。また、開設時の年齢構成は、30 歳代 2 名、40 歳代 3 名、50 歳代 2 名、60 歳代以上 1 名である。

（３）言語コミュニケーション専攻

言語コミュニケーション専攻における教員組織構成は、教授 4 名、准教授 0 名、講師 2 名の計 6 名である。また、開設時の年齢構成は、30 歳代 1 名、40 歳代 3 名、50 歳代 1 名、60 歳代以上 1 名である。

3. 博士後期課程の教員組織編成

【教員配置の基本的考え方】

（１）国際文化学専攻

国際文化学専攻の教員組織は、本学の学士課程教育における既存の国際学部国際文化学科および国際文化学専攻修士課程の専任教員を中心に編成する。博士後期課程では、修士課程の学修で身に付けた深い学識と研究能力、フィールドワークを通じて得た知見・技能・経験を土台とし、高度で国際的な水準の独創的な研究を行うことのできる研究者となる人材を育成することが必要となる。そのため、演習（Ⅰ～Ⅵ）の指導を通じて、上記のような人材の育成を行うことができるよう、複数の教員が指導教員（主・副）となって継続的に指導できる体制とする。なお、演習科目においては、高度な教育・研究指導が必要となるため、担当教員には博士論文や専門学術論文の指導経験を有し、研究実績が顕著な専任教員を配置する。

(2) グローバルスタディーズ専攻

グローバルスタディーズ専攻では、高いレベルの学術的知識をもとにした批判的で独創的な観点からグローバルな課題に関する研究の遂行を目的とし、国際的な舞台で活躍している教員によって教育が行われる。

「演習Ⅰ」～「演習Ⅵ」については、全ての大学院生に対して、専任教員が主および副指導教員として指導にあたることで、多様な視点からの指導と高い質の博士論文を完成することができる体制とする。

「PhD Research Seminar」では、研究者となるうえで必要な学術論文執筆のスキルやアカデミックな場での効果的な発表の方法を修得する機会とし、全ての所属教員が携わることで、異なる学問領域におけるニーズに対応するとともに、多様な視点から研究者養成のための教育を遂行することが可能となる。なお、演習科目においては、高度な教育・研究指導が必要となるため、担当教員には博士論文や専門学術論文の指導経験を有し、研究実績が顕著な専任教員を配置する。

【教員組織の年齢構成】

各専攻における教員組織の職階・年齢構成は下記の通りである。なお、本学では「職員定年規程」において、教授は満 68 歳、准教授・講師・助教・助手は満 65 歳として教育職員の定年を規定している。

(1) 国際文化学専攻

国際文化学専攻における教員組織構成は、教授 17 名、准教授 4 名、講師 1 名の計 22 名である。また、年齢構成は、30 歳代 1 名、40 歳代 4 名、50 歳代 11 名、60 歳代以上 6 名である。

(2) グローバルスタディーズ専攻

グローバルスタディーズ専攻における教員組織構成は、教授 7 名、准教授 2 名、講師 4 名の計 13 名である。また、年齢構成は、30 歳代 3 名、40 歳代 6 名、50 歳代 3 名、60 歳代以上 1 名である。

カ 教育方法、履修指導方法、研究指導の方法及び修了要件

1. 授業の方法、大学院生数、配当年次の設定

(1) 授業の方法

1) 国際文化学専攻

国際文化学専攻の授業は、講義と演習から構成される。講義科目として、国際文化学の基礎知識を修得し、文化理解と文化交流を促進するために必要な専門知識と実践能力を修得するための基礎科目「国際文化学」(2 単位)と「調査方法論」(2 単位)(必修)のほか、応用科目として、「日本」、「共生社会」、「言語文化」、「宗教文化」、「芸術・メディア」の 5

領域に関する科目を配置し、大学院生が現代世界の諸課題を文化の視点から理解し、異文化間の対話や交流の可能性を追求することのできる構成としている。

また、演習については、大学院生が個別に設定したテーマによる修士論文の完成を目指す研究を進めるために、演習を各セメスターに配置している。演習は、各領域に所属する複数の教員によって指導されることで、大学院生は学際的な環境のなかで研究を進めることができる。演習指導の充実化を目的として、各セメスターの演習を 3 単位科目として開講する。また、教員と大学院生さらには大学院生相互間の知識共有の場として「リサーチセミナーA・B」(各 2 単位)を配置し、各自の研究テーマを論理的に提供することのできる能力育成の機会としている。

2) グローバルスタディーズ専攻

グローバルスタディーズ専攻の授業は、講義と演習から構成される。講義科目として、第 1、第 2 セメスターに基礎科目として、グローバルスタディーズに関する基礎的な学術知識の修得と、既存の研究成果に対する批判的視点の涵養を目的とした「Introduction」、研究遂行に必要な方法論の修得を目的に、質的・量的研究の双方に関わる理論と実践方法を修得する「GS Research Methods」を必修の科目として配置している。また、応用科目として、大学院生が複合的・多角的視点からの研究を促進できるよう、「グローバリゼーション」、「エシックス」、「コミュニケーション」の 3 領域に分けて専門的科目を配置している。

また、各セメスターに配置される「演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」では、大学院生は修士論文の執筆を最終的な目的として個別に設定されたテーマの研究を進める。専門的知識や方法の修得、学際的な分析力・考察力、主体的・自律的な研究遂行力を強化するべく、後述する研究指導計画書をもとに、主たる指導教員の指導のみならず、複数教員による助言も行い、手厚く、細やかな研究指導を実現する。これにより、理論的かつ実践的な見地から、グローバルスタディーズに関わる幅広く深い知識とさまざまな研究手法に基づく学際的な分析力・考察力の育成を図る。また、「リサーチセミナーA・B」では、各自の研究の成果・進捗状況を他の大学院生に対して報告する機会を提供する。

なお、グローバルスタディーズ専攻の科目はすべて英語で開講され、また、IC と共同で開講されるリサーチセミナーについては、日本語＋英語での開講となる。

3) 言語コミュニケーション専攻

言語コミュニケーション専攻の授業は、講義と演習から構成される。講義科目として、第 1・2 セメスターに配置される質的・量的調査法に関する基礎科目「Research Methods A・B」では、さまざまな研究方法を体系的に修得し、複合的な視座から方法論を学修する。また、応用科目では、「通訳・翻訳」、「英語教育学」、「応用言語学」の 3 領域の重点科目を系統的に配置し、異文化理解の領域に関わる科目は、グローバルスタディーズ専攻からの提供科目として開講し、研究に関する理論的・実践的基盤の専門性を養う。

また、各セメスターに配置される「言語コミュニケーション演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」では、大学院生は修士論文の執筆を最終的な目的として個別に設定されたテーマの研究を進める。専門的知識や方法の修得、学際的な分析力・考察力、主体的・自律的な研究遂行力を

強化するべく、後述する研究指導計画書をもとに、主たる指導教員の指導のみならず、複数教員による助言も行い、手厚く、細やかな研究指導を実現する。これにより、理論的かつ実践的な見地から、言語コミュニケーションに関わる幅広く深い知識とさまざまな研究手法に基づく学際的な分析力・考察力の育成を図る。

なお、グローバル化する時代の言語コミュニケーションに関わる研究において、高度な英語能力は必須と言える。そのため、言語コミュニケーション専攻の科目は 5 割以上が英語で開講され、またその他の科目についても日本語＋英語で多数行われる。

（２）大学院生数

本研究科修士課程の入学定員は 15 名である。専攻別の内訳は、国際文化専攻が 7 名、グローバルスタディーズ専攻が 4 名、言語コミュニケーション専攻が 4 名を予定している。いずれも少人数教育により十分な教育効果が望める人数である。このような定員に対して、修士課程における研究指導教員は、国際文化専攻が 22 名、グローバルスタディーズ専攻が 8 名、言語コミュニケーション専攻が 6 名である。このように、大学院生 1 名当たりに複数の指導教員が付き、綿密で重厚な教育を展開することができる体制となっている。

講義科目に関しても、受講人数は基本的に 4～7 名程度、多くとも 10 名程度を予定しており、細やかな少人数教育が実現できると考えている。演習科目に関しては研究指導教員として入学定員以上の専任教員を確保しているので、充実した研究指導を行うことができると判断している。

一方、博士後期課程の入学定員は 4 名である。専攻別の内訳は、国際文化専攻が 2 名、グローバルスタディーズ専攻が 2 名で、博士後期課程の研究指導教員は、国際文化専攻が 22 名、グローバルスタディーズ専攻が 13 名、を予定している。大学院生 1 名当たりに複数の指導教員が付き、綿密で重厚な指導を展開する体制となっている。

（３）配当年次の設定

修士課程においては、各専攻ともに大学院での学びを段階的に、また着実に深められるよう、各学問領域の基礎的な方法論を 1 年前期と 1 年後期に必修として配置している。また、応用科目については、国際文化学専攻およびグローバルスタディーズ専攻では、1 年次第 1 セメスターから 2 年次第 3 セメスターまで科目を配置している。こうすることで、2 年後期は修士論文に関わるデータ収集、調査、分析、それに基づく執筆に専心することが可能となる。なお、言語コミュニケーション専攻では、専修免許に必要な科目および単位数との関係から 1 年次第 1 セメスターから 2 年次第 4 セメスターまで専門科目を配置している。

また、演習科目は 1 年前期から 2 年後期まで連続的に配置し、入学当初の段階から大学院生に研究スキルを磨かせる。なお、講義時間外、演習時間外においても、調査やデータ収集など積極的に行うことを推奨し、大学院生の学修・研究が円滑に進むように方向付ける。

一方、博士後期課程においては、演習科目を 1 年から 3 年まで連続的に配置することにより、密な研究指導が継続的に可能となるよう配慮している。また、グローバルスタディーズ専攻では、国際的な舞台で活躍する研究者にとって必要なスキルを実践的に学修する機会として、必修として 1 年次に PhD Research Seminar を配置している。

2. 履修指導の方法

本研究科における履修指導は、教員と職員が相互に連携しつつ丁寧に対応する。修士課程においては、入学と同時に大学院生の研究計画・研究テーマに基づいて指導教員を選任し、大学院生の研究テーマを考究するために履修すべき科目を提示する。これにより、大学院生は必要な各種の科目を効率的に履修し、研究を完結させ、その後の進路への準備を円滑に行うことができる。なお、言語コミュニケーション専攻では、「中学校・高等学校英語教員（専修免許）」の課程を併設することから、教職担当教員を中心に専修免許についても適切に対応する。

博士後期課程においても、入学と同時に各大学院生を担当する指導教員を選定する。そして、その指導教員が担当大学院生に対し、履修すべき演習科目を指示する。

そして、入学時や各年度初めにおいて、研究科全体及び専攻、演習単位での教員又は職員による履修ガイダンスをきめ細かく実施するとともに、教務課窓口における指導・相談を徹底する。また、専任教員全員が、毎週、一定時間をオフィスアワーとして設定し【資料 11. 2017 年度オフィスアワー一覧】、大学院生の生活状況、学修状況、科目履修状況、単位修得状況、研究の進捗状況等に関わる相談に応じる体制を構築する。

さらに、このような指導・相談体制作りだけでなく、理解しやすい明快なシラバス作成を行なうこと等で大学院生の科目履修を支援する。

上記の履修指導において、各大学院生が研究計画に沿って研究テーマを考究するために必要となる知識の修得を目指した科目履修を指導する。

3. 研究指導の方法

3-1. 修士課程の研究指導方法

修士論文の完成に向けた研究指導については次のとおり行う。【資料 12. 修士課程学位授与までのプロセス】なお、修士課程において学位論文の審査を行う際には、論文審査委員会には、研究科内の教員のみならず、他研究科および学外の専門研究者を招聘することで、学位授与の透明性を高めるとともに、厳格化をはかる。本学が学位審査の客観性・厳格性の確保に資することを目的として制定した「申合せ」に準じ、審査の透明性確保に十分に配慮するとともに、研究倫理について厳しく指導し、研究不正のチェックを徹底する【資料 13. 学位審査の客観性・厳格性の確保にかかる申合せ】。また、「研究活動に係る不正行為の防止及び対応に関する規程」（【資料 14. 研究活動に係る不正行為の防止及び対応に関する規程】および【資料 15. 研究活動に係る不正行為の防止及び対応に関する規程第6条の2にかかる運用細則】）に基づき、すべての大学院生に対して、研究倫理教育 e ラーニング「APRIN e ラーニングプログラム (CITI Japan)」(管理：一般財団法人公正研究推進協会)の本研究科指定講座修了を義務付ける。

■修士課程 1 年次

修士課程 1 年次においては、各大学院生が自らの研究テーマや研究計画を設定することを支援するため、指導教員は大学院生の研究が円滑に遂行できるよう、演習時も活用し、専門的知識や方法の修得、学際的な分析力・考察力、主体的・自律的な研究遂行力の強化に向けて、先行研究の紹介、調査研究方法の提示、資料・データ収集に関わる助言等を行う。また、研究者が遵守すべき研究倫理や研究者が行うべきではない研究不正についても厳しく訓示する。具体的な指導スケジュールは以下のとおりである。

【4 月上旬～】

履修説明会において修士課程修了までの履修・各種手続き等にかかる概要を説明・指導するとともに本研究科・各専攻の 3 ポリシー及び本研究科・各専攻が設定している履修モデル等を説明し、教員からも履修計画を指導し、演習教員選定へむけて助言する。さらに、大学院生は履修計画書と、大学院生を修士課程の在学期間に渡って指導する演習指導教員選定届を提出し、大学院生と指導教員が相談の上で研究指導体制を確立する。

【6 月】

大学院生と指導教員が討議・相談し、研究題目を確定し、大学院生は題目届を提出するとともに、その研究目的に即した方法や分析の指導を行うべく、指導教員は研究指導計画書を作成する。また、関連する専門領域の副指導教員からも助言を行う。

【9 月中旬～】

後期には履修科目の修正があれば、修正を行う。

【1 月】

研究経過報告書の提出を行う。

■修士課程 2 年次

2 年次前期においても、各指導教員は、専門的知識や方法の修得、学際的な分析力・考察力、主体的・自律的な研究遂行力の強化に向けて指導する。1 年次の研究成果・到達点を各大学院生とともに検証し、今後の研究計画の再構築、研究テーマの再確認、必要となる作業内容の整理、研究に関連する最新研究の紹介等を行い、各大学院生が自身の研究を修士論文としてとりまとめるための指針を提示する。後期では、各指導教員は、大学院生がこれまでの研究成果をとりまとめ、修士論文を作成するために専門的な研究指導を行う。具体的な指導スケジュールは以下のとおりである。なお、演習以外にも日常的な研究指導を継続的に行う。

【4 月上旬】

前期履修登録時に履修指導を行う。また、研究の進捗状況に照らしつつ、研究題目、研究方法・手順について再検討する。

【5月】

大学院生は修士論文計画書を提出し、それを受けて、指導教員は、研究指導計画書を作成する。また、大学院生は、関連する専門領域の副指導教員からの指導や助言を受ける。

【7月】

修士論文の中間発表を公開で実施し、指導教員に加え、関連する専門領域の教員の助言も含め、修士論文の作成に向けた方針を確定する。

【9月下旬】

後期に必要であれば、履修の修正登録を行う。以後、修士論文の作成に向けて、適宜、継続的に研究指導を行う。

【11月上旬】

修士論文の最終発表を公開で実施し、指導教員のみならず、関連する専門領域の教員からも改善や再考の余地のある点など指摘を行い、1月の最終的な修士論文の提出にむけて指導を行う。

【1月】

大学院生は修士論文を提出し、研究科委員会が定める論文審査委員会による公開の口述試験を課す。なお、主たる指導教員は審査においては主査とならず、研究科内の教員に加えて、他研究科および学外の専門研究者を招聘する。

【2月】

公開で優秀論文選考会を実施し、優秀論文を選出する。

3-2. 博士後期課程の研究指導方法

博士論文の完成に向けた研究指導については次のとおり行う【資料 16. 博士後期課程学位授与までのプロセス】。なお、博士後期課程において学位論文の審査を行う際には、論文審査委員会には、研究科内の教員のみならず、他研究科および学外の専門研究者を招聘することで、学位授与の透明性を高めるとともに、厳格化をはかる。本学が学位審査の客観性・厳格性の確保に資することを目的として制定した「申合せ」に準じ、審査の透明性確保に十分に配慮するとともに、研究倫理について厳しく指導し、研究不正のチェックを徹底する【資料 13. 学位審査の客観性・厳格性の確保にかかる申合せ】。また、「研究活動に係る不正行為の防止及び対応に関する規程」（【資料 14. 研究活動に係る不正行為の防止及び対応に関する規程】および【資料 15. 研究活動に係る不正行為の防止及び対応に関する規程第 6 条の 2 にかかる運用細則】）に基づき、すべての大学院生に対して、研究倫理教育 e ラーニング「APRIN e ラーニングプログラム (CITI Japan)」(管理：一般財団法人公正研究推進協会)の指定講座の修了を義務付ける。

■博士後期課程 1 年次

1 年次においては、修士課程と同様、研究テーマ・研究計画を設定することを支援するために指導教員は先行研究の紹介、学際的な調査研究方法の提示、資料・データの所在に関わる助言等を行う。また演習時には、各大学院生の研究テーマや研究に関わる討論において評価や助言を行い、研究が円滑に遂行できるようサポートを行う。ただし、博士後期課程である以上、大学院生はより主体的で自立した研究活動を行う必要があること、より高度な研究成果の達成が求められることを説き、学問研究の発展に真摯な気構えで貢献する志を持つべきであることを十分に指導する。また、研究者が遵守すべき研究倫理や研究者が行うべきではない研究不正についても厳しく訓示する。具体的な指導スケジュールは以下のとおりである。

【4 月上旬～】

履修説明会において博士後期課程修了までの履修・各種手続き等にかかる概要を説明・指導するとともに本研究科・各専攻の 3 ポリシー及び本研究科・各専攻の教育課程について説明する。また、大学院生が実際に第 1 セメスターの履修登録を行う際に履修指導を行う。さらに教員からも履修計画を指導し、演習教員選定へむけて助言する。大学院生は大学院生を博士後期課程の在学期間に渡って指導する演習指導教員選定届を提出し、大学院生と指導教員が相談して研究指導体制を確立し、研究の理論的枠組を構築できるよう指導を進める。

【5 月】

大学院生と指導教員が相談し、博士論文の研究題目を確定し、その作成に関わる研究計画書を大学院生は提出するとともに、その研究目的に即した方法や分析の指導を行うべく、指導教員は研究指導計画書を策定する。また、関連する専門領域の副指導教員からも助言を行う。

【1 月中旬】

指導教員および副指導教員による助言のもと、大学院生は 1 年間の研究経過をまとめた研究経過報告書の提出を行う。

■博士後期課程 2 年次

2 年次においては、各大学院生が自身の研究計画に沿って実施した文献研究、予備調査、分析等から導いた成果に対し、演習時の討論等において評価・助言を行い、各大学院生の研究が円滑に進むよう専門的な見地からの指導を多面的に行う。また、各大学院生が一定の成果を達成した段階で、関連学会等での研究発表や学会誌への論文投稿など、研究成果の公開の機会についても適宜指導する。

具体的な指導スケジュールは以下のとおりである。なお、演習以外にも日常的な研究指導を継続的に行う。

【4 月上旬】

研究の進捗状況に照らしつつ、研究題目、研究方法・手順について再検討し、指導教員および関連する専門領域の副指導教員は、引き続き、大学院生の研究の進捗に応じて指導や助言を行う。

【1月中旬】

指導教員および副指導教員による助言のもと、大学院生は1年間の研究経過をまとめた研究経過報告書を提出し、それを受けて、指導教員は、研究指導計画書の再策定を行う。

博士論文の研究計画を中心とする試験および研究に必要な外国語試験の2種からなる博士論文提出資格試験を実施、審査する。

■博士後期課程3年次

3年次においては、各指導教員は、大学院生がこれまでの研究成果をとりまとめ、博士後期課程の集大成である博士論文を作成するために高度専門的な研究指導を行う。また、関連学会等での研究発表や学会誌への論文投稿など、研究成果の公開の機会についても適宜指導する。なお、演習以外にも日常的な研究指導を継続的に行う。具体的な指導スケジュールは以下のとおりである。

【4月以降】

博士論文の研究内容に関して、研究科が主催する公開の研究発表を実施し、大学院生に対して関連する専門領域の教員から改善や再考の余地のある点などの助言を行う。指導教員は大学院生の博士論文の最終的な提出に向けた方針を確定し、指導および助言を適宜行う。

【～11月】

最終的な博士論文の提出にむけた指導を行う。大学院生は博士論文を提出する。

【12月以降】

研究科委員会が定める受理委員会による受理審査を経て、研究科委員会が定める審査委員会を構成し、本審査を行う。本審査では、公開による論文審査会を実施する。なお、主たる指導教員は審査においては主査とならず、研究科内の教員に加えて、他研究科および学外の専門研究者を招聘する。

4. 修了要件

【修士課程】

(1) 国際文化学専攻

国際文化学専攻の修了要件は、2年以上在学し、基礎科目から8単位（国際文化学、調査方法論、リサーチセミナーA・B含む）、演習科目12単位（演習Ⅰ～Ⅳ）、応用科目から10単位以上を修得し、合計で30単位以上を修得し、修士論文を提出し、本研究科が行う修士論文の審査および試験に合格した者に修士の学位を与える。

（国際文化学専攻の科目区分一覧）

科目群	修了要件単位数	備考
基礎科目	8単位必修	国際文化学、調査方法論、リサーチセミナーA・B〔各2単位〕
演習科目	12単位必修	演習Ⅰ～Ⅳ（各3単位）
応用科目	10単位以上	
修士論文	——	
合計	30単位以上	

(2) グローバルスタディーズ専攻

グローバルスタディーズ専攻の修了要件は、2年以上在学し、基礎科目から8単位（Introduction、GS Research Methods、リサーチセミナーA・B含む）、演習科目12単位、応用科目（Globalization、Ethics、Communicationの各領域から1科目〔2単位〕以上の履修）から10単位以上を修得し、合計で30単位以上を修得し、英語による修士論文を提出し、本研究科が行う修士論文の審査および試験に合格した者に修士の学位を与える。

（グローバルスタディーズ専攻の科目区分一覧）

科目群	修了要件単位数	備考
基礎科目	8単位必修	Introduction、GS Research Methods、リサーチセミナーA・B〔各2単位〕
演習科目	12単位必修	演習Ⅰ～Ⅳ（各3単位）
応用科目	10単位以上	
修士論文	——	
合計	30単位以上	

(3) 言語コミュニケーション専攻

「Research Methods A・B」4単位、演習8単位、応用科目20単位以上の総単位数32単位以上の取得に加え、英語による修士論文の執筆を修了要件とする。言語コミュニケーションに関わる幅広い知識とさまざまな研究手法に基づく学際的な分析力・考察力を修得し、また高い語学力・対話力を身につけ、さらに本研究科が行う修士論文の審査および試験に合格した者に修士の学位を与える。

(言語コミュニケーション専攻の科目区分一覧)

科目群	修了要件単位数	備 考
基礎科目	4単位必修	Research Methods A・B (各2単位)
演習科目	8単位必修	言語コミュニケーション演習 Ⅰ～Ⅳ (各2単位)
応用科目	20単位以上	
修士論文	———	
合計	32単位以上	

【博士後期課程】

(1) 国際文化学専攻

修了要件単位として「演習」12単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえで博士論文を提出し、その審査に合格することを要件とする。博士論文の審査委員会には、国際文化学専攻および国際学研究科内の教員のみならず、他研究科や学外の専門研究者を招聘することで、学位授与の透明性を高めるとともに、厳格化をはかる。

科目群	修了要件単位数	備考
演習科目	12単位必修	演習Ⅰ～Ⅵ (各2単位)
博士論文	———	
合計	12単位	

(2) グローバルスタディーズ専攻

修了要件単位として、「PhD Research Seminar」2単位、「演習」12単位の合計14単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえで英語による博士論文を提出し、その審査に合格することを要件とする。博士論文の審査委員会には、グローバルスタディーズ専攻および国際学研究科内の教員のみならず、他研究科や学外の専門研究者を招聘することで、学位授与の透明性を高めるとともに、厳格化をはかる。

科目群	修了要件単位数	備考
演習科目	12単位必修	演習Ⅰ～Ⅵ（各2単位）
基礎科目	2単位必修	PhD Research Seminar
博士論文	—	
合計	14単位	

5. 履修モデル

「ア 設置の趣旨および必要性」で記載した養成する人材像をふまえ、各専攻の特徴をいかした履修による学修ならびに進路のモデルを示す。

【修士課程】

(1) 国際文化学専攻

国際文化学専攻では、文化の視点を中心にすえたさまざまな研究を進めることができるカリキュラムとなっている。ここでは、1つの履修モデルを例にして示す。

【モデルの概要】

現代社会では、ヒトやモノ、そしてさまざまな価値観が交錯する中で、文化の多様性が浮き彫りになってきている。それは一方で各々の文化の豊かさや魅力を際立たせるとともに、他方では異文化間の摩擦が引き起こす問題をも生み出している。本モデルは、人が多様性を保ちながらいかに共生していくかを考究する大学院生を対象とした履修モデルである。

本モデルでは、地球規模で生じる紛争、人類の移動、環境をめぐる諸問題を視野に置きつつ、もう一方で日常の社会で起きる出来事にも注目し、共生社会の在り方について考える。そうした人と人との関係、自然と人との関係について、人文学や社会科学における基本的な概念を用いながら、共生社会とは何か、そこでの課題や共生社会を達成するための方策について検討する。これにより自らが一員となるべき共生社会を実現するための基礎的な知識や解決能力を身につけ、そのための実践的な研究に取り組む人材の養成をめざす。

【当モデルが養成する人材像の例】

- 相互依存が一層著しく進む現在の世界が直面する諸課題に対して、文化という観点から批判的に研究を遂行し、その研究で得られた知見を地域社会のみならず、国際社会のなかで専門的かつ実践的に発揮できる人材

【履修を指導する科目】

本モデルは、人が多様性を保ちながら地域社会のみならず国際社会のなかでいかに共生していくかを考究するための知識・技能の修得を主な目的としている。そのため、次のような科目履修を指導する。

- 基礎科目である「国際文化学」、「リサーチセミナーA・B」、「調査方法論」を履修し、本研究科における学修の全体像の把握と専門的な調査を実施するための方法論を修得する。
- 「応用科目」の中から、「共生社会研究A・B」を履修し、「共生社会」に関する人文学および社会科学に関連する研究を「多文化・多民族」や「国際・地域社会」さらにネットワークに注目しながら行うための土台を形成する。
- そして、それら科目に加えて、各大学院生の研究テーマや興味・関心に照らして必要と判断される科目を履修する。その際に、「共生社会」領域からのみ科目履修を行うのではなく、日本国内の共生社会の状況、「共生社会」と「宗教」との関連等を学ぶために、「日本」領域や「宗教文化」領域からも科目を履修させ、バランスの良い学際的な学修が可能となるよう配慮する。
- 以上の講義科目と併行して、演習科目である「演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」を履修し、自身の研究に関する検討・考察を深め、修士論文を完成させる。

【予想される進路】

本専攻では、高度の専門的職業人として求められる実務遂行能力や博士後期課程進学に必要な研究遂行能力を身に付けることを目的としている。また、日本からの進学だけでなく、アジアや欧米の各地域からも留学生を受け入れ、これらの人材が国内外で日本と関わる職業や研究に携わることができるように支援する。殊に当モデルに沿って学修・研究を行った大学院生の進路としては以下のようなものが予想される。

- 国家公務員
- シンクタンク職員
- 日本語教師
- 本願寺開教使
- 博士後期課程進学、その他

【履修モデルの例】

大学院生に対して履修を指導する科目の組み合わせ（履修モデル）及びその意図は次のとおりである。

年次	科目区分	科目名	単位数
1 年前期	基礎科目	国際文化学	2
		リサーチセミナーA	2
	応用科目	共生社会研究 A	2
		日本研究 B	2
	演習科目	演習Ⅰ	3
1 年後期	基礎科目	調査方法論	2
		リサーチセミナーB	2
	応用科目	共生社会研究 B	2
		日本研究 A	2
	演習科目	演習Ⅱ	3
2 年前期	応用科目	宗教文化研究 B	2
	演習科目	演習Ⅲ	3
2 年後期	演習科目	演習Ⅳ	3
合計			30

本履修モデルにおける中心的な講義科目は「国際文化学」と「共生社会研究 A・B」である。この3科目を中心に、関連する科目を以下のように配置している。

- 1) 「国際文化学」と「調査方法論」さらに「リサーチセミナーA・B」により、本専攻における学修の基盤を形成する。
- 2) 「共生社会研究 A・B」において、人が多様性を保ちながらいかに共生していくかを考究する。
- 3) 「日本研究 A・B」において、グローバルとローカルという両観点から共生の展開論理を理解する。さらに「宗教文化研究 B」から宗教と文化との関係に注目し、そこで生じる課題にアプローチする素養を身に付ける。
- 4) 以上の講義科目での学修をもとに、演習科目において検討や考察を深め、最終的に修士論文を完成させる。

（2）グローバルスタディーズ専攻

【モデルの概要】

20 世紀の終盤から急速に展開するグローバル化の中で、世界はますます多様化・流動化すると同時に相互依存関係を強めている。多様な価値観を捉え直し、相互に関連を深める国際情勢を、「グローバリゼーション」領域を中心に、「エシックス」領域や「コミュニケーション

ーション」領域を含めた複眼的な視点から大局的に分析し、そこからグローバル化の課題と展望を導き出し、問題解決に向けて行動することを重点としたモデルである。

本モデルでは、グローバルな諸課題にアプローチできるよう、専門的かつ分野横断的な研究を進められるよう、「グローバリゼーション」領域の科目に加え、「エシックス」や「コミュニケーション」領域の科目を履修することによって、専門的知識や能力を涵養する。これによって、多様な価値観や相互の関係性を理解し、グローバル社会に貢献できる人材の養成をめざす。

【当モデルが養成する人材像の例】

グローバル化が急速に進展しつつある現代世界を、幅広い視点から複合的かつ批判的に理解し、特定の課題について既存の研究と比較しながら研究テーマを設定し、その解決方法を探求することができる人材。

【履修を指導する科目】

本モデルは、「グローバリゼーション」領域の科目を中心に幅広い教養を基盤とした専門的な知識に基づいて、グローバルな舞台で活躍できる学術的知識および実践的能力を修得することを目的としている。そのため、次のような科目履修を指導する。

- 基礎科目である「Introduction」、「GS Research Methods」、「リサーチセミナーA・B」を履修し、本研究科における学修の全体像の把握と専門的な調査を実施するための方法論を修得する。
- 応用科目の中から、「Globalization and Area Studies」、「Anthropology and Social Movements」などグローバリゼーションに関わる科目を履修させ、幅広い視点から複合的かつ批判的に考える能力を涵養すべく、専門的知識の獲得を目指す。
- それら科目に加えて、各大学院生の研究テーマや興味・関心に照らして必要と判断される科目を履修する。その際に、「グローバリゼーション」領域の科目のみの科目履修を行うのではなく、「エシックス」領域や「コミュニケーション」領域に関わる科目も履修させ、バランスの良い学修が可能となるよう配慮する。
- 以上の講義科目と併行して、「演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」を履修し、自身の研究に関する検討・考察を深め、最終的に修士論文を完成させる。

【予想される進路】

本専攻では、グローバル化が進展する国際社会が抱える諸問題を、幅広い視点から複合的かつ批判的に理解し、その解決方法を探求することができるよう、幅広い教養を基盤とした専門的な知識に基づいて、グローバルな舞台で活躍できる学術的知識および実践的能力を修得することを目的としている。当モデルに沿って学修・研究を行った大学院生の進路としては以下のようなものが予想される。

- 国家公務員
- シンクタンク職員
- 国際 NGO 職員
- 国内外の博士後期課程進学、その他

【履修モデルの例】

大学院生に対して履修を指導する科目の組み合わせ（履修モデル）及びその意図は次のとおりである。本履修モデルは、「グローバリゼーション」領域の科目を中心に履修したパターンである。

年次	科目区分	科目名	単位数
1 年前期	基礎科目	Introduction	2
		リサーチセミナーA	2
	応用科目	Globalization and Area Studies	2
	演習科目	演習Ⅰ	3
1 年後期	基礎科目	GS Research Methods	2
		リサーチセミナーB	2
	応用科目	Anthropology and Social Movements	2
		Language, Power & Identity	2
	演習科目	演習Ⅱ	3
2 年前期	応用科目	Globalization of Education	2
	演習科目	演習Ⅲ	3
2 年後期	応用科目	Globalization, Conflict and Justice	2
	演習科目	演習Ⅳ	3
合計			30

卒業要件として、Globalization、Ethics、Communication の各領域から 1 科目（2 単位）以上を履修することとしているため、Globalization 領域の科目を重視しながらも、他の領域からも履修することで、重層的な学修が可能となっている。

- 1) 基礎科目「Introduction」と「GS Research Methods」さらに「リサーチセミナーA・B」により、本専攻における学修の基盤を形成する。
- 2) Globalization 領域の科目である「Globalization and Area Studies」、「Anthropology

and Social Movements」、「Globalization of Education」の履修を通じて、グローバル化の影響を地域の事例や人の移動といった観点を中心に考察を進める。

- 3) 「Language, Power & Identity」(Communication 領域)、「Globalization, Conflict and Justice」(Ethics 領域)の履修を通じて、グローバル化の時代における言語と権力の関係や紛争における正義の問題など、Globalization 領域の科目で獲得した地域の事例に関する知識を、理論的観点からとらえ直すことで複層的に考察することが可能になる。
- 4) 以上の講義科目での学修をもとに、演習科目において検討や考察を深め、最終的に修士論文を完成させる。

(3) 言語コミュニケーション専攻

【モデルの概要】

現代の世界では、英語や外国語による意思疎通ならびに情報発信は、近年ますます重要視されている。本モデルは、急速にグローバル化する現在の世界が抱えるさまざまな課題を、言語コミュニケーション、なかでも第二言語修得の観点から考究する大学院生を対象とした履修モデルである。

本モデルでは、グローバル社会の複雑な諸問題に関して深い問題意識をもって研究を遂行し、第二言語修得に関連する科目を重点的に履修することで、同分野に関する専門知識のみならず、対話力、分析力・考察力、課題探求力といったグローバル人材に不可欠な資質能力を養うことを目的とし、高い語学力・対話力をもってリーダーシップを発揮して国内外の社会で活躍し、他者に対する理解力や寛容さあるいは柔軟性と批判的精神をもって相互理解や多文化理解を積極的に推進することができる人材の養成をめざす。

【当モデルが養成する人材像】

急速にグローバル化する現在の世界が抱えるさまざまな課題を、言語コミュニケーションという視点から鋭く考察し、グローバル社会における言語コミュニケーションの意義や役割に関する十分な認識をもって諸課題の解決を担える人材を養成する。

【履修を指導する科目】

- 基礎科目である「Research Methods A・B」を履修し、本専攻における学修の全体像の把握と専門的な調査を実施するための方法論を修得する。
- 応用科目の中から、「Language Testing and Assessment」や「English as a Medium of Instruction in Global Education」を履修し、言語コミュニケーションのなかでも第二言語修得に関する基盤となる科目を修得し、本分野における研究の土台を形成し、学期ごとに「外国語学習方法論」など段階的に専門的な領域科目を履修させる。
- 上記の科目に加えて、各大学院生の研究テーマや興味・関心に照らして、第二言語修得に特化した科目だけではなく、必要と判断される科目を履修する。その際に、グローバルスタディーズ専攻提供の「Global History」を履修することで幅広い視野を養い、バランスの良い学修が可能となるよう配慮する。
- 以上の講義科目と併行して、演習科目である「演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」を履修し、自身の研究に関する検討・考察を深め、修士論文を完成させる。

【予想される進路】

本専攻では、グローバル化が進展する社会における言語およびコミュニケーションの意義や役割に関する問題意識をもち、高い語学力・対話力をもって、国内外の社会において異文化間の相互理解や多文化理解の推進に貢献するべく、言語コミュニケーションに関する専門的知識および実践的能力を修得することを目的としている。当モデルに沿って学修・研究を行った大学院生の進路としては以下のようなものが予想される。

- 中学校・高等学校英語教員（専修免許）
- 通訳・翻訳者
- 国家公務員
- シンクタンク職員
- 国内外の博士後期課程進学、その他

【履修モデルの例】

大学院生に対して履修を指導する科目の組み合わせ（履修モデル）及びその意図は次のとおりである。本履修モデルは、第二言語習得に関連する科目を重点的に履修したパターンである。

年次	科目区分	科目名	単位数
1 年前期	基礎科目	Research Methods A	2
	応用科目	Pragmatics in Language Learning and Teaching	2
		Communication Studies	2
		Global History（GS 専攻提供科目）	2
	演習科目	言語コミュニケーション演習Ⅰ	2
1 年後期	基礎科目	Research Methods B	2
	応用科目	Psychology and Language Learning	2
		言語政策論	2
		English as a Medium of Instruction in Global Education	2
	演習科目	言語コミュニケーション演習Ⅱ	2
2 年前期	応用科目	Language, Power & Identity	2
		外国語学習方法論	2
		通訳・翻訳研究 A	2
	演習科目	言語コミュニケーション演習Ⅲ	2
2 年後期	応用科目	Language Testing and Assessment	2
	演習科目	言語コミュニケーション演習Ⅳ	2
合計			32

本履修モデルにおける中心的な講義科目は、基礎科目「Research Methods」、第二言語習得に関連する科目「Pragmatics in Language Learning and Teaching」、「Language Testing and Assessment」などで、これらの科目を中心に、関連する科目を次のように配置している。

- 1) 基礎科目「Research Methods」により、本専攻における学修の基盤を形成する。
- 2) 年次には、第二言語習得・外国語学習プロセスの導入として、「Pragmatics in Language Learning and Teaching」や「Psychology and Language Learning」によって、「中間言語の語用論」の理論修得や、語学学習と心理学の相関を修得する。これらを踏まえ、より高度専門的な学修を目指し、第3セメスターでは、「外国語学習方法論」によって、言語教育における SFL 言語理論の概念を、第4セメスターでは「Language Testing and Assessment」によって、言語知識獲得と言語運用能力発達の理論を修得し、テストイングに関する知識と実践力を涵養する。
- 3) 2) の専門領域の学びに加え、「English as a Medium of Instruction in Global Education」や「翻訳・通訳研究 A」などによって、英語によるコミュニケーションに関わる種々の問題を理解する素養を身につけ、また「Global History」によって国家や特定の地域を中心とした歴史観を批判的に検討するグローバルヒストリーの視点を補うことで、外国語教育における諸問題の理解を深める。
- 4) 以上の講義科目での学修をもとに、演習科目において検討や考察を深め、最終的に修士論文を完成させる。

以上、第二言語習得および外国語教育に関する講義科目を中心に、他の領域科目も重層的に学修し、演習科目においてさらに検討や考察を深めることで、最終的に修士論文を完成させる。

6. 学位論文の審査

6-1. 修士論文の審査

本研究科の修士論文審査は厳格性と透明性に基づいた一連の手続きによってなされる。修士論文は、広い視野に立つ精深な学識をそなえ、かつその専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力を有することを立証するに足るものであることが必要で、2年間広い視野のもとに専攻分野の研究をした成果に相当するものでなければならない（大学院学則第12条第4項）。

本研究科における修士論文の審査基準は次のとおりである。

1) 学問的意義	論文のテーマに国際学的な意義が認められること。またその意義についての認識が明確に示されていること。
2) 問題設定の適切性	論文のテーマを探究するために適切な問題設定がなされていること。
3) 論旨の一貫性	論文の記述が整合的で一貫しており、矛盾や混乱がないこと。
4) 方法の妥当性	論文のテーマや問題設定にふさわしい研究方法が用いられていること。また文献資料・データの取り扱いや分析方法が適切であること。
5) 先行研究の十分な検討	論文のテーマや問題設定にとって必要と考えられる先行研究・関連文献を十分に踏まえていること。
6) 独創性・新規性	論文のテーマ、問題設定、研究方法、論旨、あるいは採り入れた文献やデータなどになんらかの独創性または新規性が認められること。
7) 専門性	当該研究分野における専門的知識を修得し、活用したものと認められること。
8) 広汎性	国際学が本来的に有する広汎性を認識し、広く社会に向けて発信する姿勢が認められること。
9) 資質・将来性の表出	論文の総体が、国際学の研究者またはこれを生かす職業人としての資質・将来性を感じさせるものとなっていること。
10) 形式	文献引用などが適切に処理され、学術論文としての形式が整っていること。

本研究科では次のような手続きと体制によって、上記した各基準の審査を行う。

- ・各大学院生は、第3セメスターに修士論文計画書（論文題目を含む）を提出し、同セメスター期間内に中間発表を行う。
- ・各大学院生は、第4セメスターに修士論文の最終発表を公開で行う。
- ・各大学院生は、指導教員から承認を受けた修士論文を研究科が指定する期日までに提出し、審査を受けなければならない。
- ・国際学研究科委員会は、審査委員会（主査1名、副査2名以上）を選出する。ただし、

当該大学院生の指導教員は主査を務めることはできない。また、必要に応じて学外から副査を選任することも可能とする。

- ・提出された修士論文は、研究科委員会が定める審査委員会によって審査される。審査委員会は論文内容の検討を行い、公開の口述試験を実施し、審査結果を研究科が定める基準にもとづき評価する。
- ・研究科委員会は審査委員会からの報告を受け、修士課程の修了の可否について議決し、議決を学長に報告する。報告を受けた学長は、学位の授与を行う。

6-2. 博士論文の審査

本研究科の博士論文審査は厳格性と透明性に基づいた一連の手続きによってなされる。博士論文は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有することを立証するに足るものでなければならぬ（大学院学則第13条第5号）。本研究科における博士論文の審査基準は以下のとおりである。

1) 学問的意義	論文のテーマに国際学的な意義が認められること。またその意義についての認識が明確に示されていること。
2) 問題設定の適切性	論文のテーマを探究するために適切な問題設定がなされていること。
3) 論旨の一貫性	論文の記述が整合的で一貫しており、矛盾や混乱がないこと。
4) 方法の妥当性	論文のテーマや問題設定にふさわしい研究方法が用いられていること。また文献資料・データの取り扱いや分析方法が適切であること。
5) 先行研究の十分な検討	論文のテーマや問題設定にとって必要と考えられる先行研究・関連文献を十分に踏まえていること。
6) 独創性・新規性	論文のテーマ、問題設定、研究方法、論旨などにおいて、自立した研究者としての十分な独創性または新規性が認められること。
7) 専門性	当該研究分野における専門的知識を修得し、活用したものと認められること。
8) 広汎性	国際学が本来的に有する広汎性を認識し、広く社会に向けて発信する姿勢が認められること。
9) 資質・将来性の表出	論文の総体が、自立した国際学研究者としての資質・将来性を感じさせるものとなっていること。
10) 形式	文献引用などが適切に処理され、学術論文としての形式が整っていること。

本研究科では次のような手続きと体制によって、上記した各基準の審査を行う。

- ・各大学院生は、予備審査として国際学研究科が主催する博士論文提出資格試験を受ける。
- ・国際学研究科委員会は、審査委員会（主査1名、副査2名以上）を選出する。ただし、

当該大学院生の指導教員は主査を務めることはできない。また、必要に応じて学外から副査を選任することも可能とする。

- ・博士論文提出資格試験は、博士論文研究計画（学位論文題目および研究の意義、内容、方法、参考文献等）を中心とする試験および研究に必要な外国語試験の二種から構成される。この試験に合格しなかった場合、博士学位論文の提出はできないものとする。
- ・博士論文提出資格試験に合格した者は、国際学研究科が主催する公開の研究発表会において、博士論文の研究内容を報告することが義務付けられている。
- ・諸要件を満たし、かつ指導教員から承認を受けた博士論文を提出する。
- ・提出された博士論文について、国際学研究科委員会は受理委員会を構成し、博士論文の受理について審査する。
- ・受理委員会は、審査結果を研究科委員会に報告し、研究科委員会において論文の受理の可否について審議し、学長が受理する。
- ・受理された博士論文について、研究科委員会は審査委員会を構成し、論文審査を行う。審査委員会は論文内容ならびに関連資料等の検討を行い、公開の論文審査会を実施する。
- ・審査委員会は審査結果を研究科委員会に報告する。
- ・研究科委員会は審査委員会からの報告を受け、博士後期課程の修了の可否について議決し、議決を学長に報告する。報告を受けた学長は、博士学位の授与を行う。
- ・学位授与を認められた博士論文については、学位を授与された日から 3 ヶ月以内に論文要旨と論文審査要旨を龍谷大学学術機関リポジトリに登録・公開する。また、一年以内に論文の全文を同リポジトリに登録・公開する。

キ 施設・設備等の整備計画

1. 校地、運動場の整備計画

国際学研究科を設置予定の深草キャンパスは、156,384.81㎡の校地面積に6学部1短期大学部5研究科を設置し、約9,800名の学生が在籍している。教室、図書館、保健管理センター、こころの相談室、学生食堂等の施設のほか、福利厚生施設を含む各種施設について、既存学部と十分に共用できるだけの校地・校舎を有している。また、運動場については、近隣に南大日グラウンド（63,725.39㎡／スクールバス利用で約15分程度。）を有するほか、キャンパス内に体育館（8,178㎡）およびテニスコート（1,755.66㎡）を設けている。学生の休息・談話スペースについては、主に3号館、4号館、22号館の地階に食堂を設けるとともに、図書館前のテラス席、中央広場にベンチなどを配置するほか、教室棟のホールなどに適宜机・椅子を設置する等、オープンな空間の確保に留意している。

2. 校舎等施設の整備計画

校舎等施設については、深草キャンパスの現有施設で設置基準上の校舎面積を充足している。現在、既に講義室99室、演習室85室、情報実習室15室が整備されている。加えて、平成27（2015）年度の国際学部の設置にあわせて整備した和顔館（25,161.81㎡）には、既存学部が共同で使用する講義室（24室）・演習室（28室）、国際学部教員（国際学研究科担当予定）の個人研究室、図書館、学生の主体的な学習を支援するグローバルコモンズ自律型言語学習支援施設が整備されている。本研究科においてもこうした設備を活用する。

国際学研究科大学院生専用の合同研究室として、和顔館4階（本研究科専用）並びに22号館4階（政策学研究科と共同で利用）の2室が整備されている。和顔館4階合同研究室（74.45㎡）には、個別学習机28台、個人ロッカー36個、論文検索等が可能なインターネット接続のあるパソコン4台、プリンター2台ならびに資料書架3本を整備している。また、22号館4階合同研究室（170.00㎡）には、個別学習机44台、個人ロッカー54個、論文検索等が可能なインターネット接続のあるパソコン4台、プリンター4台ならびに資料書架9本を整備している。これらの合同研究室を活用して大学院生の研究活動を支援する。【資料17. 国際学研究科大学院合同研究室の見取り図】

3. 図書等の資料および図書館の整備計画

本学は京都府と滋賀県に3つのキャンパスを有しており、各キャンパスにそれぞれ図書館を設置している。3図書館の合計所蔵資料数は、平成30（2018）年3月31日現在、約222万冊である。雑誌約1万7千種類、視聴覚資料約5万6千点、電子ジャーナル・データベース91種類を整備しており、今後も積極的な導入を計画している。

各図書館は、各キャンパスの学部構成に応じた蔵書構成をとっている。国際学研究科を開設予定である深草キャンパスの深草図書館（蔵書数約100万冊）には、国際学部や文学部に対応した人文系の教育・研究用図書、雑誌等に加えて、経済学部、経営学部、法学部、政策学部に対応した社会科学系資料のほか、教養教育にかかる豊富な図書・資料等を所蔵している。瀬田図書館および大宮図書館が所蔵する資料については、学内相互貸借により、深草キャンパスで受け取ることが可能なほか、オンラインで学外からの資料取り寄せを申込みことができる。

また、本学の蔵書検索以外に他大学の蔵書も横断検索できるよう、京都大学、大谷大学、京都女子大学、同志社大学、同志社女子大学、佛教大学、立命館大学の7大学に協力を仰ぎ横断検索システムを構築し、利用者の利便性の向上に努めている。加えて、私立大学図書館協会京都地区協議会共通閲覧証協定（42大学51図書館）や大学コンソーシアム京都の共通閲覧システム（32大学50図書館）に参加し、本学の蔵書以外に京都地区協議会加盟館や大学コンソーシアム京都加盟の大学・短期大学の図書館が所蔵する資料の閲覧を中心に利用出来る制度に参加することで、他大学の各図書館の蔵書や特色を活用し、教育・研究の活性化および、利用者サービスの向上を図っている。

深草図書館は、8号館（地下2階地上4階建て、延床面積4,300㎡）と和顔館（地下2階地上3階部分、延床面積約5,700㎡）から成り、両館を一体的に運用している。8号館は、

事務室をはじめとする管理スペース、雑誌閲覧室、書庫（研究用図書収蔵）等を有し、和顔館は書庫、閲覧室、閲覧カウンター、視聴覚コーナーのほか、グループ学習の空間等を配置している。深草図書館の座席数は、8号館と和顔館の閲覧席を併せて約1,456席を有し、これらの閲覧席には、インターネット端末も40台が含まれ、学修環境の充実を実現している。開館時間については、授業期間中の平日は22時、土曜・日曜についても17時まで開館している。

国際学研究科設置にかかわる図書、資料図書等については、上述した本学図書館保有の蔵書、雑誌、電子ジャーナル・データベースの活用を基本とする一方、既に本学で所蔵している国際学関連分野の約25万冊の活用に加え、国際学部開設以降は特に宗教・文化・文学・地域研究などの領域を中心に人文学系の資料の充実化を図ってきた。また、英語文献の充実を図るとともに、電子ジャーナル・データベースの拡張を進め、最新の国際的な学術知識を参照できるよう整備している【資料18：学術雑誌等一覧】。こうした資源を活用して充実した研究に資する。

ク 基礎となる学部と修士課程・博士後期課程との関係

（1）学部と研究科の関係 【資料2. 課程編成の考え方】

本研究科の基礎となる国際学部は、平成27（2015）年に改組した際、「国際文化学部国際文化学科」の一学部一学科体制であったものを、その教育内容を専門特化する形で、「国際文化学科（IC学科）」と「グローバルスタディーズ学科（GS学科）」の二学科体制に改編した。今般の改組転換に際しては、その教学理念を発展継承する形で研究科の再編を図ることとし、修士課程・博士後期課程ともに、国際文化学専攻（IC専攻）とグローバルスタディーズ専攻（GS専攻）を設置する。

ただし、修士課程においては、これまでに述べてきたとおり、中学校・高等学校英語教員（専修免許）への対応や通訳・翻訳者などの高度の専門的職業人などの育成に対応するため、言語やコミュニケーションに関する領域を専門特化させる形で「言語コミュニケーション専攻（LC専攻）」を設置することとした。このため、修士課程においては三専攻を展開するが、博士後期課程においては再び「グローバルスタディーズ専攻（GS専攻）」と「言語コミュニケーション専攻（LC専攻）」を融合させることから、国際文化学専攻（IC専攻）とグローバルスタディーズ専攻（GS専攻）の二専攻による構成としている。

（2）国際文化学専攻の展開

多文化化にともなう各種の課題、とりわけ異文化理解や文化間の共生関係についての理論的・実践的両面にわたる教学展開は、学部の国際文化学科から、修士課程・博士後期課程の国際文化学専攻において、一貫して展開される。

学部では、「世界と日本」、「多文化共生」、「芸術・メディア」の3コースが設置されているが、修士課程及び博士後期課程では研究領域をより明確化させるために、「日本」、「共生社会」、「言語文化」、「宗教文化」、「芸術・メディア」という5領域に再編した。これにより、現代世界の諸課題を文化という視点から理解するための、専門性と実践能力を複合的

に探求し、異文化間の対話や交流の可能性を考究することができる構成としている。

(3) グローバルスタディーズ専攻及び言語コミュニケーション専攻の展開

グローバル化にともなう諸課題をめぐる教学展開は、学部ではグローバルスタディーズ学科において、修士課程ではグローバルスタディーズ専攻と言語コミュニケーション専攻の二専攻において展開され、博士後期課程においては、再度グローバルスタディーズ専攻に集約される。

修士課程では、グローバルスタディーズ専攻と言語コミュニケーション専攻が、それぞれグローバリゼーションとコミュニケーションにそれぞれ相対的な力点を置くことにより、研究の深みを追求するための措置である。とりわけ、言語コミュニケーション専攻は、英語の専修免許課程と不可分であり、高度な教職人材の育成という観点からも、このように専門性を明確化した上で、専攻を分けることとした。

しかし、博士後期課程においては、グローバルスタディーズが複数の異なった学問領域の知見を融合する分野であることから、それぞれを独立した専攻とせず、グローバリゼーションと言語に関わる諸問題を総合的に研究する観点から、再び一つの専攻、すなわち、グローバルスタディーズ専攻に収斂させることとした。言語コミュニケーションに関わる研究をより深めていきたい場合は、継続して本専攻で考究する環境を担保し、言語コミュニケーションと社会・経済現象を複合的にかつ深く探求する機会を提供する。

ケ 入学者選抜の概要

(1) 大学院国際学研究科の教育目標

建学の精神に基づいて、多文化化ならびにグローバル化のもとで激動する現在の世界が直面している諸課題を批判的に検討し、多様な文化が共生する社会の実現や、正義を体現する世界の実現に向けて、語学力に裏打ちされたリーダーシップを発揮して、問題解決に貢献しうる高度の専門的職業人・実務家・研究者の養成を目的とする。

(2) 修士課程国際文化学専攻のアドミッションポリシー

相互依存が一層著しく進む現在の世界が直面する諸課題に対して、文化という観点から批判的に研究を遂行し、その研究で得られた知見を国際社会のなかで専門的かつ実践的に発揮できる人材を養成する。

そのため、次のような関心・目標等を持った人材を受け入れる。

1. 国際的な視点に立脚し、各自の専門性を活かした職業を担うために、国際文化研究の領域において意欲的に研究を進めようとする人
2. 日本、共生社会、言語文化、宗教文化、芸術・メディアなどに関するテーマを、国際的な視野に基づく学問の理論と方法論で研究することを目指す人
3. 国際社会で自らの専門性や実践能力を示そうと志す人

(3) 修士課程グローバルスタディーズ専攻のアドミッションポリシー

グローバル社会の複雑な諸問題に関して深い問題意識をもって研究を遂行することによって、高い語学力や専門知識だけでなく、対話力、分析力・考察力、課題探求力といったグローバル人材に不可欠な資質能力を養い、将来、国際的な課題の解決や豊かな社会の創造に貢献できる人材を養成する。

そのため、次のような関心・目標等を持った人材を受け入れる。

1. グローバル化が急速に進展し、世界のさまざまな問題が一層複雑化するなかで、そのような諸課題の原因究明と解決方法の提案に向けて、意欲的に研究しようとする人
2. 大学院研究科での研究を通じて、深い専門的知識、高い語学力や対話力、分析力や考察力といった課題探求力を培い、リーダーシップを発揮して国内外の社会において活躍したい人

(4) 修士課程言語コミュニケーション専攻のアドミッションポリシー

グローバル社会における言語コミュニケーションに関連する問題に関して深い問題意識をもって研究を遂行することによって、相互に関連を深める国際情勢を複眼的な視点から総合的・大局的に分析し、問題解決に向けて高い英語力・対話力をもって積極的に行動できるリーダーを育成する。

そのため、次のような関心・目標等を持った人材を受け入れる。

1. グローバル社会において、高い語学力・対話力をもってリーダーシップを発揮して活躍すると同時に、他者に対する理解力や寛容さあるいは柔軟性と批判的精神をもって、相互理解や多文化理解を積極的に推進したい人
2. 大学院研究科での研究を通じて、言語コミュニケーションに関わる専門的知識や技能を培い、将来、中学校・高等学校英語教員（専修免許）、通訳・翻訳者などの高度の専門的職業人、あるいは研究者として、国内外の社会に貢献したい人

(5) 国際学研究科修士課程国際文化学専攻の出願資格と合否判定

修士課程国際文化学専攻においては、一般入学試験、社会人入学試験、および外国人留学生入学試験による募集定員を7名とし、本研究科が定める入学試験要項に基づき、受験資格を認める者を対象として選抜試験を実施する。

一般入学試験については、出願書類、筆答試験及び口述試験により総合的に合否を判定する。社会人入学試験については、出願書類、研究論文等の業績、口述試験により総合的に合否を判定する。留学生入学試験については、学科試験方式においては出願書類、筆答試験及び口述試験により総合的に合否を判定し、書類審査方式においては、出願書類により総合的に合否を判定する。

また、国際学部から国際学研究科国際文化学専攻修士課程への進学を希望する成績優秀者を対象に、学内推薦制度を設けて推薦入学試験を実施する。募集人員は若干名とし、主に出願書類と口述試験により合否を判定する。

(6) 修士課程グローバルスタディーズ専攻の出願資格と合否判定

修士課程グローバルスタディーズ専攻においては募集定員を4名とし、本研究科が定める入学試験要項に基づき、受験資格を認める者を対象として選抜試験を実施する。一般、社会人、外国人留学生のすべてで書類審査方式を用い、これまでの研究成果や今後の研究計画など各種の出願書類に基づき総合的に合否を判定する。

また、国際学部から国際学研究科グローバルスタディーズ専攻修士課程への進学を希望する成績優秀者を対象に、学内推薦制度を設けて推薦入学試験を実施する。募集人員は若干名とし、出願書類に基づき総合的に合否を判定する。

(7) 修士課程言語コミュニケーション専攻の出願資格と合否判定

修士課程言語コミュニケーション専攻においては、一般入学試験、社会人入学試験、および外国人留学生入学試験による募集定員を4名とし、本研究科が定める入学試験要項に基づき、受験資格を認める者を対象として選抜試験を実施する。

一般入学試験については、出願書類、口述試験により総合的に合否を判定する。社会人入学試験については、出願書類、研究論文等の業績、口述試験により総合的に合否を判定する。留学生入学試験については、これまでの研究成果や今後の研究計画など各種の出願書類に基づき口述試験を行い、総合的に合否を判定する。

また、国際学部から国際学研究科言語コミュニケーション専攻修士課程への進学を希望する成績優秀者を対象に、学内推薦制度を設けて推薦入学試験を実施する。募集人員は若干名とし、主に書類と口述試験により合否を判定する。

(8) 博士後期課程国際文化学専攻のアドミッションポリシー

修士課程で身に付けた深い学識と研究能力、フィールドワークや研究遂行の過程で得た知見・技能・経験・高い外国語能力を土台とし、独創的で高度な水準の研究を行うことのできる自立した研究者、国内外の研究機関で活躍し、国際文化学の発展に貢献できる人材、多文化の共生する社会の実現に向けて学術的・実践的な側面から貢献できる人材を養成する。

そのため、次のような関心・目標等を持った人材を受け入れる。

1. 国際的および学際的な視点に立脚するとともに、自らの専門的知識に基づいて、国際文化研究の領域における新たな知の地平を切り開こうとする人
2. 大学院修士課程までの研究において、基礎的研究能力をすでに有していることを示せる人
3. これまで十分解明されていない論点について、独自の学術的貢献を果たしたいという意欲を持つ人

(9) 博士後期課程グローバルスタディーズ専攻のアドミッションポリシー

修士課程で身に付けた深い学識と研究能力、フィールドワークや研究遂行の過程で得た知見・技能・経験・高い外国語能力を土台とし、独創的で高度な水準の研究を行うことのできる自立した研究者、国内外の研究機関で活躍し、グローバルな舞台にお

いてリーダーシップを発揮できる人材、グローバル化する国際社会の抱える諸問題の解決に学術的・実践的な側面から貢献できる人材を養成する。

そのため、次のような関心・目標等を持った人材を受け入れる。

国際学研究科修士課程グローバルスタディーズ専攻および言語コミュニケーション専攻の専門性を踏まえて、特に次のような人を求める。

1. 大学院修士課程において関連分野の幅広い専門知識を修得するとともに、高度な学術的研究を行うために必要な自律的・主体的研究力を有している人
2. 独自の視点から研究テーマを設定し、テーマの背景にある原因の究明と解決方法の提案に向けて意欲的に研究し、独自の学術的貢献を果たしたいという強い意欲を持つ人
3. 大学院研究科での研究を通じて、高い語学力および深い専門的知識を培い、国内外の社会において研究者としてまた高度の専門的職業人として活躍したい人

(10) 博士後期課程国際文化学専攻の出願資格と合否判定

博士後期課程国際文化学専攻においては、入学試験、および外国人留学生入学試験による募集定員を2名とし、本研究科が定める入学試験要項に基づき、受験資格を認める者を対象として選抜試験を実施する。

入学試験については、出願書類、筆答試験及び口述試験（面接）により総合的に合否を判定する。外国人留学生入学試験については、学科試験方式は出願書類、筆答試験及び口述試験（面接）により総合的に合否を判定し、書類審査方式は、出願書類により総合的に合否を判定する。

(11) 博士後期課程グローバルスタディーズ専攻の出願資格と合否判定

博士後期課程グローバルスタディーズ専攻においては、入学試験、および外国人留学生入学試験による募集定員を2名とし、本研究科が定める入学試験要項に基づき、受験資格を認める者を対象として選抜試験を実施する。

一般、外国人留学生ともに書類審査方式を用い、これまでの研究成果や今後の研究計画など各種の出願書類に基づき総合的に合否を判定する。

コ 取得可能な資格

修士課程言語コミュニケーション専攻には、「中学校・高等学校英語教員（専修免許）」の課程を併設し、英語科の中学校および高等学校教諭専修免許状の取得を可能としている。ただし、資格取得と修了要件は直接的には関連しておらず、学則に規定されている関連科目を履修することにより、資格取得が可能となっている。

研究科	課程	専攻	教科	免許状の種類
国際学研究科	修士	言語コミュニケーション専攻	英語	中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状

なお、国際学研究科修士課程言語コミュニケーション専攻においては、「英語科」の中学校・高等学校教諭専修免許状の取得が可能であるが、既設の文学研究科において教員免許取得可能な科目（英語／宗教／地理歴史／国語／社会／公民）とは異なるため、入試説明会や入学後の履修指導の機会を通じて十分な説明を行うほか、印刷物や本学HPにおいても教員免許取得可能な科目を明示するなど、学生に誤解が生じることのないよう対応する。

サ 管理運営

本研究科では、龍谷大学大学院学則第 47 条に基づき、国際学研究科委員会を設置する。国際学研究科委員会の構成員は、「国際学研究科委員会規程」に従い、本研究科の授業を担当する専任の教授、准教授及び講師をもって組織する。

また、国際学研究科委員会における審議・決定事項は、以下のとおりとする。

- ・ 人事に関する事項
- ・ 研究科長の選出に関する事項
- ・ 教育課程の編成、履修方法及び試験に関する事項
- ・ 学位論文の審査に関する事項
- ・ 学業評価に関する事項
- ・ 院生の入学、退学、休学、復学及び修了、その他院生の身分に関する事項
- ・ 委員の資格及び承認に関する事項
- ・ その他研究科において必要な事項

研究科委員会は研究科長が招集し、かつ議長となり、構成員の 3 分の 2 以上の出席をもって成立することとする。また、月 1 回程度の開催を予定している。

なお、研究科委員会の円滑な運営を図るため、研究科長、研究科教務主任などからなる執行部会議を設け、研究科委員会の議題整理、審議事項の調整を図る予定である。

シ 自己点検・評価

本学では、「建学の精神」に基づく個性豊かな特色ある教育研究活動等を展開し、私立大学としての自主性、自律性を重んじつつ、有為な人間を育成するとともに、学術文化の向上や社会の発展に貢献することをめざしている。その実現のため、教育・研究の向上を図り、自らの活動を点検・評価し、独自の方法で大学の質（教育研究の質）を自ら保証（内部質保証）することが必要だと考えている。

こうした認識の下、龍谷大学学則第1条に、「本学は教育基本法及び学校教育法にしたがい、浄土真宗の精神に基づく大学として、広く知識を授けるとともに、深く専門の諸学科を教授研究し、併せて有為の人材を育成することを目的とする」と定めるとともに、同第1条の2に、「本学は教育研究の向上をはかり、前条の目的を達成するため、自らの点検・評価を行う」と定めている。また、内部質保証に関する方針として「龍谷大学内部質保証のあり方について」を定め、「機関（組織）としての自己点検・評価」と本学の教育研究等を支える「教員個人の諸活動に対する自己点検」という2つの視点から内部質保証システムを確立し、教育研究水準の維持・向上に努め、質保証に積極的に取り組んでいる。

内部質保証に関する方針にもとづき、平成23（2011）年度から新たに実施している自己点検・評価制度においては、その目的として「質保証のための改革・改善マネジメント（内部質保証システム）の確立」、「大学活動の重点化と大学業務の改善を推進」、「自己点検・評価を通じた社会に対する説明責任の履遂行」を掲げている。

実施体制は、「大学評価に関する規程」に基づき、全学的な自己点検・評価の体制を整備している。具体的には、大学評価に関する重要事項を審議・決定するため、大学執行部である部局長会の下に全学大学評価会議を設置し、その下に、大学評価に関する具体的な業務事項を審議・決定する大学評価委員会を設置している。さらに、全ての学部等（各学部、各研究科、各学舎教養教育、各学部共通コース）に自己点検・評価委員会を設置し、日常的な評価・改善活動を行う体制を整えている。

点検・評価項目については、基本的には公益財団法人大学基準協会の点検・評価項目に準拠しつつ、本学独自の点検・評価項目も加えている。

制度の内容としては、毎年度、すべての学内機関（組織）が自らの判断と責任においてその諸活動について点検・評価を行い、その結果を「自己点検・評価シート」にまとめ、大学評価委員会による点検・評価を経て、全学大学評価会議が評価結果を決定し、学内各機関（組織）にフィードバックし、改善及び向上を図るものである。

以上のような機関（組織）としての自己点検・評価とともに、教員個人の諸活動に対する自己点検として、各教員が、教育、研究、社会貢献、大学管理運営の4領域において、年度初めに基本方針を定めた後、年度内の末に諸活動について自己点検を行い、改善及び向上を図る「教員活動自己点検」も平成23（2011）年度の試行的実施を経て、平成24（2012）年度から継続的に実施している。

自己点検・評価の結果公表については、本学の内部質保証の方針、自己点検・評価の実施体制、関連規程、制度概要とともに、自己点検・評価によって顕在化した大学全体で取り組むべき全学的課題の一覧を本学のホームページに掲載している。また、認証評価の評価結果、点検・評価報告書についても同ホームページにおいて公表している。

なお、平成26（2014）年3月には、公益財団法人大学基準協会から大学認証評価の適合

認定を受けた。現在、努力課題等の指摘事項及び特記すべき長所については、平成 29 (2017) 年 7 月に改善報告書を提出した。今後も、特記すべき長所の伸長、課題改善と更なる充実
に継続的に取り組んでいるところである。

国際学研究科では、上述のような全学的な自己点検・評価システムを活用し、本研究科
が掲げる理念や目標に照らして、研究科全体の課題共有の機会として自主的・継続的な自
己点検活動を行う。また、全学大学評価会議からフィードバックされた指摘事項等ピア・
レビューに対する研究科としての改善・改革方針については、「国際学研究科自己点検・評
価委員会」において検討する。それらは、国際学部執行部とも連携しながら、改善策・改
革策を実施する。

ス 認証評価

平成 16 (2004) 年度より、すべての大学・短期大学は文部科学大臣に認められた認証評
価機関による評価(認証評価)を 7 年以内に 1 度の頻度で受けることが義務付けられている。

前項(シ. 自己点検・評価)において記載のとおり、龍谷大学では公益財団法人大学基
準協会による認証評価を受けており、平成 25 (2013) 年度の大学認証評価の結果、同協会
の大学基準に適合しているとの認定を受けた。なお、認定期間は平成 26 (2014) 年 4 月 1
日から平成 33 (2021) 年 3 月 31 日の 7 年間である。

本研究科も既設大学院研究科の事例を参考にしながら、自己点検・評価において点検項
目の精査、点検、評価を行い、認証評価機関による第三者評価に向けて準備を進める。

セ 情報の公表

本学では、在学生、保護者、卒業生、受験生等に向けて、大学の情報(大学の使命、目
的、大学の運営状況、教育・研究活動等)を積極的に発信している。

とりわけ、大学の基本情報については、平成 23 (2011) 年 4 月 1 日施行の学校教育法施
行規則等の一部改正(教育情報の公表の義務化)を踏まえ、情報の公表に関する規程を整
備し、また、これに基づいて Web サイト「情報公表(基礎データ)」に関するページ
(http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/index.html)
において、関係する情報を取りまとめる等、法人情報及び教育情報の積極的な発信・公表
に努めている。

具体的な情報公表の内容は以下のとおりである。

(1) 大学の教育研究上の目的に関すること

本学の「寄附行為」、「建学の精神、使命及び理念」に関する情報をホームページ上へ掲
載し、本学の教育研究上の目的について情報公表を行っている。

①「学校法人龍谷大学寄附行為」

HOME > 大学紹介 > 情報公表（基礎データ）> 学則・諸規程等に関する情報

http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_11.html

②「建学の精神、使命及び理念」

HOME > 大学紹介 > 大学概要・理念 > 建学の精神

<http://www.ryukoku.ac.jp/about/spirit.html>

（２）教育研究上の基本組織に関すること

法人運営を行う役員・評議員や本学の役職者、教育研究組織、研究関連組織、事務組織等に関する情報をホームページ上に掲載している。

①「役員・役職者一覧」

HOME > 大学紹介 > 龍谷大学について > 組織 > 役員・役職一覧

> 学校法人龍谷大学 役職者

http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/organaization/office_list_02.html

②「教育研究組織」

HOME > 大学紹介 > 龍谷大学について > 組織 > 教育研究組織図

<http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/organaization/education.html>

③「研究関連組織」

HOME > 大学紹介 > 研究 > 研究所・研究センター

<http://www.ryukoku.ac.jp/research/center.html>

④「事務組織」

HOME>大学紹介> 龍谷大学について> 組織> 事務組織図

<http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/organaization/office.html>

（３）教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

教員データベース内に、教員組織や各教員が有する学位及び業績に関する情報を掲載し、教員数については、職階別、男女別、年齢別の情報をそれぞれホームページ内に掲載している。

①「教員データベース」

HOME > 教員データベース（教育・研究業績・教員組織等）

<http://www.ryukoku.ac.jp/who/>

②「教員数（職階別・男女別数）」

HOME > 大学紹介 > 情報公表・大学評価 > 情報公表（基礎データ）

> 学校法人及び学校の基本情報（建学の精神、沿革、組織、学生数・教員数等）

> 教員数（職階別・男女別数）

http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/faculty_1.html

③「教員数（年齢別数）」

HOME > 大学紹介 > 情報公表・大学評価 > 情報公表（基礎データ）

> 学校法人及び学校の基本情報（建学の精神、沿革、組織、学生数・教員数等）

> 教員数（年齢別数）

http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/faculty_2.html

（４）入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

学部及び研究科毎に定める入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）を、ホームページ内「教育活動に関する情報」に掲載し、入学者数、収容定員、在学生数については、ホームページ内「学部・学科・専攻、大学院研究科等の入学者数・編入学者数」へそれぞれ掲載している。

また、卒業生数・修了生数については、ホームページ内「学位授与数」へその情報を掲載し、就職者数その他進学者数、就職に関する情報については、ホームページ内「就職・進路決定率」へそれぞれ掲載している。

①「教育活動に関する情報」

HOME > 大学紹介 > 情報公表・大学評価 > 情報公表（基礎データ）

> 教育活動に関する情報

http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_03.html

②「学部・学科・専攻、大学院研究科等の入学者数・編入学者数」

HOME > 大学紹介 > 情報公表（基礎データ）

> 学生数・入学定員・入学者数・収容定員等

<http://www.ryukoku.ac.jp/about/factbook.html>

③「学位授与数」

HOME > 大学紹介 > 情報公表（基礎データ） > 学位授与数

http://www.ryukoku.ac.jp/about/factbook_09.html

④「就職・進路決定率」

HOME > 就職支援 > 就職関連統計資料 > 就職・進路決定率

<http://career.ryukoku.ac.jp/statistical/index.html>

(5) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

授業科目やそれぞれの科目毎の授業方法、内容、年間（半期）の授業計画に関する情報について、ホームページ内に設置している「シラバス」に掲載している。

①「シラバス」

HOME > 学部・大学院・短大 > web シラバス

<https://capella.ws.ryukoku.ac.jp/RSW/SYLD110Init.do>

(6) 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

成績評価の方法や基準に関する情報については、ホームページ内「学修の成果に係る評価」に掲載している。

①「学修の成果に係る評価」

HOME > 大学紹介 > 情報公表・大学評価 > 情報公表（基礎データ）

> 学修の成果に係る評価

http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/record.html

②「各学部の卒業要件単位数」

HOME > 大学紹介 > 情報公表（基礎データ） > 教育活動に関する情報

> 各学部の卒業要件単位数

http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/img/data/info03/2017_credit_01.pdf

③「各研究科の修了要件単位数」

HOME > 大学紹介 > 情報公表（基礎データ） > 教育活動に関する情報

> 各研究科の修了要件単位数

http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/img/data/info03/2017_credit_02.pdf

(7) 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

ホームページ内「校地・校舎等の施設・設備に関する情報」にそれらの情報を掲載している。

①「校地・校舎等の施設・設備に関する情報」

HOME > 大学紹介 > 情報公表（基礎データ）

> 校地・校舎等の施設・設備に関する情報

http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_08.html

(8) 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

授業料や施設費、入学金等の学費とその他諸会費に関する情報をホームページ上に掲載する他、次年度の学費について保護者に対して通知すること等により、学生から徴収する費用について情報公表を行っている。

①「学費」

HOME > 学生生活 > 奨学金・学費について > 学費

http://www.ryukoku.ac.jp/campus_career/expense/school.html

(9) 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

本学が実施している学生生活全般に関する情報については、ホームページ内「学生生活・課外活動に関する情報」に、就職支援等進路選択に関する情報については、ホームページ内「進路・就職に関する情報」にそれぞれ掲載している。

①「学生生活・課外活動に関する情報」

HOME > 大学紹介 > 情報公表（基礎データ）> 学生生活・課外活動に関する情報

http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_05.html

②「進路・就職に関する情報」

HOME > 大学紹介 > 情報公表（基礎データ）> 進路・就職支援に関する情報

http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_07.html

(10) その他

①「認証評価結果」

HOME > 大学紹介 > 大学評価 > 認証評価

http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/appraisal.html

②「自己点検・評価」

HOME > 大学紹介 > 自己点検・評価（内部質保証）

<http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/evaluation/evaluation.html>

③「学則・諸規程等」

HOME > 大学紹介 > 情報公表（基礎データ）> 学則・諸規程等に関する情報

http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_11.html

また、対外的な情報発信については、大学の広報機能の強化・充実を目的として策定した「広報基本戦略」に基づき、マスメディア等に対して積極的な情報発信を実施している。

この他、受験生向けの大学案内誌や本学学生・教職員の活躍や特色ある取り組みを紹介する広報誌「龍谷」の発行、学生広報スタッフによるメールマガジンの配信等により、幅広いステークホルダーに対して、本学の情報発信を行っている。

(11) 国際学研究科独自の情報発信

国際学研究科の情報を独自に発信するためのホームページを国際学部と同一のフォーマットで作成する。各専攻のカリキュラムや、研究指導プロセスについて詳説することで、他大学出身者や社会人に対しても積極的な情報提供に努める。また、一般の方も参加可能な大学院生・教員による公開研究発表会／公開審査会の案内や大学院生の活動などを日々更新し、興味喚起につなげる。ホームページは英語版も作成し、特にグローバルスタディーズ専攻への出願促進につなげる。また、日本語版の案内冊子および、英語版の案内リーフレットも作成し、配布する。

ソ 教育内容等の改善のための組織的な研修等

1. 全学的なFDに関する取組

本学は、第4次長期計画で掲げた「教育の充実」の一環として、それまで個人・グループ、または各教学責任主体で行われてきた教育改善活動を集約して、大学全体の教育の質及び教育力の向上を実現するために、平成13(2001)年度に全学的なFD活動の中核機関となる大学教育開発センターを設立した。その後、平成20(2008)年11月には、すべての学部にFD委員会を設置し、各学部FD委員会を中心としたFD活動とセンターのFD推進・支援がそれまで以上に有機的に連携・協働できる体制を整備した。

大学教育開発センターは、FDの義務化等、高等教育をめぐる動向にも対応しつつ、教員個人及び各学部・研究科等と連携・協働しながら、第4次長期計画で掲げた「教育の充実」及び平成22(2010)年度からスタートした第5次長期計画で掲げた「教育を重視する大学」の実現に寄与してきた。この第5次長期計画においては、教育の個性化や特色化を推進することにより、優れた研究を基盤とした「教育を重視する大学」の実現をめざしている。

大学教育開発センターでは、社会や学生の多様なニーズに応え、学部・大学院教育の充実と質保証に向けた組織的・継続的なFD活動を活性化し推進していくために、平成24(2012)年度には、さらなる運営体制の見直しを行った。この新たな運営体制においては、これまでの龍谷大学におけるFD活動の実施状況を踏まえ、組織の強化と運営の円滑化を図るため、新たにFD活動における企画立案機能の強化と効率化を図るために「FD企画推進委員会」を設置するとともに、各学部・研究科において実施されるFD活動との全学的な連携・協働を図るため「学部FD協議会」、「大学院FD協議会」を設けた。

平成27(2015)年度に、大学教育開発センターは、スチューデント、グローバル、ナレッジの3つの機能別コモンズからなる龍谷大学ラーニングコモンズの開設による学修支援環境の充実と、高等教育をめぐる動向の変化にともなうFDの射程の拡大に対応するため、従来のFD活動に加え、全学的な学修支援を実施する学修支援・教育開発センターに改組し、現在、教育改善活動と学修支援からなる全学的なFD活動を積極的に推進し、大学全体の教育の質及び教育力のさらなる向上を目指している。

学修支援・教育開発センターには、「学修支援・教育開発センター規程」に基づき、その運営に関する重要事項を審議・決定するため、各学部教務主任を中心とした「学修支援・教育開発センター会議」があり、センターにおける全学的なFDに係る取り組みとして、主

に「教育開発・研究」、「教育改善活動支援」、「教育活動交流・研修」、「学内外との連携、情報収集・発信事業」の4つの取り組みを中心とし具体的なFD活動を推進している。以下、各々の概要を示す。

（１）教育開発・研究

全学的に必要な教育開発の基盤を構築することを目的に学修支援・教育開発センターが指定するテーマについて研究を行う指定研究プロジェクト（平成16（2004）年度～）及び教職員（非常勤講師を含む）が個々にテーマを設定して取り組む自己応募研究プロジェクト（平成10（1998）年度～）を募集・採択し、教育開発・研究の支援を行っている。研究活動を通じて得られた成果についてはポスターセッションや報告会を通じ広く公開、共有することで全学的なFD活動の波及を図っている。

（２）教育改善活動支援

この取り組みでは、平成7（1995）年度より「授業アンケート」を実施してきた。現在は、「学生による学期末の授業アンケート」として毎学期末にmanaba courseを使ったWebアンケートを実施し、教員へ個別集計結果を配付、授業改善のためのフィードバックを行っている。また、当該学期中に学生へのフィードバックが可能となるよう、「学生による学期初めの授業アンケート」「学生による学期半ばの授業アンケート」を実施している。

（３）教育活動交流・研修

本取り組みでは、本学の教育理念をはじめ、本学の教育研究活動支援サービスの利用方法等に関する「教育職員新任者就任時研修会」及び「フォローアップ研修」、学内教職員のFD活動に関する啓発と交流を図るための「FDサロン」、文教政策の動向等を踏まえ、大学教育やFD活動等に関する社会性・話題性のあるテーマを設定した「FDフォーラム」、公開授業と講評会、各学部・研究科が実施するFD活動の取り組み状況や成果を全学に紹介する「FD報告会」、授業方法等の改善や教職員のスキル向上を図るための教育手法等に係る「FD研修会」を開催している。

（４）学内外との連携、情報収集・発信事業

本事業では、学部FD協議会、大学院FD協議会を通じ、各学部・研究科の取り組みに関する情報交換・共有を図っている。また、定期刊行物として学修支援・教育開発センター通信（年2～3回）を発行している他、学内外のFDに関するイベントや取り組みを紹介するための学修支援・教育開発センターNEWSや、FDサロンレポート、FDフォーラム報告書等を適宜発行し、本学のFD活動を広く発信している。また、これらについては本学Webサイトでも公開している。

その他、学外との交流連携を推進するため、全国私立大学FD連携フォーラム、関西地区FD連絡協議会、大学コンソーシアム京都、私立大学連盟、全国高等教育研究所等協議会等へ加盟しFDネットワークの構築や研究、情報収集に努めている。

2. 大学院国際学研究科におけるFDに関する取組

国際文化学研究科ではこれまでも、研究科長と執行部が中心となり、各種のFD活動を実施してきた。とりわけ平成27(2015)～平成29(2017)年度の間においては、多様なFD活動を継続的に実施してきた。それらは、大きく分けると、三つの種類に大別することができる。【資料19. 2015～2017年度FD研究会実施一覧】

まずひとつには、研究科所属の教員が主体となって実施する、最新の研究動向を発表し、研究科内外の関係者と共有することを目指すランチタイムセミナー、また外部研究者を招聘して多文化化ならびにグローバル化に関わる最新の課題についての研究会の開催である。

ふたつ目に、授業改善の会議である。研究科の基礎科目である「国際文化学」、方法論を扱う「国際文化研究 A～D」、さらに教員や学生の発表を中心におこなう「コアセミナー」の担当者が集まり、各授業の内容や教材、また教授方法を共有し、各授業間の連携を深め、学生にとってできる限りこれらの科目が相乗効果を持つように努めてきた。この授業改善の会議は、過去4年間は5月に開催した。また、近年では中国人留学生の増加に伴い、これらの基幹科目において中国人留学生が研究内容を発表したり、教員と協議する場においては、通常の担当教員に加えて中国語を理解する教員が補助的に授業に参加するなど、中国人留学生との意思疎通の円滑化を図った。

最後に、他大学の研究科との交流である。平成27(2015)年度～平成29(2017)年度においては、山口県立大学大学院国際文化学研究科と交流した。とりわけ異なったテーマを研究している大学院生間で交流することは、問題意識の共有や方法論の探求において、学内の研究だけでは得られない成果を上げることができた。

これら三種類のFD活動は、研究科の改組後も引き続き実施する予定である。第一の研究会開催については、研究科が複数の専攻に分かれるものの、研究科としての一体性を維持するためにも、内外の著名な研究者を交えた研究の最新動向についての学際的研究会の開催は必須で、最低でも年に一回は開催する必要があると考える。教員主体となって行っている研究発表もあわせて継続実施していく。

二番目の基礎科目関連の授業改善会議も継続して実施する予定である。とりわけ修士課程における教学体制は3専攻に分かれるものの、全ての専攻が学際的研究を志向し多様なコンテンツと方法論を学生に提示するという観点は共有しているため、今後とも3専攻の担当者が協議を続けていくことは有意義である。

第三の他研究科との交流においては、改組後の研究科の運営体制を早めに確立し、これまでの実績をふまえて将来の活動を継続的に展開していく。具体的には山口県立大学大学院国際文化学研究科に加えて、同系統の学問領域をもつ近隣大学院や、日本国際文化学会などの関連学会とも研究交流に関する協議をして積極的な連携強化を目指す。

3. SDに関する取組

本学では、SD活動として、事務職員のキャリア形成に向けて、事務職員に求められる必要な知識と技能を計画的・継続的に修得するために各種の研修制度を用意している。

研修の目的としては、学校法人龍谷大学就業規則及び事務職員研修規程において、「職員は、その職責遂行のため自発的に研修に励み、かつ、法人の行う研修をうけなければならない

ない」、「研修は、教育と訓練によって、必要な知識と技能を修得させ、事務職員の資質向上と自己啓発を促し、業務の推進を計る人材を養成することを目的とする」、「研修は、長期的な人材養成の一環として、継続的・計画的に行うものとし、事務職員の自主的な研修についても、これを奨励するものとする」と規定されている。事務職員は、本学の目標である「教育」「研究」「社会連携」を深く理解し、大学目標の実現を積極的に遂行するスタッフであることを認識し、その業務の遂行にあたっては、自ら担当する業務が諸政策遂行の一環業務であることを常に意識し、他の業務担当者との連携をはかり教学と経営の両視点からの政策を提案し得るよう、一業務分野の第一人者として専門知識向上に努めるとともに、マネジメント能力を育成するよう支援するための各種研修を実施している。

なお、具体的には、各事務職員の資格に応じた「資格別研修」、特定のテーマを持って選抜された事務職員による海外の大学調査をおこなう「海外高等教育研修」、本学が加盟する私立大学連盟等が主催する研修会に参加する「選抜研修」、部署内の業務改善や知識の修得をめざす「部署別研修」等のプログラムを用意している。

以 上

龍谷大学 大学院 国際学研究科 設置の趣旨等を記載した書類

【 資料目次 】

- 資料 1 龍谷大学国際学部と大学院国際学研究科との関係
- 資料 2 課程編成の考え方
- 資料 3 大学院国際学研究科の3ポリシー
- 資料 4 アジア・アフリカ総合研究プログラム案内冊子（2018年度入学生向け）
- 資料 5 国際学研究科修士課程国際文化学専攻のカリキュラム概念図
- 資料 6 国際学研究科修士課程グローバルスタディーズ専攻のカリキュラム概念図
- 資料 7 国際学研究科修士課程言語コミュニケーション専攻のカリキュラム概念図
- 資料 8 4月入学・9月入学生の基礎科目・演習科目の履修について
- 資料 9 職員定年規程
- 資料 10 特別任用教員規程
- 資料 11 2017年度オフィスアワー一覧
- 資料 12 修士課程学位授与までのプロセス
- 資料 13 学位審査の客観性・厳格性の確保にかかる申合せ
- 資料 14 研究活動に係る不正行為の防止及び対応に関する規程
- 資料 15 研究活動に係る不正行為の防止及び対応に関する規程第6条の2にかかる運用細則
- 資料 16 博士後期課程学位授与までのプロセス
- 資料 17 国際学研究科大学院合同研究室の見取り図
- 資料 18 学術雑誌等一覧
- 資料 19 2015～2017年度FD研究会実施一覧

龍谷大学国際学部と大学院国際学研究科との関係

国際学研究科(博士後期課程)

国際文化学専攻

グローバルスタディーズ専攻

国際学研究科(修士課程)

国際文化学専攻

グローバルスタディーズ
専攻

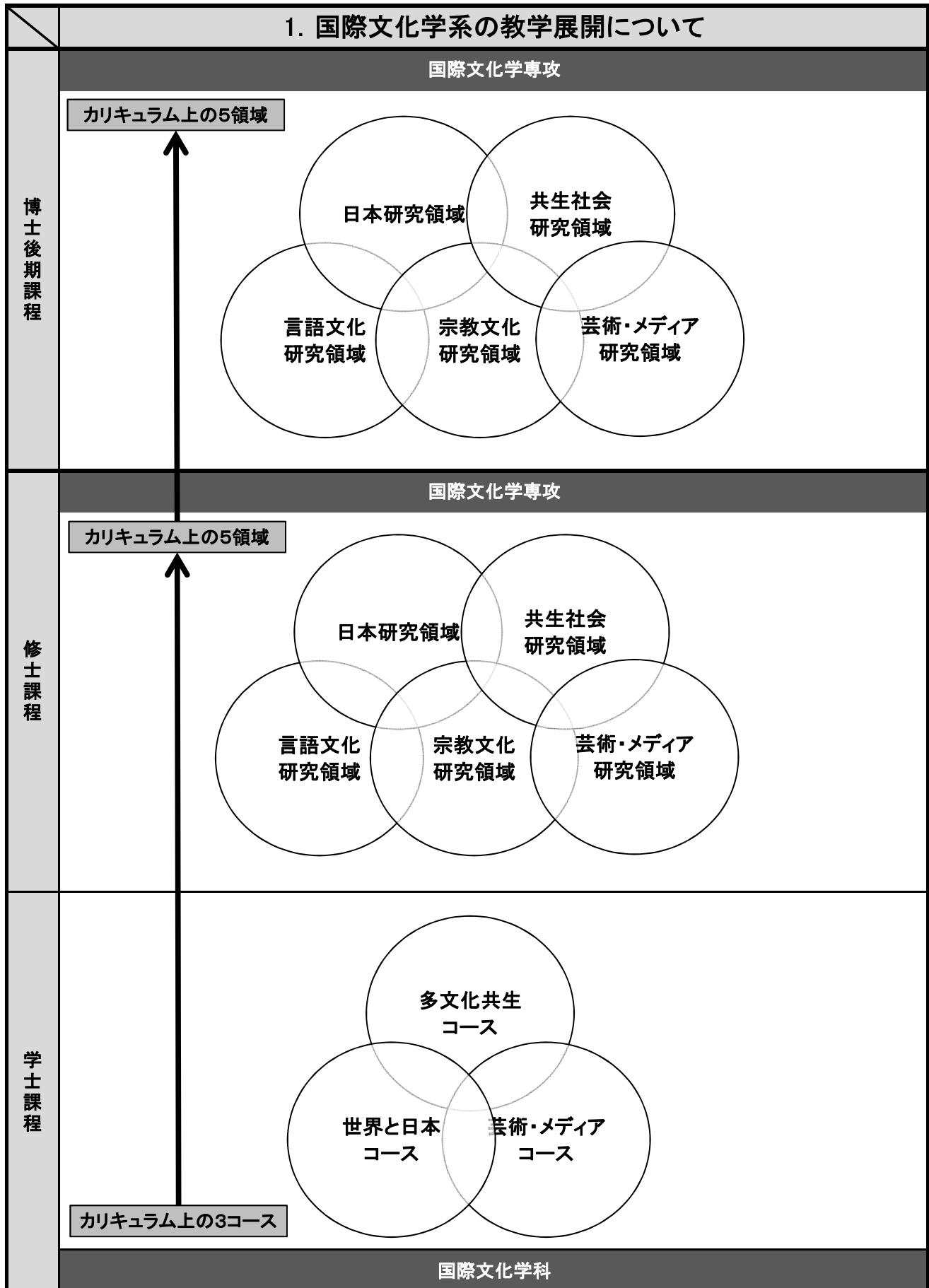
言語コミュニケーション
専攻

それぞれの学科に対応した専攻

日本について世界に発信できる人材を育成
国際文化学科

世界を舞台に活躍するリーダーを育成
グローバルスタディーズ学科

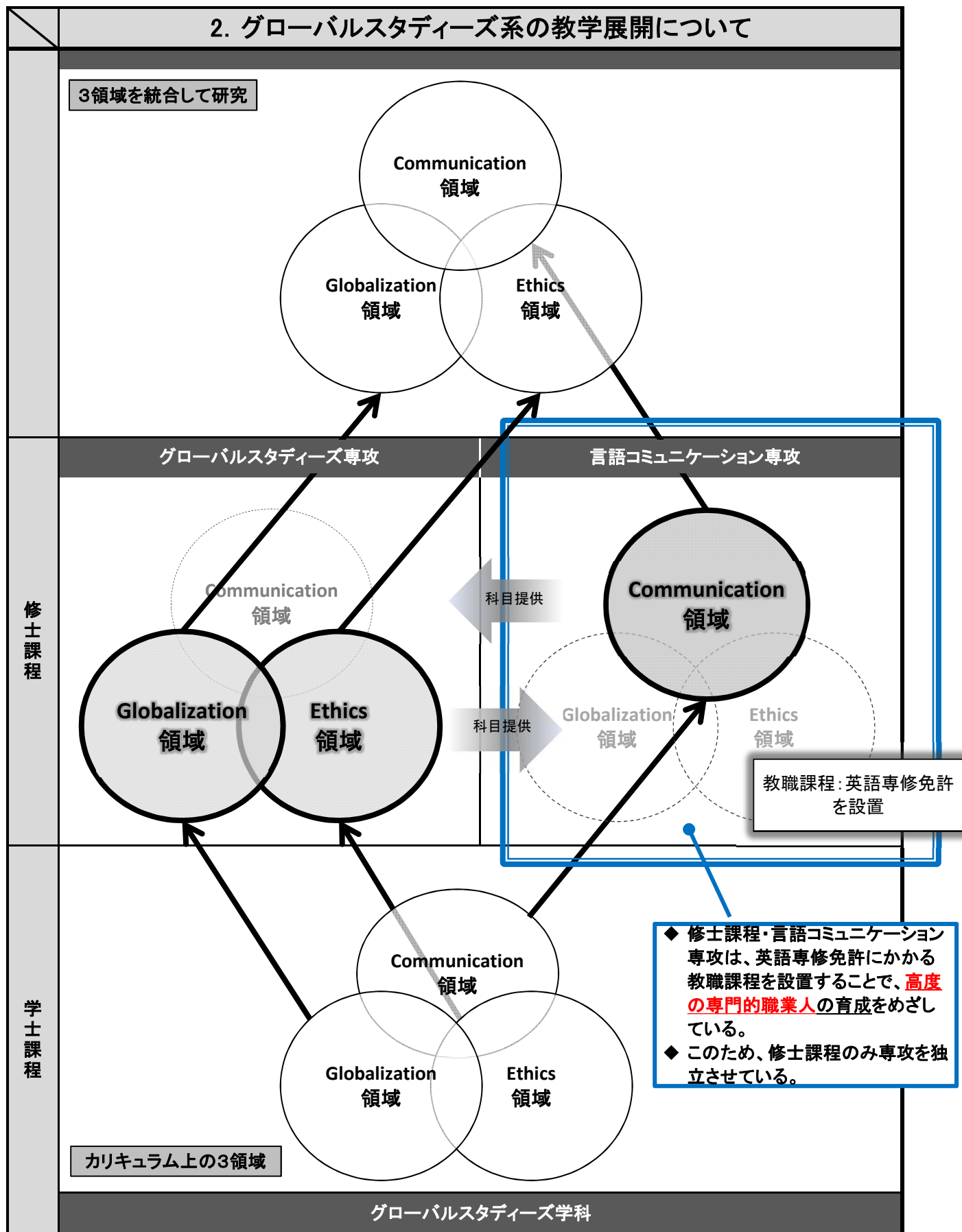
国際学部



【注記】

○基礎となる学部(国際学部)から修士課程・博士後期課程まで、一貫した教学展開をおこなう。

2. グローバルスタディーズ系の教学展開について



【注記】

- 基礎となる学部(国際学部)における教育を基盤に、より高度で専門性を備えた人材を修士課程において育成する。
- 特に、専修免許課程を併置する「Communication領域」は、英語による言語コミュニケーションと教職人材の育成に専門特化することから、グローバルスタディーズ専攻から独立した言語コミュニケーション専攻を設置する。
- 博士後期課程においては、3領域すべてを敷衍した研究を行うことで多様で複眼的な視点を育むことを目的に一専攻とする。

大学院国際学研究科の3ポリシー
修士課程国際文化学専攻

資料3

ディプロマポリシー	大学院学生に保証する基本的な資質 ＜備えるべき能力＞ ・日本、共生社会、言語文化、宗教文化、芸術・メディアなどの研究内容について国際的な視野の中で位置づけたうえで理解することができる。 ・相互依存が著しく進む現代世界が直面する新たな諸現象・諸問題を、文化の視座から批判的に考察することができる。 ・高度な専門的知識と外国語能力を発揮して解決方法を探求することができる。 ＜将来発揮することが期待される能力＞ ・国際文化学の総合的知識や専門分野の知識を、多角的に活用できる。 ・研究を通じて得られた知見を高度の専門的職業人・実務家として発信し、社会に貢献することができる。
	学位授与の諸要件 ・修士課程に2年以上在学すること。 ・正規の授業を受け、所定の科目について30単位以上を修得すること。 ・必要な研究指導を受けたうえ、修士論文を提出してその審査および最終試験に合格すること。
カリキュラムポリシー	・国際文化研究の多様な側面を理解し、その中で自分の方法論を確立していくために、「国際文化学」「調査方法論」を必修として配置する。 ・1年次から演習を配置し、指導に当たる主・副となる教員の指導を受けることで、研究遂行にあたっての基礎知識を修得し、自らの研究テーマに関わる分析力・考察力を養い、修士論文を作成する。 ・日本、共生社会、言語文化、宗教文化、芸術・メディアに関連する専門科目を設ける。これらの専門科目においては、各自の研究テーマに必要な語学能力、文献探索能力、フィールドワークの能力などを身に付けられるような授業内容とする。
アドミッションポリシー	相互依存が一層著しく進む現在の世界が直面する諸課題に対して、文化という観点から批判的に研究を遂行し、その研究で得られた知見を国際社会のなかで専門的かつ実践的に発揮できる人材を養成する。 そのため、次のような関心・目標等を持った人材を受け入れる。 1. 国際的な視点に立脚し、各自の専門性を活かした職業を担うために、国際文化研究の領域において意欲的に研究を進めようとする人 2. 日本、共生社会、言語文化、宗教文化、芸術・メディアなどに関するテーマを、国際的な視野に基づく学問の理論と方法論で研究することを目指す人 3. 国際社会で自らの専門性や実践能力を示そうと志す人

修士課程グローバルスタディーズ専攻

ディプロマポリシー	大学院学生に保証する基本的な資質 ＜備えるべき能力＞ ・グローバル化が急速に進展しつつある現代世界を、幅広い視点から複合的かつ批判的に理解することができる。 ・特定の課題について既存の研究と比較しながら研究テーマを設定し、その解決方法を探求することができる。 ＜将来発揮することが期待される能力＞ ・高度な専門的知識と外国語能力を発揮して、現代の国際社会が抱える諸問題の解決方法を探求することができる。 ・研究を通じて得られた知見を高度の専門的職業人・実務家として、国際的な舞台でリーダーシップを発揮し提言することで社会的に重要な役割を担うことができる。
	学位授与の諸要件 ・修士課程に2年以上在学すること。 ・正規の授業を受け、所定の科目について30単位以上を修得すること。 ・必要な研究指導を受けたうえ、英語で修士論文を提出してその審査および最終試験に合格すること。
カリキュラムポリシー	・グローバルな舞台で活躍できる人材を育成するために、全ての授業は英語にて提供される。1年次科目として「Introduction」ならびに「GS Research Methods」を配置し、各自の研究がどのような意義を持ち、またその遂行にはどのような方法論を選択する必要があるかを修得する。 ・1年次から演習を配置し、主・副担当教員からの助言と指導をもとに、研究遂行にあたって必要な基礎知識を修得し、自らの研究テーマに関わる分析力・考察力を養い、英語で修士論文を作成する。 ・既存の国際学部グローバルスタディーズ学科に対応し、グローバルスタディーズを「グローバリゼーション」、「コミュニケーション」、「エシックス」の3領域からなる研究分野であると定義する。そのうえで、これらの領域が複合的に重なりあう部分に呼応する研究テーマをそれぞれの大学院生が設定し、それらの課題を広さと深さを併せ持つ形で探求するような授業内容とする。
アドミッションポリシー	グローバル社会の複雑な諸問題に関して深い問題意識をもって研究を遂行することによって、高い語学力や専門知識だけでなく、対話力、分析力・考察力、課題探求力といったグローバル人材に不可欠な資質能力を養い、将来、国際的な課題の解決や豊かな社会の創造に貢献できる人材を養成する。 そのため、次のような関心・目標等を持った人材を受け入れる。 1. グローバル化が急速に進展し、世界のさまざまな問題が一層複雑化するなかで、そのような諸課題の原因究明と解決方法の提案に向けて、意欲的に研究しようとする人 2. 大学院研究科での研究を通じて、深い専門的知識、高い語学力や対話力、分析力や考察力といった課題探求力を培い、リーダーシップを発揮して国内外の社会において活躍したい人

修士課程言語コミュニケーション専攻

ディプロマポリシー	大学院学生に保証する基本的な資質 ＜備えるべき能力＞ ・グローバル化が急速に進展する社会における言語およびコミュニケーションの意義や役割を批判的に理解することができる。 ・言語コミュニケーションに関する高い専門的知識や英語運用能力を身につけている。 ＜将来発揮することが期待される能力＞ ・高い語学力・対話力をもってリーダーシップを発揮し、国内外の社会に貢献することができる。 ・高度の専門的職業人・実務家として相互理解や多文化理解の推進に貢献することができる。
	学位授与の諸要件 ・修士課程に2年以上在学すること。 ・正規の授業を受け、所定の科目について32単位以上を修得すること。 ・必要な研究指導を受けたうえ、英語で修士論文を提出してその審査および最終試験に合格すること。
カリキュラムポリシー	・1年次には「第二言語習得」に関わる質的・量的調査法に関わる基礎科目を必修科目として配置し、研究方法に関する基礎を修得する。 ・「通訳・翻訳」、「英語教育学」、「応用言語学」の3領域に関わる重点科目を系統的に配置し、言語教育の研究に関わる理論的・実践的基盤を培う。 ・1年次から演習を必修科目として配置し、主・複指導教員の指導・助言を受けながら、研究を遂行する専門的知識や方法を修得し、自らの研究テーマに関わる分析力・考察力を養い、英語で修士論文を作成する。
アドミッションポリシー	グローバル社会における言語コミュニケーションに関連する問題に関して深い問題意識をもって研究を遂行することによって、相互に関連を深める国際情勢を複眼的な視点から総合的・大局的に分析し、問題解決に向けて高い英語力・対話力をもって積極的に行動できるリーダーを育成する。そのため、次のような関心・目標等を持った人材を受け入れる。 1. グローバル社会において、高い語学力・対話力をもってリーダーシップを発揮して活躍すると同時に、他者に対する理解力や寛容さあるいは柔軟性と批判的精神をもって、相互理解や多文化理解を積極的に推進したい人。 2. 大学院研究科での研究を通じて、言語コミュニケーションに関わる専門的知識や技能を培い、将来、中学校・高等学校英語教員（専修免許）、通訳・翻訳者などの高度の専門的職業人、あるいは研究者として、国内外の社会に貢献したい人

博士後期課程国際文化学専攻

ディプロマポリシー	大学院学生に保証する基本的な資質 <備えるべき能力> ・変化の著しい国際社会を、文化の視点を軸として複合的かつ批判的に理解することができる。 ・既存の研究と比較して自らの研究テーマを適切に位置づけ、特定の課題についての独自の解決方法を内外に向かって提言することができる。 ・多様化する国際社会が抱える諸課題を文化の観点から批判的に理解したうえで独自の視点から説得力ある議論を展開することができる。 <将来発揮することが期待される能力> ・高い職業的倫理観と責任感を持って、自立した研究者あるいは高度の専門的職業人として社会に貢献することができる。 ・語学力、文献検索能力、フィールドワークの能力などを活かして、日本や世界において活躍することができる。 学位授与の諸要件 ・博士後期課程に3年以上在学すること。 ・所定の科目について12単位以上を修得すること。 ・必要な研究指導を受けたうえ、博士論文を提出してその審査及び最終試験に合格すること。
カリキュラムポリシー	・演習指導を通じて、専門的知識をさらに深めるのみならず、複合的・学際的視点をを用いて、設定したテーマにアプローチできるための幅広い学術的研鑽を積み重ねる。 ・研究科内外での学会や研究会において発表を行い、内外の研究者との交流を深めるとともに、将来自立した研究者となるために必要なさまざまな能力を構築する。 ・先行研究によっても十分解明されていない論点について学術的にも貢献できるように、研究の射程ならびに研究の方法論について独自の視点をもてるようにする。 ・1年次から演習を配置し、主・副担当教員からの助言と指導をもとに、自らの研究テーマに関わる分析力・考察力を養い、博士論文を作成する。
アドミッションポリシー	修士課程で身に付けた深い学識と研究能力、フィールドワークや研究遂行の過程で得た知見・技能・経験・高い外国語能力を土台とし、独創的で高度な水準の研究を行うことのできる自立した研究者、国内外の研究機関で活躍し、国際文化学の発展に貢献できる人材、多文化の共生する社会の実現に向けて学術的・実践的な側面から貢献できる人材を養成する。 そのため、次のような関心・目標等を持った人材を受け入れる。 1. 国際的および学際的な視点に立脚するとともに、自らの専門的知識に基づいて、国際文化研究の領域における新たな知の地平を切り開こうとする人 2. 大学院修士課程までの研究において、基礎的研究能力をすでに有していることを示せる人 3. これまで十分解明されていない論点について、独自の学術的貢献を果たしたいという意欲を持つ人

博士後期課程グローバルスタディーズ専攻

ディプロマポリシー	大学院学生に保証する基本的な資質 ＜備えるべき能力＞ ・グローバル化が急速に進展しつつある現代世界を、幅広い視点から複合的かつ批判的に理解することができる。 ・既存の研究と比較して自らの研究テーマを適切に位置づけ、特定の課題についての独自の解決方法を内外に向かって提言することができる。 ・先行研究によっても十分解明されていない研究テーマについて、独自の視点から説得力ある議論を英語にて展開することができる。 ＜将来発揮することが期待される能力＞ ・高い職業的倫理観と責任感を持って、自立した研究者あるいは高度の専門的職業人として社会に貢献することができる。 ・グローバル社会が抱える諸課題に対して独自の視点から説得力ある議論を英語で展開することができる。 学位授与の諸要件 ・博士後期課程に3年以上在学すること。 ・所定の科目について14単位以上を修得すること。 ・必要な研究指導を受けたうえ、英語で博士論文を提出してその審査及び最終試験に合格すること。
カリキュラムポリシー	・演習指導を通じて、専門的知識をさらに深めるのみならず、人文学の視座を中心にした複合的・学際的視座から、設定したテーマにアプローチできるための幅広い学術的研鑽を積み重ねる。 ・研究科内外での学会や研究会において発表を行い、内外の研究者との交流を深めるとともに、将来自立した研究者となるために必要なさまざまな能力を構築する。 ・1年次に「PhD Research Seminar」を配置し、研究成果を効果的に発信するために必要なスキルと方法を学び、自立した研究者となるための能力を涵養する。 ・1年次から演習を配置し、主・副担当教員からの助言と指導をもとに、自らの研究テーマに関わる分析力・考察力を養い、英語で博士論文を作成する。
アドミッションポリシー	修士課程で身に付けた深い学識と研究能力、フィールドワークや研究遂行の過程で得た知見・技能・経験・高い外国語能力を土台とし、独創的で高度な水準の研究を行うことのできる自立した研究者、国内外の研究機関で活躍し、グローバルな舞台においてリーダーシップを発揮できる人材、グローバル化する国際社会の抱える諸問題の解決に学術的・実践的な側面から貢献できる人材を養成する。 そのため、次のような関心・目標等を持った人材を受け入れる。 国際学研究科修士課程グローバルスタディーズ専攻および言語コミュニケーション専攻の専門性を踏まえて、特に次のような人を求める。 1. 大学院修士課程において関連分野の幅広い専門知識を修得するとともに、高度な学術的研究を行うために必要な自律的・主体的研究力を有している人 2. 独自の視点から研究テーマを設定し、テーマの背景にある原因の究明と解決方法の提案に向けて意欲的に研究し、独自の学術的貢献を果たしたいという強い意欲を持つ人 3. 大学院研究科での研究を通じて、高い語学力および深い専門的知識を培い、国内外の社会において研究者としてまた高度の専門的職業人として活躍したい人

龍谷大学大学院

アジア・アフリカ 総合研究プログラム

資料

4

You,
Unlimited



龍谷大学
RYUKOKU UNIVERSITY

2018
Ryukoku
University
Graduate Program of
Asian and African
Studies(GPAAS)

アジア・アフリカ 総合研究プログラム

Graduate Program of Asian and African Studies (GPAAS)



現地の人々の視点にたった地域研究を実践する

グローバル化が進行し、日本とアジア・アフリカの関係が発展するなかで、それら諸国の深い学術的理解を目的とする高度な専門教育の実現が待望されてきました。このプログラムは、日本の私立大学で唯一のアジア・アフリカの地域研究に特化した大学院修士課程のプログラムです。

プログラム科目はアジア・アフリカ地域に関する「地域研究科目」と、専門分野（政治学、経済学、国際文化学）の分析手法（ディシプリン）を習得する「総合研究科目」の二本柱から構成されています。地域の特殊性に対する鋭敏な感性と普遍的で厳格な学術的手法の両方を習得することで、地域と専門の両方を兼ね備えた地域分析の専門家を育成していきます。

ある地域が抱える問題を抽出し、解決策を探るには、そこで生きる人々の視点にたち、その社会独特の文脈を理解する必要があります。歴史、文化、社会、政治等で複雑に入り組んだアジア・アフリカ地域を理解するには、特にその点が重要です。龍谷大学は仏教という人間救済を主眼とする革新的な世界観を数百年来探求してきた浄土真宗の厚い知的蓄積の上に設立されました。現在ではこの地域を専門に研究する多様な教授陣が豊富に揃っている大学でもあります。本プログラムを実施する上で最適な環境が整っているのです。

アジア・アフリカ総合研究プログラム5つの特徴

Point
1

3研究科の共同運営

このプログラムは、法学研究科、経済学研究科、国際文化学研究科の3つの研究科が共同で運営する大学院修士課程の共通プログラムです。履修を希望する場合はいずれかの研究科に所属する必要があります。それぞれの研究科から、アジア・アフリカ地域研究で豊富な実績を持つ教員が科目を担当し、研究科の枠を越えてプログラム生を指導しています。

→詳細は5.6ページへ

期待される主な進路先

- 研究者
- 教員
- 国際機関
- 国際協力機関
- NGO、NPO
- 民間企業
- 政府機関
- 地方自治体
- マスコミ
- 出版 など

Point
2

様々な入試制度を用意

本学では、学内推薦入試、一般入試、社会人入試等、様々な入試制度を用意していますので、自身に合った入試を選択することができます。また、法学研究科では、独自に「アジア・アフリカ総合研究プログラム入試」を整備しています。プログラム進学後の研究計画書をもとにした、筆答試験1科目と口述試験により合否を判断します。



Point
3

充実したフィールド調査補助費制度

アジア・アフリカ地域に対して旺盛な研究意欲を持ち、論文作成においてフィールド調査を行うことが認められたプログラム生に対して、フィールド調査補助費制度を設けています。これまで多くの学生がフィールド調査補助費制度を利用し、修士論文の作成に役立てています。

→詳細は3.4ページへ



Point
4

修士号とプログラム修了証の授与

本プログラムを修了した学生は、所属する研究科の修士号（法学修士、経済学修士、国際文化学修士）と、プログラム修了証（Certificate of Completion of Graduate Program in Asian and African Studies）を同時に修得できます。



Point
5

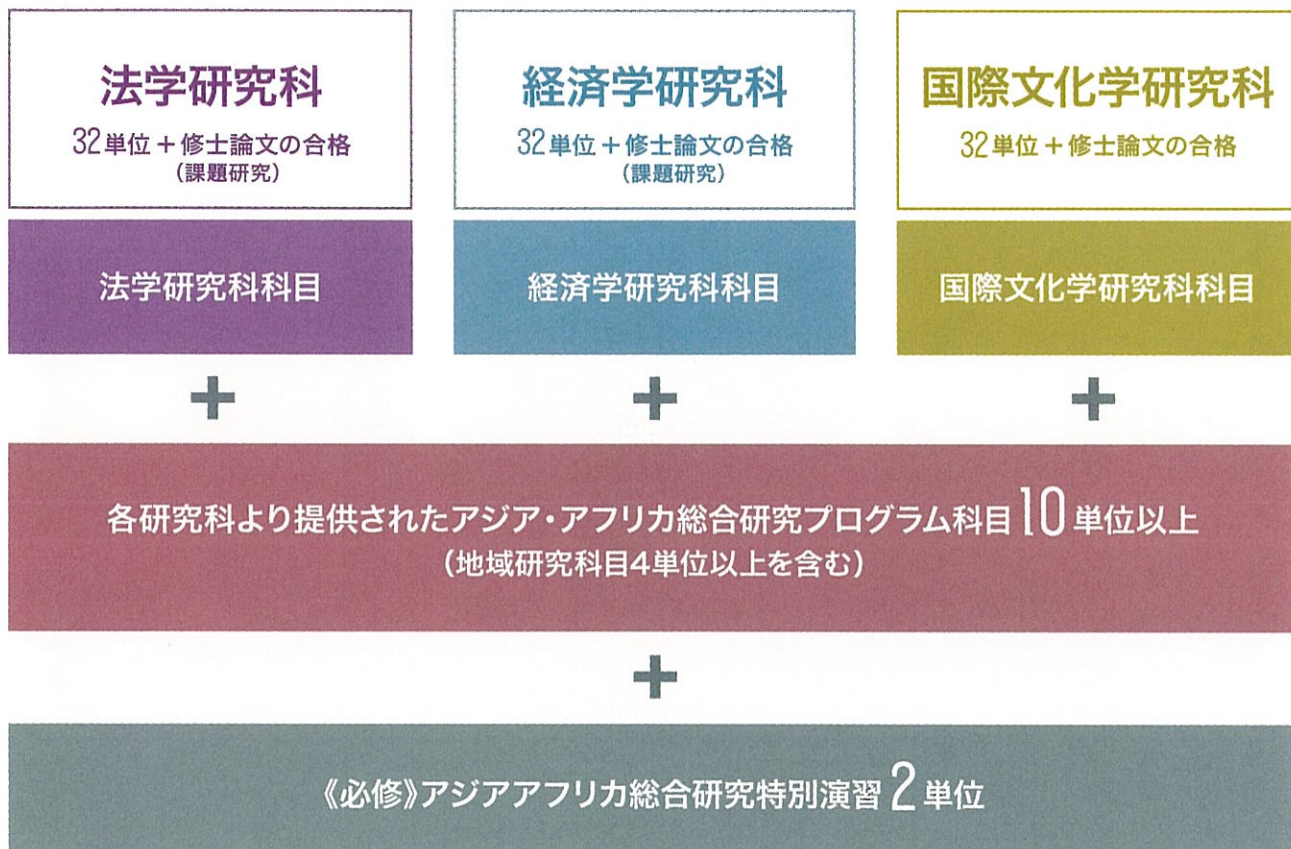
多様な進路が開かれています

本プログラムを履修した学生は、途上国で実践的に活動できる基礎力を修得しているため、多彩な地域研究と豊富な専門研究を生かし、さまざまな進路に進むことが可能です。

3研究科に渡るカリキュラム

プログラム生は3研究科のいずれかに所属し、プログラム科目および研究科科目を履修します。
アジア・アフリカ総合研究プログラムに所属すれば、研究科の枠を越えた科目の履修、
他研究科所属教員からの指導を受けることができます。
なお、修士論文の指導は所属研究科の教員が行います。

▼ 修了要件



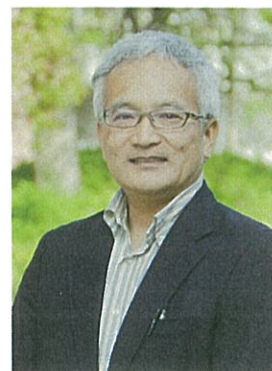
運営委員長のメッセージ

地域研究が今 求められています

アジア・アフリカを構成する諸国・地域は、自然、歴史、文化、社会、政治、経済とあらゆる面で多種多様です。諸地域の社会には何らかの特色があり、それらを生み出した特別な要因があります。それに注目しながら特定の国・地域を包括的に理解すること、そして内在する重要課題を抽出し、現実的な解決策の考案に資すること、これが地域研究という学問分野の目的です。

21世紀に入って20年が経とうとしている現在、アジア・アフリカ諸国の経済的格差は拡大を続け、一部イスラム世界の混沌に象徴されるように、諸国の政治体制の多様性がなくなる気配はありません。圧倒的な歴史的背景を持つ中国の「成功」により、世界的に普遍的だとされてきた「近代市民社会」という概念さえ、西洋という一地域のローカルな価値観であったという考え方も力を強めています。国際社会を理解する上で、地域研究の役割が今後より大きくなることは間違いありません。

国際社会で羽ばたき活躍する力を身につけたいという皆さん、ここでは各自が特定の専門的学問分野を習得し、同時に他分野との対話により視野を広げつつ、フィールドワークを通じて現場からの発想で知的な未来を切り開いていくことが求められます。この興味深い道のりを是非一緒に歩んでいきましょう。



運営委員長
大原 盛樹

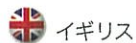
充実したフィールド調査環境

徹底した実践的研究

アジア・アフリカ総合研究プログラムでは、アジア・アフリカ地域へのフィールド調査の実施を奨励・援助しています。

※調査対象地域の選定については、「龍谷大学海外危機管理マニュアル」に従い、外務省の危険情報区分により渡航を禁止する場合があります。

※調査の内容によっては、アジア・アフリカ地域以外への渡航が認められる場合があります。



イギリス

- イランにおけるホメイニー思想と現代イラン社会への影響について (2014年度)



フランス

- Camp BoiroとSehou Toure政権 (2014年度)



モザンビーク共和国

- モザンビーク共和国における政府と農民組織間の利害関係の考察 - ProSAVANAを事例に - (2014年度)



ウガンダ共和国

- ウガンダのHIV/AIDS問題における芸術表現を用いた活動の役割の考察から、他の低開発地域への応用の可能性を考える (2016年度)



ザンビア

- Commodity chain analysis and implications for rural household income in an emerging sub-sector : case study poultry-raising households in Mongu district of Western Zambia (2010年度)



南アフリカ共和国

- ポストアパルトヘイト期の南アフリカにおける地域コミュニティの現状と課題 (2010年度)
- Towards the Convergence of Local Government and Traditional Leadership through Ward Committees in KwaZulu-Natal : Exploring Prospects and Challenges (2011年度)



モンゴル

- オールドス地域文化研究 - モンゴル族の埋葬文化を中心に (2009年度)
- 人間開発基金はモンゴル人貧困層に役立つのか (2012年度)



カンボジア

- 「性同一性障害」者が目指す社会へ - カンボジアの現状 (2010年度)
- Factors Affecting Children's Primary Schooling in Rural Cambodia Case of Siem Reap Province (2011年度)



タイ

- タイの中等教育機関における日本語学習者の動機づけに関する研究 (2010年度)



インド

- インド絛にみる伝統染織の様相 - ベンガル地方とグジャラート地方を中心に - (2013年度)



スリランカ

- Rural Sector Poverty in Sri Lanka : A case study in Monaragala district (2010年度)



ケニア

- アフリカにおける企業の社会貢献活動とソーシャルビジネスの台頭 (2011年度)



ドバイ

- マスダル・シティに見るUAEの環境政策 (2014年度)



東ティモール

- The impact of Agriculture Production Education Achievement and Social Services on Poverty Reduction in East Timor Case Study of Manufal District (2010年度)

フィールド調査補助費制度

上限20万円、フィールド調査の必要経費を援助

- ▶ 審査で認められた場合、20万円を上限としてフィールド調査必要経費の80%を援助します。(※年間9名支給。)
- ▶ 募集は前期と後期に行います。希望する時期・期間での調査が可能です。



中国

- 日本に伝わった稲道 (2009年度)
- グローバル化時代の中国における民族教育 - 内モンゴル自治区の「二言語教育」を中心に - (2010年度)
- モンゴル民族の祭祀と牧畜生活 - 中国・内モンゴル バカンノール地方中心に (2011年度)
- 契丹馬具の復原研究 (2011年度)
- 中国の農業産業化経営 - 河南省漯河市の事例を通じて - (2012年度)
- 円仁と山東半島 - 山東半島における円仁の求法ルート - (2012年度)
- 十一面観音菩薩像の研究 - 10, 11世紀の日中作例を中心に - (2012年度)
- 大連方言の中の日本語から生まれた語彙の使用現状について (2012年度)
- 中国民間中小企業の発展における地方政府の新しい役割 - 丹陽県と玉環県における中小零細企業支援政策の比較 - (2012年度)
- 内モンゴル近年経済発展 - オールド市(東勝区)を事例に - (2012年度)
- 中国の消費者の安全意識と粉ミルク産業の発展 - 粉ミルク事件とその後の対応に対する消費者意識の変化 - (2013年度)
- ブラウン&レヴィンソンのポライトネス理論から見た呼称表現 - 日中比較を中心に (2013年度)
- 中国における宿泊特化型ホテル業界の発展過程 - ホーム・インズの競争戦略を事例に - (2013年度)
- 中国の高齢者がすみやすいまちづくりのための高齢者むけバスの提案 - 長春でのケーススタディ (2013年度)
- 中国における自動車需要のダウンサイジングと変動要因 - 消費者の生活環境と意識の変化から - (2013年度)
- 渤海の歴史と文化 - 考古学発掘資料を中心にして - (2013年度)
- 中国若年消費者の顕示性意識と消費行動 - 化粧品選択とその要因 - (2014年度)
- 中国の循環型社会形成における拡大生産者責任の阻害要因 - 自動車廃棄制度の事例 (2014年度)
- 新生代農民工の流動化と技能意識 (2015年度)
- ダイヤモンドに対する消費行動から見た中国市場の階層性 (2016年度)
- 中国古代都城における造営思想の研究 - 北京城、長安城、洛陽城を中心として (2016年度)



日本

- 農具からみた日本人の暮らし - 麦作を中心にして - (2009年度)
- 日本の釜炒り茶文化 (2009年度)
- 博物館における自己文化の保存と発信 - 青森県美術館・金沢21世紀美術館・長崎県立美術館における事例の調査 - (2009年度)
- 海外の日本語教科書にみる日本文化 (2010年度)
- 日本語ライティング能力向上のための教授法について - 日本語学校における中国人留学生を対象に - (2011年度)
- 九州地域における地熱発電による国立公園の自然保護への影響 (2013年度)
- 南九州における十五夜行事の諸相 - 奄美大島瀬戸内町油井の豊年踊りを中心に - (2014年度)



大韓民国

- 日韓古代文化交流に関する調査研究 - 大和地方と古代朝鮮との比較を中心に - (2015年度)



台湾

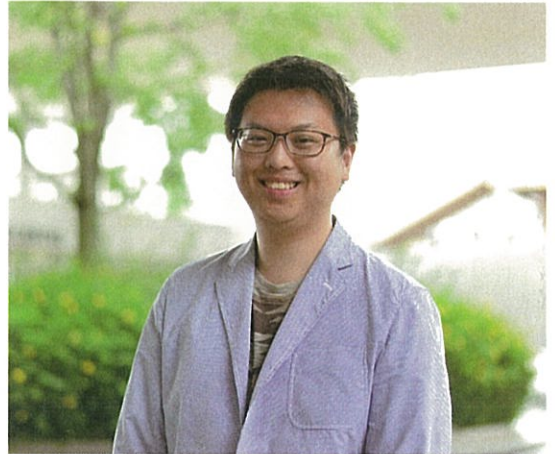
- 近代日中交流における本願寺の役割 (2011年度)
- 台湾民主化の移行: 美麗島事件と台湾ナショナリズム (2015年度)



インドネシア

- インドネシア共和国における参加型地域社会開発の現状と課題 - スラウェシ島ワカトビ県の地域開発能力向上プロジェクトを事例に - (2010年度)
- Factors Affecting Small-Scale Fishermen's Income: The Case of Takalar District, South Sulawesi, Indonesia. (2011年度)

世界中の国と地域で
広く調査しています。



●フィールドワークの魅力

研究の方法論を学び
思考回路を柔軟にして現地へ

松永 瞭太 さん

国際文化学研究科 2年生

音楽を通して、HIV感染拡大防止の啓蒙活動を体験 ウガンダ共和国での1ヶ月間のフィールド調査

ウガンダ共和国では、HIV感染拡大防止の啓蒙活動が、音楽や演劇のようなパフォーマンスによって行なわれています。日本ではちょっと想像がつかないこの活動で、パフォーマーや観客がどう変化してきたかをとらえ、文化的特質を分析するという研究をしました。もちろん現地でのフィールドワークなしには考えられません。今年2月に1ヶ月間滞在し、8月に再び行きます。調査は事前にかんがりの下調べや準備をしていても、想定外のことが生じたりして予定どおりには運ばないので、つまづいたり、先に進まなかったりした時にどうするか、という代替プランを用意しておくことが重要です。アジア・アフリカ総合研究プログラムではフィールドワークに助成金が出ますが、履修にあたり、案外これを知らない、またプログラムを理解していない人が多いようで、もったいない気がします。必修の科目が目的外だと面倒に感じる人もいますが、けっしてそんなことはなくて、授業で得られるのは知識というより思考方法。自分で何かを考える力です。就活していると、大学院で何を学び、どのように活かしたかをきちんと話ができれば多くの人は興味を示してくれます。研究で得たものが何らかのかたちで社会に役立つような仕事に就ければ理想です。

アジア・アフリカ総合研究プログラム 授業科目

科目区分	授業科目	開講研究科
特別演習	アジアアフリカ総合研究特別演習	
地域研究科目	中国政治論研究	法学
	アジア経済史研究	経済学
	アジア政治論研究	法学
	日本経済論研究	経済学
	中国経済論研究	経済学
	東アジア文化論	国際文化学
	仏教文化論	国際文化学
	日本の芸能	国際文化学
	日本の宗教と思想	国際文化学
	現代日本の形成	国際文化学
	日本の社会	国際文化学
	日本の芸術	国際文化学
	日本のポップカルチャー	国際文化学
	日中言語・文化交流論	国際文化学
	日韓言語・文化交流論	国際文化学
	特殊研究 (Asian Politics)	法学
	アジア経済論研究	経済学
	現代南アジア論	国際文化学
	現代中東論	国際文化学
	イスラーム文化論	国際文化学
	アフリカ政治論研究	法学
	アフリカ経済論研究	経済学
	アフリカ社会論研究	法学
	特殊研究 (African Politics)	法学
	現代アフリカ論	国際文化学

科目区分	授業科目	開講研究科
政治分野	国際政治経済学研究	経済学
	比較政治論研究	法学
	国家・民族論研究	法学
	平和・紛争論研究	法学
	外交政策論研究	法学
	開発援助論研究	法学
	国際法研究 I	法学
	国際人権法研究 II	法学
	国際環境法研究 I	法学
	特殊研究 (Comparative Politics)	法学
経済分野	特殊研究 (International Human Rights Law II)	法学
	民衆学概論	経済学
	民衆学理論研究	経済学
	経済協力論研究	経済学
	開発事業評価論研究	経済学
	環境政策論研究	経済学
	国際地域経済研究	経済学
	農業経済論研究	経済学
	フィールド調査研究	経済学
	開発経済学研究	経済学
文化社会分野	特殊研究 (Economic Development)	経済学
	特殊研究 (Development of the post-war Japanese Economy)	経済学
	特殊研究 (Introduction to comparative Economics)	経済学
	特殊研究 (法政応用英語 I)	法学
	特殊研究 (法政応用英語 II)	法学
	特殊研究 (法政応用英語 III)	法学
	特殊研究 (法政応用英語 IV)	法学
	言語とアイデンティティ	国際文化学
	言語教育政策論	国際文化学
	比較教育論	国際文化学
総合研究科目	日本語教育論	国際文化学
	比較欧米文化論	国際文化学
	グローバル化と思想	国際文化学
	グローバル化と持続可能性	国際文化学
	グローバル化と文化	国際文化学
	グローバル化と市民社会	国際文化学
	グローバル化と権力	国際文化学
	グローバル化と移民	国際文化学
	特殊研究 (博物館概論)	国際文化学
	特殊研究 (日本語と日本文化)	国際文化学
	特殊研究 (宗教交流論)	国際文化学

※年度によって不開講となる科目があります。

アジアアフリカ総合研究特別演習 (2017年度シラバスより抜粋)

講義概要 / Course outline

アジア・アフリカ総合研究プログラムは地域研究を実践する場です。同プログラム唯一の必修科目であるこの特別演習では、地域研究とは何なのか、どのような方法論があるのか、フィールドワーク（現地調査）をどう行うのかを学びます。経済学研究科、法学研究科、国際文化学研究科の3研究科の担当教員が合同で開催することで、経済学、政治学、国際文化学のそれぞれの視覚から、対象地域に対する学際的で多様なアプローチを紹介します。

同プログラムは、アジア・アフリカ地域へのフィールド調査の実施を奨励・援助しています。院生がフィールド調査を実際に行う準備として、各研究科の専門に即したフィールド調査の方法を教えて行きます。これらにより、フィールド調査を基礎にした学際的な地域研究の方法論を各自で模索し、習得してゆく第一歩にしてゆきます。

この演習を通して、履修生各自が今後の研究の方向性、戦略を考えていただきたいと思います。

講義方法 / Study Method

3研究科の教員によるチェーンレクチャー。まずそれぞれの研究科の専門から見た地域研究の方法論を紹介する。次いで、各専門から見たフィールド調査の基礎的な手法と、その実地的な活用方法について説明する。3名の教員が4回づつ解説する。その上で、本プログラムのフィールド調査を実施する院生による、事前の準備発表を行う。

プログラム科目担当教員紹介



経済学研究科
アジアアフリカ総合研究特別演習 中国経済論研究

大原 盛樹 准教授

中国・アジア経済論、産業発展論

中国の産業発展過程の特色を抽出することがテーマです。以前は地場企業（分業組織や技術、競争戦略）に焦点を当てていましたが、現在は彼らの行動に影響を与える国内消費と労働者の技能にも関心を広げています。インド、台湾等との国際比較が欠かせません。



法学研究科
アジアアフリカ総合研究特別演習 比較政治論

濱中 新吾 教授

比較政治学、民主化論、現代中東政治

私のライフワークは比較政治学の中の民主化論であり、民主制に基づく政治秩序の成立に関心があります。フィールドはイスラエルおよびアラブ諸国であり、選挙と投票行動、独裁制の持続と崩壊、国際関係認識と越境移動を分析の対象としています。



経済学研究科
アフリカ経済論

神谷 祐介 講師

国際協力論

開発途上国の人々の生活改善を図る手立てについて、経済学の理論と計量経済学の手法を用いて分析しています。アフリカやアジア諸国のマクロ・ミクロ双方のデータを利用し、また、現地でのフィールドワークを通じて、開発指標の決定要因や援助の有効性に関する実証分析を行っています。



経済学研究科
民衆学理論研究

西川 芳昭 教授

農村開発、農業経済学、遺産資源管理

農業の重要な投入財である種子をめぐる組織制度と社会経済的意味について研究を行っています。作物遺伝・生理を学んだ後に環境／農業経済に転向した経験を活かして、学際的アプローチで地域で生きる人々の多様な課題解決を考える研究に学生と一緒に取り組んでいきたいと考えています。



国際文化学研究科
アジアアフリカ総合研究特別演習 現代アフリカ論

鈴木 滋 教授

人類学・霊長類学

野生の霊長類とくにゴリラとチンパンジーをアフリカ熱帯林で調査してきました。並行して、アフリカ熱帯林地域の自然保護についても研究をすすめています。類人猿の生息地である熱帯林の開発と保全のはざまにみられる国際化の波に注目しています。



国際文化学研究科
東アジア文化論

徐 光輝 教授

中国考古学、東アジア文化交流史

中国考古学と東アジア文化交流史を研究しています。考古学は実物資料をもとに文化史を再構築するのが目的です。東アジア諸国は古くから文化交流が盛んに行われ、それぞれの価値観に大きな影響を与えています。衣食住行とそこから現れる精神文化の異同点を理解し、今後の国際交流を考えて行きましょう。

講演会・合同フォーラム報告

毎年様々な分野の講師を招き、プログラム生を対象に、講演会・フォーラムを開催しています。

講演日	講演内容	講師
2016年度	新興国の起業とイノベーション 「台湾とシリコンバレーのイノベーション・リンケージ」 「中国における起業を通じたイノベーションと海外進出」	川上 桃子 氏 木村 公一朗 氏
2015年度	日本とイスラーム世界の交流-龍谷大学とのMOUに基づいて アフリカの成長を牽引する産業発展	A.A.Jafari 氏 福西 隆弘 氏
2014年度	インターネットと中国社会 神の知覚と預言者の問題	古畑 康雄 氏 野元 晋 氏
2013年度	イスラームにおける人間の行為 古い酒を新たな器に - 仏教とイスラームの近代思想 ゾロアスター教の倫理 中央アジアの仏教文化について	M.M.Alimardi 氏 D.K.Ghanbari 氏 M.S.Farhudi 氏 A.A.Jafari 氏
2012年度	これからの中国をどう見る - 地域研究と日中関係	小島 麗逸 氏
2011年度	中東情勢とイスラーム	湯川 武 氏

www.ryukoku.ac.jp/aa/



アジア・アフリカ総合研究プログラムの
HPはコチラから

■ 学費・諸会費について

学費・諸会費(2017年度実績)などの情報は、「龍谷大学大学院 FACT BOOK」に詳しく掲載しています。
2018年度学費・諸会費については、「2018年度 入学試験要項」をご参照ください。

■ 入試について

「2018年度 入学試験要項」をご確認ください。
また、入試結果については入試情報サイトに掲載しております。
<http://www.ryukoku.ac.jp/admission/>



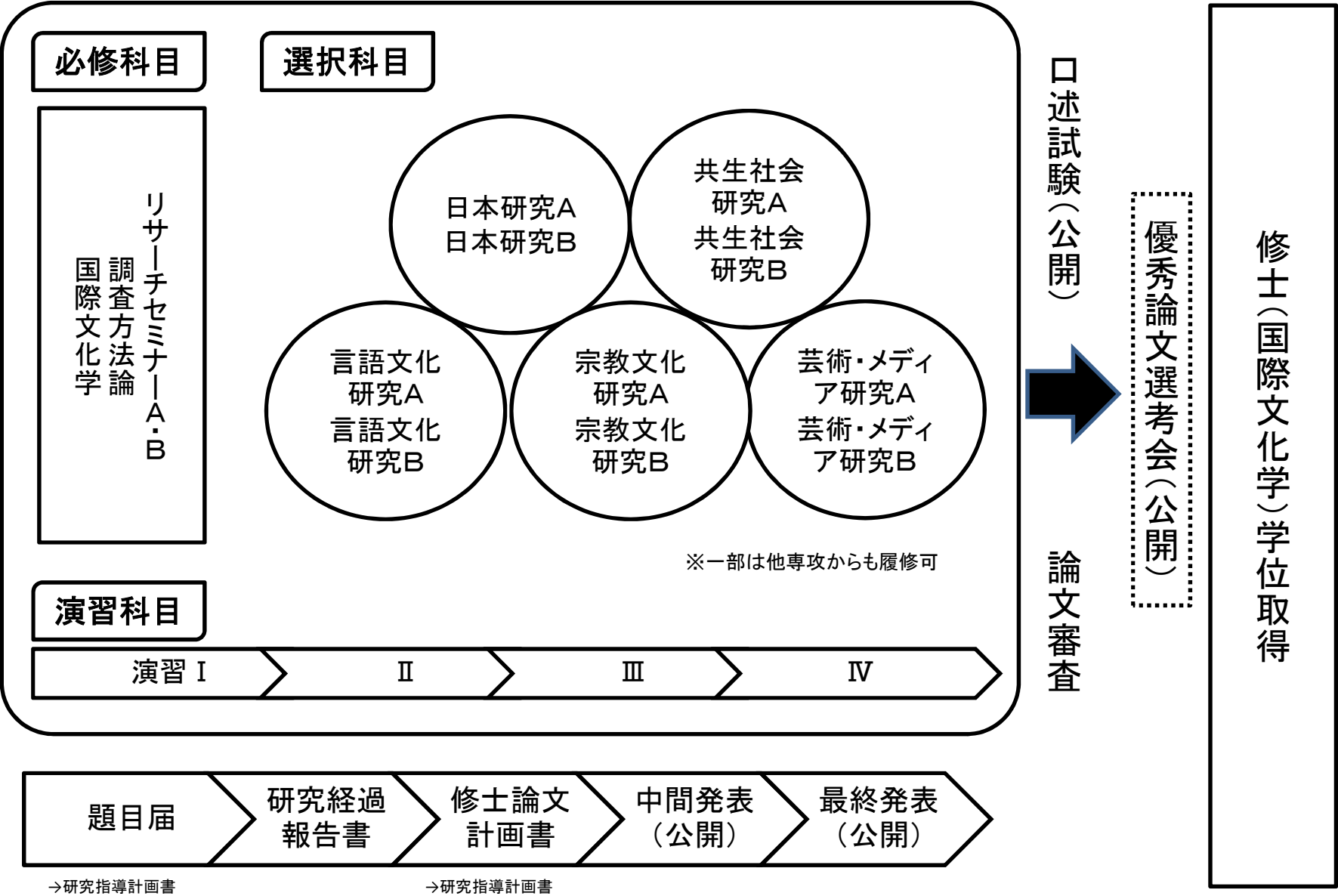
龍谷大学
RYUKOKU UNIVERSITY

アジア・アフリカ
総合研究プログラム

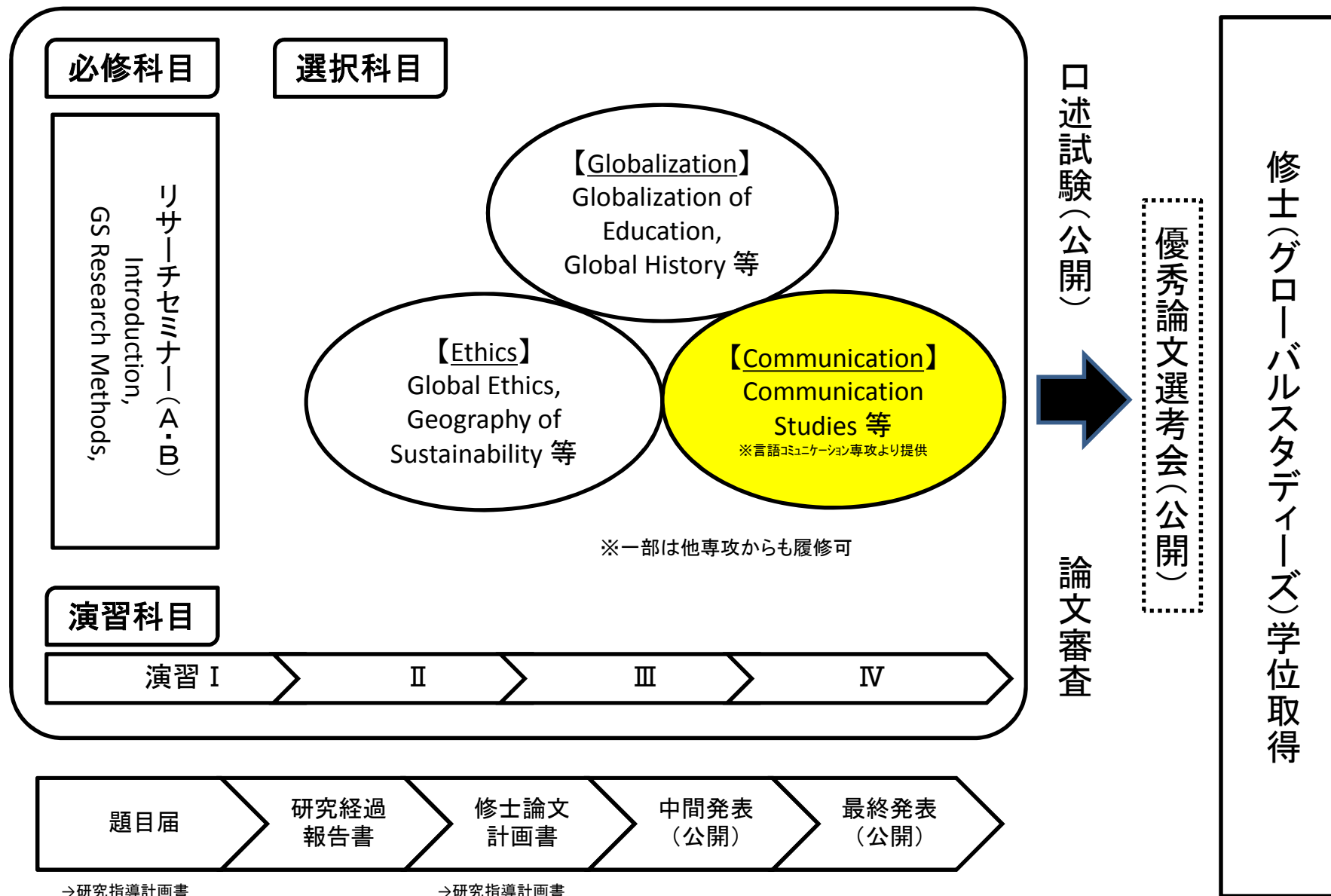
深草キャンパス 京都市伏見区深草塚本町 67
Tel 075-645-7891 (教学部)
お問合せは、法学部・経済学部・国際学部の各教務課まで。

国際学研究科修士課程国際文化学専攻のカリキュラム概念図

資料5



国際学研究科修士課程グローバルスタディーズ専攻のカリキュラム概念図

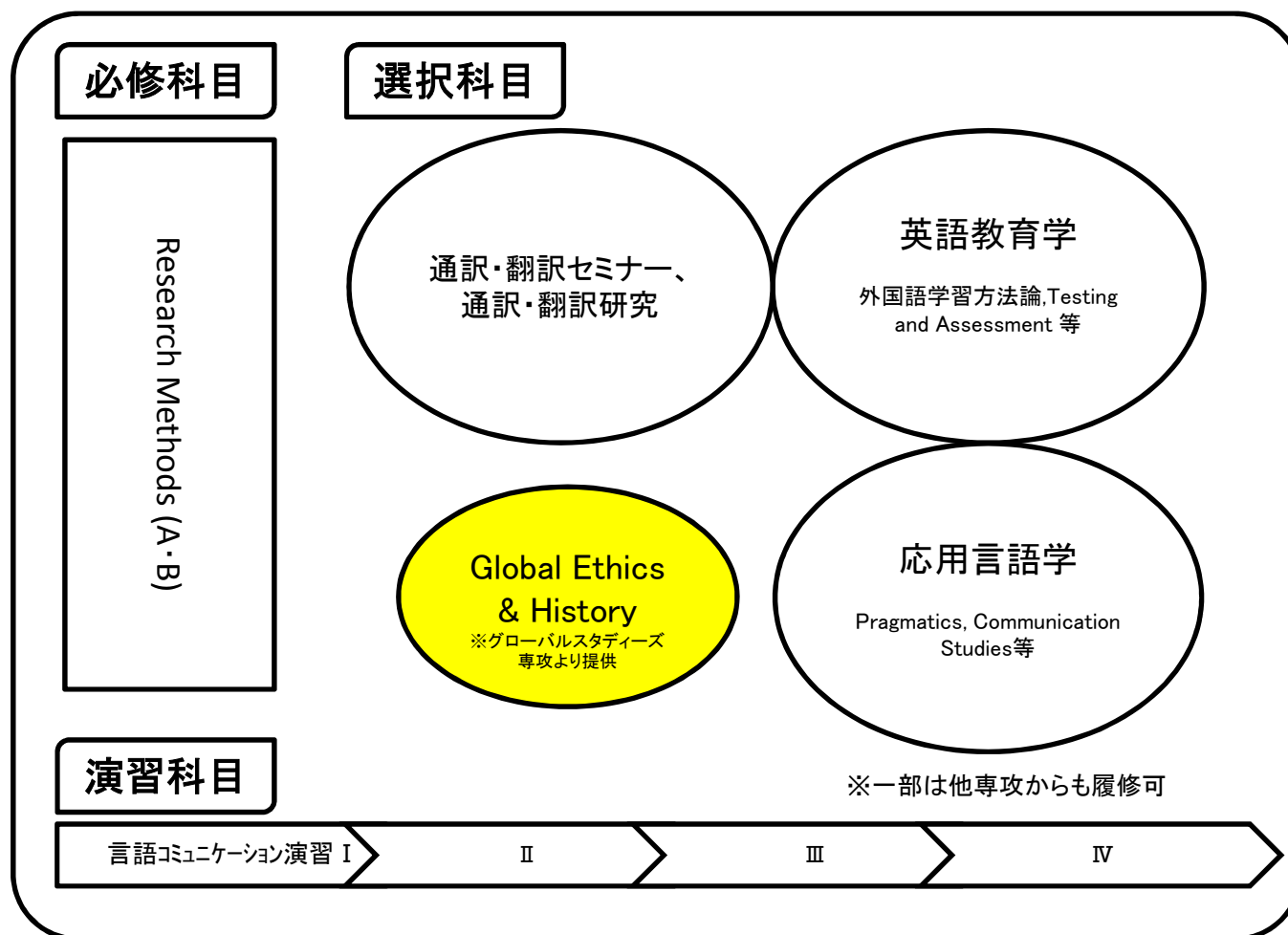


※専攻開講科目は基本的に英語による開講
修士論文は英語で執筆

国際学研究科修士課程言語コミュニケーション専攻のカリキュラム概念図

資料7

中高英語教諭
専修免許



口述試験(公開)



論文審査

優秀論文選考会(公開)

修士(言語コミュニケーション)学位取得

題目届

研究経過
報告書

修士論文
計画書

中間発表
(公開)

最終発表
(公開)

→研究指導計画書

→研究指導計画書

※専攻開講科目は日英または英語による開講
修士論文は英語で執筆

4月入学・9月入学生の基礎科目・演習科目の履修について

修士課程 国際文化学専攻

	4月	9月	4月	9月	4月
4月入学生	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	
基礎科目	国際文化学 リサーチセミナーA	調査方法論 リサーチセミナーB			
演習科目	演習 I	演習 II	演習 III	演習 IV	
9月入学生		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター
基礎科目		調査方法論 リサーチセミナーB	国際文化学 リサーチセミナーA		
演習科目		演習 I	演習 II	演習 III	演習 IV

※応用科目の履修は入学時期に関わらず共通

修士課程 グローバルスタディーズ専攻

	4月	9月	4月	9月	4月
4月入学生	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	
基礎科目	Introduction リサーチセミナーA	GSResearch Methods リサーチセミナーB			
演習科目	演習 I	演習 II	演習 III	演習 IV	
9月入学生		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター
基礎科目		GSResearch Methods リサーチセミナーB	Introduction リサーチセミナーA		
演習科目		演習 I	演習 II	演習 III	演習 IV

※応用科目の履修は入学時期に関わらず共通

修士課程 言語コミュニケーション専攻

	4月	9月	4月	9月	4月
4月入学生	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	
基礎科目	Research Methods A	Research Methods B			
演習科目	言語コミュニケーション演習 I	言語コミュニケーション演習 II	言語コミュニケーション演習 III	言語コミュニケーション演習 IV	
9月入学生		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター
基礎科目		Research Methods B	Research Methods A		
演習科目		言語コミュニケーション演習 I	言語コミュニケーション演習 II	言語コミュニケーション演習 III	言語コミュニケーション演習 IV

※応用科目の履修は入学時期に関わらず共通

博士後期課程 国際文化学専攻

	4月	9月	4月	9月	4月	9月	4月
4月入学生	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	
演習科目	演習 I	演習 II	演習 III	演習 IV	演習 V	演習 VI	
9月入学生		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター
演習科目		演習 I	演習 II	演習 III	演習 IV	演習 V	演習 VI

博士後期課程 グローバルスタディーズ専攻

	4月	9月	4月	9月	4月	9月	4月
4月入学生	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	
基礎科目	PhD Research Seminar						
演習科目	演習 I	演習 II	演習 III	演習 IV	演習 V	演習 VI	
9月入学生		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター
基礎科目			PhD Research Seminar				
演習科目		演習 I	演習 II	演習 III	演習 IV	演習 V	演習 VI

○職員定年規程

昭和54年2月9日

改正 昭和62年5月19日

昭和63年1月13日

平成4年1月16日

平成16年3月25日

平成19年2月22日

第1条 この規程は、「学校法人龍谷大学就業規則」第40条に基づき、本学専任職員の定年について規定する。

第2条 教育職員の定年は、教授については満68歳とし、准教授・講師・助教・助手については満65歳とする。

2 事務職員の定年は、満65歳とする。

第3条 定年による退職期日は、定年に達した当該年度末とする。

第4条 退職手当の支給については、別に定める。

付 則

1 この規程は、昭和54年4月1日から施行する。ただし、将来の情勢の推移を考慮して、施行の年度から10年以内に再検討するものとする。

2 「文学部・短期大学部教育職員停年規程」及び「事務職員停年規程」は廃止する。

付 則（昭和62年5月19日第2条第2項、第3項改正・追加）

この規程は、昭和62年5月19日から施行する。

付 則（昭和63年1月13日第2条改正）

この規程は、昭和63年1月13日から施行する。

付 則（平成4年1月16日題名改正）

この規程は、平成4年1月16日から施行する。

<参考>

（評議会議事録に次の事項を記載する）

龍谷大学職員定年規程の一部を改正する規程（制定昭和62年5月19日）に規定する「教育研究上の特別な事情」とは、新学部を設置を意味するものとする。また、第2条第2項は、昭和70年3月31日に廃止するものとする。

付 則（平成16年3月25日第2条改正）

この規程は、平成16年3月25日から施行する。

付 則（平成19年2月22日第2条改正）
この規程は，平成19年4月1日から施行する。

○特別任用教員規程

平成26年 7 月10日

改正 平成27年11月12日

平成28年11月24日

平成29年 3 月22日

(目的)

第1条 龍谷大学及び龍谷大学短期大学部（以下「本学」という。）の教育・研究の向上をはかるために特別任用教員を置く。

2 前項の任用，服務，給与，諸手当等については，別に定める場合を除いて，この規程の定めるところによる。

(資格・義務)

第2条 特別任用教員とは，教学上特に必要と認められた者で，給与，諸手当及び任用期間等の適用について特別の取扱いをすることを条件として採用された，次の各号の一に該当する者をいう。

(1) 本学の教育方針に賛同し，学部教授会又は大学院研究科委員会が教育研究遂行上必要と認める者で，教授の資格を有する者。ただし，現に本学専任教員として在籍する者及び本学を定年退職した者を除く。

(2) 本学を定年退職した者で，大学院研究科委員会が大学院の講義編成上特に必要と認める者

(3) 本学の教育方針に賛同し，学部教授会が講義編成上特に必要と認める者で，教授，准教授，講師，助教及び助手（実験・実習講師及び実験・実習助手を含む。）の資格を有する者

(4) 再雇用制度の利用を申し出た者

2 特別任用教員は，本学以外の学校の専任教員となることはできない。

3 特別任用教員（実験・実習講師及び実験・実習助手を除く。）は，授業及び研究に関して教授会又は大学院研究科委員会に意見を述べることができる。

(任用)

第3条 特別任用教員としての任用及び勤務条件については，当該教員の所属するべき教授会の議を経て，学長の進達により理事長が決定する。

2 特別任用教員Aに任用される者は，特別任用教員A就任承諾書（別記様式）を，学長に提出しなければならない。

- 3 特別任用教員Bに任用される者は、特別任用教員B就任承諾書（別記様式）及び特別任用教員B雇用契約書を、学長に提出しなければならない。

（区分）

第4条 特別任用教員は、任用期間の定めのない特別任用教員Aと、任用期間の定めのある特別任用教員Bに区分する。

- 2 第2条第1項第1号、第2号及び第4号に該当する者は、特別任用教員Aとして任用する。

- 3 第2条第1項第3号に該当する者は、当該特別任用教員の担当する科目、任用時の本学及び各学部の状況等を考慮の上、特別任用教員A又は特別任用教員Bのいずれかとして任用する。

（特別任用教員A）

第5条 特別任用教員Aの定年は、教授にあつては満68歳、准教授、講師、助教及び助手（実験・実習講師及び実験・実習助手を含む。）にあつては満65歳に達した年度末とする。

ただし、第2条第1項第2号に該当する者は、満70歳に達した年度末とする。

- 2 前項の規定にかかわらず、大学院研究科を担当する特別任用教員Aについて、当該特別任用教員Aが所属する大学院研究科委員会が必要と認める場合、2年以内に限り定年を延長することが出来る。

- 3 特別任用教員Aの昇任についての基準は、別に定める。

（特別任用教員B）

第6条 特別任用教員Bの任用期間は3年とする。

- 2 特別任用教員Bの任用にあつては、任用期間を定める合理的理由を教授会等において定め、募集要項等において予め明示しなければならない。

- 3 第1項の規定にかかわらず、当該特別任用教員が担当する科目について学部の教学諸条件に照らし、当該特別任用教員Bが所属する学部教授会又は大学院研究科委員会が必要と認める場合には、さらに1回を限度としてこれを更新することができる。ただし、その期間は2年以内とする。

- 4 第1項及び第3項の規定にかかわらず、特別任用教員Bの任用及び更新は、任用期間最終年において、教授にあつては満68歳、准教授、講師、助教及び助手（実験・実習講師及び実験・実習助手を含む。）にあつては満65歳に達した年度末とする。

（職務）

第7条 特別任用教員は、授業・研究・学生指導、その他これらに関連する業務に従事する

ことをその職務とする。ただし、実験・実習講師及び実験・実習助手の職務については別に定める。

2 第2条第1項第1号及び第2号の特別任用教員の授業時間数は、1週3コマ（6時間）とする。

3 第2条第1項第3号及び第4号の特別任用教員の授業担当時間数は、専任教員の担当授業時間数に関する基準を準用する。ただし、別表の給与表において「特0」の支給を受ける特別任用教員の授業担当時間数は、1週3コマ（6時間）とする。

（出産休暇）

第7条の2 特別任用教員の出産休暇については、学校法人龍谷大学就業規則第32条の規定を準用する。

（給与）

第8条 特別任用教員の給与は、別表の給与表により支給する。

2 給与表における等級・号俸の決定は、勤務条件・年齢・職階等を考慮して、当該特別任用教員所属の学部教授会又は大学院研究科委員会の申請により、学長がこれを決定する。

3 授業担当時間数が第7条第2項及び第3項の時間数を超える場合は、第9条第3項に定める分担外手当を支給する。

（諸手当）

第9条 特別任用教員には、給与規程の定めによる扶養家族手当、住宅手当、通勤手当及び分担外手当を支給する。

2 期末手当は、前条第1項に規定する基本給、扶養家族手当及び当該期における分担外手当を支給の基礎とし、上半期、下半期にそれぞれ1.5ヶ月分を支給する。

3 分担外手当は、1コマあたり月額で教授29,300円、准教授27,300円、講師・助教26,200円をそれぞれ支給する。

（帰国旅費）

第10条 海外から着任した特別任用教員で、大学が認めたときは、部局長会の議を経て帰国旅費を支給する場合がある。

2 旅費の支給基準は、国内の国際空港までは国内旅費規程（グリーン料金は支給しない。）を準用し、国内の国際空港から最寄りの空港までのエコノミーの実費とする。

（退職手当）

第11条 特別任用教員には、退職時に退職手当を支給する。

2 前項の算定基準は、最終月の本俸月額×勤務年数×0.5とする。

3 前2項の規定にかかわらず、第14条によって懲戒解雇となった者には、退職手当を支給しない。

(教育研究費・個人研修費)

第12条 特別任用教員(実験・実習講師及び実験・実習助手を除く。)の教育研究費は、別に定める基準により支給する。

2 実験・実習講師及び実験・実習助手の個人研修費は、別に定める基準により支給する。

(育児休業)

第12条の2 特別任用教員の育児休業及び育児短時間勤務に関する事項については、特別任用教員Aは職員育児休業及び育児短時間勤務に関する規程を、特別任用教員Bは任期を定めた職員の育児休業及び育児短時間勤務に関する規程を準用する。

(介護休業)

第12条の3 特別任用教員の介護休業に関する事項については、特別任用教員Aは職員介護休業規程を、特別任用教員Bは任期を定めた職員の介護休業規程を準用する。

(社会保険)

第13条 特別任用教員は、日本私立学校振興・共済事業団の加入者となることができる。

(懲戒)

第14条 特別任用教員の懲戒に関する事項については、学校法人龍谷大学就業規則第5条第3項、第59条、第60条及び第61条の規定を準用する。

(解雇)

第15条 特別任用教員の解雇に関する事項については、学校法人龍谷大学就業規則第42条の規定を準用する。

付 則

- 1 この規程は、制定日(平成26年7月10日)から施行し、平成27年4月1日に就任する者から適用する。
- 2 従前の特別任用教員規程により任用された者を任用期間を定めて更新する場合は、なお、従前の規程による。
- 3 従前の特別任用教員規程により任用された者を任用期間の定めのない特別任用教員として採用する場合は、本規程を適用し、勤務年数は、従前の規程における任用期間を通算する。

付 則(平成27年11月12日第12条の2、第12条の3新設)

この規程は、制定日(平成27年11月12日)から施行する。

付 則（平成28年11月24日第7条の2新設）

この規程は、制定日（平成28年11月24日）から施行する。

付 則（抄）（平成29年3月22日第2条、第4条、第5条改正）

1 この規程は、平成29年4月1日から施行する。

別表（第8条関係）

特別任用教員給与表

等級 号俸	I 教授	II 准教授	III 講師・助教・助手	IV 実験講師・実習講師・実験助手・実習助手	適用条項
特0	教育職員 I 等級47号俸 の40%				第2条第1項第3号のうち、大学の事情により特に就任を要請した者
特 I	教育職員 I 等級47号俸 の50%	教育職員 II 等級35号俸 の50%	教育職員 III 等級21号俸 の50%	教育職員 VI 等級16号俸 の50%	第2条第1項第3号及び第4号
特 II	教育職員 I 等級47号俸 の60%				第2条第1項第1号及び第2号のうち、主として大学院の講義を担当する者
特 III	教育職員 I 等級47号俸 の70%				第2条第1項第1号及び第2号のうち、大学の事情により特に就任を要請した者

別記様式(第3条関係)

特別任用教員A就任承諾書

私は、龍谷大学〇〇〇学部の特別任用教員Aとして、〇〇年〇〇月〇〇日に就任することを承諾いたします。

〇〇年〇〇月〇〇日

龍谷大学
学長 殿

署名 捺印

特別任用教員B就任承諾書

私は、龍谷大学〇〇〇学部の特別任用教員Bとして、〇〇年〇〇月〇〇日から、〇〇年〇〇月〇〇日まで勤務することを承諾いたします。

〇〇年〇〇月〇〇日

龍谷大学
学長 殿

署名 捺印

国際学部/国際文化学部 2017年度 第2学期 オフィスアワー

2017.11.7.現在

教員氏名	所属学科	曜日	時間帯	研究室
泉 文明	IC	水	昼休み	和410
		その他の時間帯は相談に応じます		
磯江 源	IC	火	昼休み	和409
		その他の時間帯は相談に応じます		
カルドネル シルヴァン	IC	火	2講時 昼休み	和411
		火	2講時 昼休み	
		その他の時間はメールで連絡してください。		
カルロス マリア	IC	月	3 講時	和415
		水	2講時	
		その他の曜講時についてはメールにて調整可能です。		
河合 沙織	GS	木	昼休み	和426
斎藤 文彦	GS	火	10:00～10:30	和434
		水	10:00～10:30	
		それ以外はメールでアポをとること		
佐々木 英昭	IC	水	1 講時	和407
佐野 東生	IC	月	昼休み	和408
		木	昼休み	
史 彤嵐	IC	火	昼休み	和406
		水	昼休み	
		金	昼休み	
ジョナ サルズ	IC	月	4 講時	和403
		木	4 講時	
清水 耕介	GS	火	2 講時	和431
杉本 パウエンス ジェシカ	IC	月	3講時	和422
		予約制で別の時間帯可		
徐 光輝	IC	金	昼休み	和418
壽崎 かすみ	IC	昼休みにも相談受け付けます。事前にメールをください		紫英館 426
		木	3 講時	
鈴木 滋	IC	金	昼休み 3 講時	和412
		指定時間外でも対応しますのでメールで連絡してください。		
瀧本 真人	GS	火	昼休み	和436
		他の時間を希望する場合はメールで連絡してください。		
嵩 満也	IC	月	昼休み	和413
		水	昼休み	
		アポイントを取ってもらえれば、上記以外でも会うことは可能です。		
ターヒュン ノエル	IC	木	昼休み	和402
		and by appointment		
チャブル ジュリアン	GS	水	昼休み	和437

教員氏名	所属学科	曜日	時間帯	研究室
瀧口 順也	GS	火	2 講時	和432
		他の時間を希望する場合は メールで連絡してください。		
陳 慶昌	GS	水	5 講時	和433
		金	5 講時	
友永 雄吾	IC	水	昼休み	和401
		金	昼休み	
デブナール ミロシュ	IC	火	2 講時 ・昼休み	和406
		木	4講時	
長尾 明子	GS	木	昼休み	和427
林 則仁	IC	水	昼休み	和430
		他の曜日・時間を希望の場合は、 メールで連絡してください。		
朴 炫国	IC	火	昼休み	和428
		水	昼休み	
		木	昼休み	
久松 英二	IC	水	昼休み	和420
ピゴット ジュリアン	GS	水	昼休み	和438
		木	昼休み	
ファーマノフスキー マイケル	IC	月	昼休み	和416
福山 泰子	GS	火	昼休み	和425
二葉 晃文	IC	水	昼休み	6-408
古川 秀夫	IC	金	昼休み	和419
ブラドリー ウィリアム	GS	金	昼休み	和440
		and by apointment		
松居 竜五	IC	木	2 講時	和423
松村 省一	GS	水	昼休み	和439
		金	昼休み	
三谷 真澄	IC	会議などでキャンセルすることもある ので、事前にアポイントメントを取る ことをすすめる。		和414
		月	昼休み	
八幡 耕一	IC	金	昼休み	和417
		火	昼休み	
劉 虹	IC	月	4 講時	和404
		木	昼休み	
脇田 博文	GS	火	昼休み	和424
		火	4 講時	
		水	昼休み	
		金	昼休み 4 講時	
		火 3 講時、水 3 講時は紫英館1階 教職センター内指導室（要確認）		

※一覧に名前の無い教員については、授業の前後に講師控室や教室にて質問して下さい。

注：学内掲示においては、メールアドレスを記し、公開しています。

年次	セメスター	時期	内容	教員による指導・審査
1年次	1セメ	4月	入学式	3ポリシー、教育課程等の説明 教員による履修計画指導及び 演習教員選定への助言 指導教員・副指導教員の選定
			履修説明会・履修登録指導期間	
			履修科目登録	
	履修計画書の提出			
	演習指導教員選定届の提出			
	2セメ	6月	研究題目届の提出	研究指導計画書の策定 ・指導学生との共有
2セメ	9月	履修科目修正登録		
	1月	研究経過報告書の提出		
2年次	3セメ	4月	履修科目登録／履修計画書の提出	(必要に応じて履修計画指導)
		5月	修士論文計画書の提出	研究指導計画書の策定 ・指導学生との共有
	学期中	修士論文中間発表	助言(指導教員・副指導教員・助言教員)	
	4セメ	9月	履修科目修正登録	<論文審査委員決定>
		学期中	修士論文最終発表(公開)	助言(指導教員・副指導教員・助言教員)
		1月	修士論文提出	修士論文審査 ⇒修了判定
			修士論文口述試験(公開)	
		2月	優秀論文選考会(公開)	優秀論文審査
		3月	学位授与式	

※____は研究科委員会にて承認が必要な書類

○学位審査の客観性・厳格性の確保にかかる申合せ

平成24年12月11日

大学院政策推進委員会

学位審査にかかる事項については、「龍谷大学学位規程」に定められており、これに基づき、各研究科は必要な事項を内規等において規定している。これに加え、研究科における学位審査の客観性・厳格性を一層確保することを目的とし本申し合わせを制定する。なお、本申し合わせは、各研究科における学位審査の客観性・厳格性の確保のための自主的な取り組みを妨げるものではない。

- 1 修士課程及び博士後期課程の研究指導体制について、指導教員以外の教員が関わる学位論文中間報告会やそれに準ずるものを開催するなど、指導教員以外の教員が関わる指導体制の構築に努める。
- 2 修士論文及び課題研究の審査体制の教員数については、「龍谷大学学位規程」のとおり、可能な限り3名以上とすることに努める。
- 3 博士後期課程における論文審査体制について、「龍谷大学学位規程」において、審査員に他大学の大学院又は研究所等の教員等を加えることができるとあることから、3名以上による論文審査の審査委員のうち1名については、可能な限り学外者等を積極的に招聘するよう努める。
- 4 学位審査基準・研究指導体制・論文審査体制・学位取得までのプロセスについては、履修要項において学生に明示する。また、この内容については、ホームページ上でも公表することに努める。

以上

○研究活動に係る不正行為の防止及び対応に関する規程

平成25年6月13日

改正 平成27年2月26日

平成29年3月22日

(目的)

第1条 この規程は、龍谷大学及び龍谷大学短期大学部（以下「本学」という。）において、研究活動及びそれに関連する業務に従事する全ての者（以下「研究者等」という。）の不正行為の防止及び不正行為が起きたときの対応に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(不正行為)

第2条 この規程において、研究活動に係る不正行為（以下「不正行為」という。）とは以下に定める行為をいう。

(1) 研究活動の過程における、以下に該当する行為。

- イ 捏造，すなわち，存在しないデータ及び研究成果等を作成すること。
- ロ 改ざん，すなわち，研究資料・機器・過程を変更する操作を行い，データ又は研究活動によって得られた結果等を真正でないものに加工すること。
- ハ 盗用，すなわち，他の研究者のアイディア，分析・解析方法，データ，研究成果，論文又は用語を，当該研究者の了解若しくは適切な表示なく流用すること。
- ニ その他，「龍谷大学 研究活動に関する指針」，本学諸規程を含む関連法令等に反する行為。

(2) 本学の研究費並びに，国，地方公共団体，独立行政法人及び特殊法人等の公的機関から交付される研究費で本学の責任において管理すべきもの（以下「研究費等」という。）を，この規程を含む本学諸規程及び関連法令等に反して使用すること。

(最高管理責任者)

第3条 本学における研究活動及び研究費等の管理・運営に関する最高管理責任者は学長とする。

2 学長は，研究活動に関する行動指針を定めるとともに，次条に定める統括責任者が責任をもって研究活動を管理できるようリーダーシップを発揮して不正行為の防止等に努めなければならない。

(統括責任者)

第4条 本学に，学長を補佐し研究活動及び研究費等の管理・運営に関する実質的な責任者

として、統括責任者を置く。

2 統括責任者は、学長が指名する副学長をもって充てる。

3 統括責任者は、第2条に定める不正行為に対応するものとする。

(コンプライアンス推進責任者)

第5条 研究活動及び研究費等の運営、管理を適切に行うため、次の各号に掲げる部署（以下「部署等」という。）にコンプライアンス推進責任者を置く。

(1) 本学の学部、研究科（短期大学部を含む。）

(2) 龍谷大学学則第70条及び龍谷大学短期大学部学則第46条に定める付属施設（ただし、図書館及び診療所は除く。）

(3) 保健管理センター及び矯正・保護総合センター

(4) 第2条第2号の研究費等の管理、運営及び執行に携わる部署

2 コンプライアンス推進責任者は、部署等の長をもって充てる。

3 コンプライアンス推進責任者は、部署等における研究者等の不正行為の防止及び研究倫理の向上に資する啓発活動に努めなければならない。

4 コンプライアンス推進責任者は、第6条の2に定める研究倫理に関する教育（以下「研究倫理教育」という。）を実施し、受講状況の管理監督及び理解度の把握を行わなければならない。

(研究不正行為防止委員会)

第6条 学長は、不正行為の防止に関する方策を策定・実施するため、次の各号に定める委員で組織する研究不正行為防止委員会（以下「不正防止委員会」という。）を学長の下に設置する。

(1) 統括責任者（学長が指名する副学長） 1名

(2) 学長が指名する学部長 1名

(3) 研究部長

(4) 学長が指名する教育職員 若干名

(5) 総務部長

(6) 財務部長

(7) 瀬田事務部長

(8) 研究部事務部長

ただし、委員会における議題の内容が第2条第1号に該当する場合には、第6号及び第7号の委員を除くものとする。

- 2 不正防止委員会に委員長を置き、前項第1号委員をもって充てる。
- 3 委員長に事故ある場合は、研究部長がその職務を代行する。
- 4 不正防止委員会は、次項に掲げる業務を行い、その結果について適宜、学長に報告を行うものとする。
- 5 不正防止委員会は、次の各号に掲げる業務を行う。
 - (1) 不正防止計画の企画及び立案に関する事。
 - (2) 不正防止計画の推進に関する事。
 - (3) 不正防止計画の検証に関する事。
 - (4) 研究活動上の不正発生要因に対する改善策に関する事。
 - (5) 研究者の行動規範等に関する事。

(研究倫理教育)

第6条の2 研究者等は、研究活動に係る関連諸法規及び本学諸規程並びに研究費の執行ルール等について習熟するため、研究倫理教育を受けなければならない。なお、研究倫理教育の受講対象となる研究者等及び実施方法等については、別に定める。

(誓約書の提出)

第6条の3 研究者等は、研究活動に係る関連諸法規及び本学諸規程の内容を遵守し、不正行為を行わないことを誓約した誓約書を学長に提出しなければならない。なお、誓約書を提出する必要がある研究者等及び誓約書の様式等は、別に定める。

- 2 誓約書を提出しない研究者等は、研究費等の申請並びに運営及び管理に携わることができないものとする。

(相談窓口)

第7条 不正行為についての相談を受け付ける窓口（以下「相談窓口」という。）を研究部に設置する。

- 2 相談は、学内外の全ての者が行うことができる。
- 3 相談窓口は、学内外からの問い合わせに適切に対応するものとする。
- 4 相談に対応した者は、相談者が第9条に定める通報を行わず、かつ、相談の内容に鑑み必要があると判断した場合は、相談者に事前に通知した上で、相談内容を通報として扱うことができる。
- 5 前項に該当する場合、相談窓口は相談者を保護する方策を講じなければならない。

(通報窓口)

第8条 不正行為についての通報を受け付ける窓口（以下「通報窓口」という。）を研究部

に設置し、通報者には研究部長が対応する。

- 2 通報は、学内外の全ての者が行うことができる。
- 3 通報への対応の際は、通報者を保護する方策を講じなければならない。

(通報等の方法)

第9条 通報は、書面、電話、電子メール、面談などの手段で自らの氏名を明らかにした上で行うものとし、不正行為を行ったと疑われる研究者の氏名又はグループ名並びに不正行為の内容及び不正であるとする合理的理由等を可能な限り書面(様式1)に明示して行わなければならない。

- 2 匿名の通報があった場合は、前項の規定にかかわらず、その理由や通報の内容に応じ、自らの氏名を明らかにして通報した場合に準じて取扱うことができるものとする。
- 3 報道や学会等(以下「報道等」という。)により本学研究者等の不正行為に関する指摘がなされたときは、次条第5項に定める方法によって対応するものとする。
- 4 書面等、通報窓口が受け付けたか否かを通報者が知り得ない方法によって通報がなされた場合は、学長は、通報者に通報を受け付けたことを通知するものとする。ただし、通報が匿名でなされた場合は、この限りではない。

(通報等の取扱い)

第10条 通報窓口は、通報を受けたとき又は報道等により本学研究者等の不正行為への疑いが指摘されたときは、直ちに学長及び統括責任者に報告するものとする。この場合において、被通報者又は報道等により不正行為への疑いが指摘された研究者等(以下「被通報者等」という。)に本学以外の機関に所属する者が含まれる場合には、当該機関の長にその内容を通知するものとする。

- 2 学長は、不正行為がこれから行われようとしているという通報がなされた場合、その内容を確認・精査し相当の理由があると認めたときは、被通報者等に対し警告を行い、通報者に対し警告を行った旨を通知する。
- 3 学長は、通報に係る不正行為が既に行われたと認める場合には、学長が指名する副学長に命じ、次条に定める調査を行わせるとともに、通報者、被通報者等に対しその旨を連絡するものとする。
- 4 前項の場合において、学長は、通報者、被通報者等及び通報内容等について調査関係者以外に漏洩しないよう秘密保持を徹底するものとする。
- 5 通報内容が漏洩した場合、学長は、通報者及び被通報者等の了解を得て調査中であるか否かにかかわらず、通報内容を公けに説明することができる。ただし、通報者又は被通報

者等の責めに帰すべき事由により漏洩した場合は、当該通報者又は被通報者等の了解は不要とする。

6 報道等により本学研究者等の不正行為に関する指摘がなされたときは、学長は、その内容について報道関係者等へ聞き取り調査等を行い、真偽を判断した上で、次条に定める調査の可否を決定する。

7 通報等を受け付けた際には、被通報者等を保護する方策を講じなければならない。

(予備調査)

第11条 学長は、通報又は報道等（以下「通報等」という。）の内容に応じて、学長が指名する副学長（以下「予備調査責任者」という。）を責任者に命じ、通報内容に関する予備調査（以下「予備調査」という。）を行わせ、調査結果を報告させるとともに、通報を受けた日（報道等の場合は公表日。）の翌日から30日以内に、本格的な調査（以下「本調査」という。）の可否を決定する。

2 予備調査において、被通報者等に本学以外の機関に所属する者が含まれる場合には、当該機関の長に対し合同調査を申し入れる場合がある。

3 予備調査責任者は、予備調査に際し、被通報者等に対して証拠物件等の保全を命じるほか、必要な措置を講じるものとする。

4 予備調査は、以下の構成員によって行う。

(1) 予備調査責任者

(2) 学長が必要と認める者（ただし、通報者及び被通報者等と利害関係のある者を除く）
若干名

5 予備調査では、通報等の際に示された理由等の合理性及び通報等により報告された行為に対する調査可能性について調査を行う。

6 学長は、予備調査の結果、通報等の内容に合理性がないと判断した場合は、その理由及び予備調査に携わった者の所属・氏名を付して本調査を実施しない旨を通報者及び被通報者等に通知するものとする。ただし、この場合において、通報等が悪意に基づくものであることが判明したときは、通報者に所属機関がある場合はその所属長に通知するほか、氏名の公表など必要な措置を講ずるものとする。

7 前項に基づき本調査を実施しないと判断した場合は、当該予備調査に係る資料等を保存し、その事案に係る公的研究費配分機関又は文部科学省及び通報者の求めに応じて開示するものとする。

8 本規程において、悪意とは、被通報者を陥れるため、あるいは被通報者が行う研究を妨

害するためなど、専ら被通報者に何らかの損害を与えることや被通報者が所属する機関・組織等に不利益を与えることを目的とする意思によるものを意味する。

- 9 学長は、通報等の内容の重大性等に鑑み必要があると判断した場合は、予備調査を経ずに第15条に定める研究不正行為調査委員会（以下「調査委員会」という。）を設置し本調査を行わせることができるものとする。

（予備調査の結果に対する異議申立）

第12条 通報者は予備調査において本調査を実施しない旨の結果通知を受けた際には、通知を受けた日から14日以内に、理由及びその根拠を添えて学長に異議申立を行うことができる。

- 2 予備調査の結果に対する異議申立は、同一の理由で二度申立てることはできない。

（予備調査の結果に対する再調査）

第13条 学長は、前条第1項に定める異議申立があった場合には、第11条第1項に規定する予備調査責任者を責任者に再度命じ、30日以内に再度予備調査を行わせ調査結果を報告させるとともに、本調査の実施の可否を決定する。

- 2 学長は、前項の再調査の結果、通報等の内容に合理性がないと判断した場合は、理由を付して本調査を実施しない旨を通報者に通知するものとする。

（本調査）

第14条 学長は、予備調査（予備調査結果に対する再調査を含む。）の結果、通報等の内容に合理性があると判断した場合、又は第11条第9項に基づく判断を行った場合は、真相究明のため、当該判断の日から起算して30日以内に調査委員会を設置し本調査を開始させるものとする。

- 2 本調査の実施が決定した場合は、学長は、その事案に係る公的研究費配分機関、及び文部科学省に報告するものとする。ただし、調査方針、調査対象及び方法等について、必要に応じてその事案に係る公的研究費配分機関及び文部科学省と協議するものとする。

- 3 本調査の実施に当たっては、学長は、通報者及び被通報者等に対し、その旨を通知するものとする。また、不正行為が本規程第2条第2号に該当する場合は、必要に応じて当該研究費等の執行に関わる業者等に対しても本調査の実施を通知するものとする。

- 4 本調査は次に掲げる各号の通り行うものとする。

（1）通報等の内容が第2条第1号に該当する場合

論文や実験・観察ノート、生データ等の各種資料の精査、関係者のヒアリング等、また必要に応じ、被通報者等による再実験の実施

(2) 通報等の内容が第2条第2号に該当する場合

研究費等の使用に係る学内証拠書類の精査や使用実態の調査, 関連業者等を含む関係者へのヒアリング及び当該業者等が保管する証拠書類の精査等

(3) その他調査委員会が必要と認めた事項

- 5 本調査の実施に当たっては, 調査委員会は, 被通報者等に対して弁明の機会を与えなければならない。
- 6 前項の弁明において, 被通報者等が通報等の内容を否認する場合には, 自らの責任において科学的根拠又は合理的根拠等を示し不正行為の疑惑を晴らさねばならない。
- 7 第4項及び前項において, 被通報者等が本来存在すべき証拠等を示すことができない場合は, 不正行為があったとみなすものとする。ただし, 本人の責に帰すべき事由によらず示すことができない場合及び本学における証拠等の保存期間を超えることによるものである場合については, この限りではない。なお, 証拠等の保存・開示に係る詳細については, 別に定める。
- 8 本調査の過程で, その事案に係る公的研究費配分機関からの求めがあれば, 学長は, 調査途上であることを付した中間報告を提出することができる。
- 9 被通報者等は, 正当な理由がない限り, 本条の調査等を拒否することができない。
- 10 被通報者等以外の本学構成員は, 本条の調査等に協力しなければならない。
- 11 本学以外の機関において調査がなされる場合, 本学は当該機関に本条の調査等への協力を要請することができる。
- 12 本調査の実施は, 必要に応じて外部機関に委託することができる。

(調査委員会)

第15条 調査委員会は, 以下に定める委員で組織する。ただし, 通報者及び被通報者等と利害関係のある者を除くものとする。

- (1) 学長が指名する副学長
- (2) 各学部長（短期大学部の長を含む。）の中から学長が指名する者 1名以上
- (3) 総務部長
- (4) 財務部長又は瀬田事務部長
- (5) 本学教職員 1名以上
- (6) その他学長が必要と認める者（学外者で被通報者等と同一分野の研究者を含む。）

ただし, 通報等の内容が第2条第1号に該当する場合には, 第4号委員を省略できるものとする。

- 2 調査委員会の構成は、委員の半数以上が弁護士や公認会計士等の学外有識者でなければならない。ただし、学外有識者においては、学校法人龍谷大学と利害関係を有する者を除くものとする。
- 3 調査委員会に委員長を置き、第1項第1号に定める委員をもって充てる。
- 4 第1項第5号及び第6号の委員については、学長が任期を定めて委嘱するものとする。
- 5 委員長は、調査委員の氏名や所属を通報者及び被通報者等に通知するものとする。
- 6 通報者及び被通報者等は、前項の通知を受けた日から14日以内に、調査委員会の構成について理由及びその根拠となる事実を添えて、学長に異議申立てを行うことができる。
- 7 学長は、前項に定める異議申立ての内容が妥当であると判断した場合は、当該異議申立てに係る調査委員を交代させるとともに、その旨を通報者及び被通報者等に通知するものとする。
- 8 学長は、第6項に定める異議申立ての内容に合理性がないと判断した場合は、理由を付してその旨を通報者及び被通報者等に通知するものとする。

(調査中の一時的措置)

第16条 学長は、調査期間中、不正行為に係る研究費等の執行停止その他必要な措置を講じることができる。

(認定)

第17条 調査委員会は、本調査の開始後150日以内を目途に、不正行為の有無、不正行為の内容、不正行為に関与した者等について認定するものとする。

- 2 調査委員会は、調査の過程であっても、不正の事実が一部でも確認された場合には、速やかに学長に報告するとともに、学長は、当該確認事項についてその事案に係る公的研究費配分機関及び文部科学省に報告するものとする。
- 3 第1項で不正行為がなかったと認定される場合で通報が悪意に基づくものであることが判明したときは、悪意のある通報者として認定するものとする。
- 4 前項の認定を行うに当たっては、通報者に弁明の機会を与えなければならない。
- 5 調査委員会は、第1項及び第2項の内容を認定した場合は、速やかに学長に報告するものとする。
- 6 調査委員会は、前項に定める報告を行う場合は、被通報者等及び悪意のある通報者に対してとるべき措置についてもあわせて学長に勧告するものとする。

(調査委員会の学長宛勧告の内容等)

第18条 調査委員会は、前条第5項に基づき学長宛に勧告を行う場合は、次の事項を明記

しなければならない。

- (1) 不正行為に該当する事実及び同事実が不正行為に該当する理由
- (2) 被通報者等及び悪意のある通報者に対する何らかの措置（就業規則又は学則に基づく懲戒処分を含む）をとることが相当と判断した場合は、その理由とその措置の種類
- (3) その他、調査委員会が必要と判断する事項

2 調査委員会は、審議の結果、前項第2号による措置の種類を調査委員会が判断することが適当でないと考えたときは、その理由を付して、勧告することができる。

3 調査委員会が本条第1項第2号の規定により、職員の懲戒処分を含む勧告を行った場合、当該懲戒事案に関する以後の手続きは、第19条から第23条に定める手続を経た上で、別に定める「職員懲戒手続規程」に従うものとする。

4 調査委員会が本条第1項第2号の規定により、学生の懲戒処分を含む勧告を行った場合、当該懲戒事案に関する以後の手続きは、第19条から第23条に定める手続を経た上で、別に定める「学生懲戒規程」に従うものとする。

（調査結果の通知）

第19条 学長は、第17条の認定に基づく調査結果と本調査に携わった者の所属・氏名を通報者及び被通報者等に通知する。また、通報等の内容が第2条第2号に定める研究費等を用いて行われた研究である場合は、必要に応じてその事案に係る公的研究費配分機関及び当該研究費等の執行に関わる業者等にも通知する。

2 学長は、第17条の認定に基づく調査結果と本調査に携わった者の所属・氏名をその事案に係る公的研究費配分機関及び文部科学省に報告する。

3 学長は、第17条第2項の認定があった場合で通報者が本学に所属していない者である場合には、通報者の所属する機関の長に通知する。

（本調査又は再調査の結果に対する異議申立て）

第20条 前条第1項又は第24条第4項の通知を受けた通報者及び被通報者等は、その内容について異議がある場合は、通知を受けた日から14日以内に、理由及びその根拠を添えて学長に異議申立てを行うことができる。

2 本調査の結果に対する異議申立は、同一の理由で二度申立てることはできない。

3 第1項に定める期日までに異議申立てがない場合、通報者及び被通報者等は、第17条の調査委員会による認定又は第24条の調査委員会による再調査結果を認めたものとみなす。

（勧告・報告に対する学長の措置）

第21条 学長は、学長宛勧告があった後、定められた期日までに通報者及び被通報者等から異議申立がない場合は、調査委員会の事実認定が確定したものとして扱い、速やかに対応する措置（以下「学長の措置」という。）をとらなければならない。

2 学長は、被通報者等以外の者に対して措置が必要であるとの報告を受けたときは、部局長会で審議の上、必要な措置をとるものとする。

（監査委員会の設置等）

第22条 学長は、第20条第1項の異議申立てを受けた場合は、直ちに監査委員会を設置しなければならない。

2 学長は、第20条第1項の異議申立てを受けた場合は、当該通報者及び被通報者等に通知するものとする。

3 学長は、第20条第1項の異議申立てを受けた場合は、その事案に係る公的研究費配分機関及び文部科学省に報告するものとし、第23条第4項に定める異議申立ての却下又は第23条第5項に定める学長の措置として再調査の実施を決定した場合も同様に報告するものとする。

4 第1項の監査委員会は、学長の指名により、部局長会構成員1名以上を含む若干名をもって構成する。ただし、調査委員会の委員及び被通報者等と利害関係にある者は、監査委員になることはできない。

5 第20条第1項の異議申立てが第17条第3項の定めにより悪意のある通報者と認定された者からの場合は、当該通報者の所属機関及び被通報者並びにその事案に係る公的研究費配分機関及び文部科学省に報告するものとし、第23条第4項に定める異議申立ての却下及び第23条第5項に定める学長の措置として再調査の実施を決定した場合も同様に報告するものとする。

（監査の実施とその結果の通知等）

第23条 監査委員会は、可及的速やかに異議申立てに係る監査を行い、その結果を学長宛に報告しなければならない。

2 学長は、監査委員会の報告を、調査委員会に対して通知しなければならない。

3 調査委員会は、前項の報告に対し、意見等がある場合は、これを学長に報告することができる。

4 学長は、監査委員会が異議申立を却下した場合は、調査委員会の事実認定が確定したものとして扱い、学長の措置をとらなければならない。

5 学長は、前項の場合を除いて、本条第1項及び第3項の報告に基づき必要な学長の措置

をとらなければならない。

6 学長は、前2項及び第24条第4項に関して、本条第1項及び第3項又は第24条第3項の報告を踏まえ決定した学長の措置を、異議申立者及び調査委員会並びに監査委員会に対して通知しなければならない。

7 学長は、前項の通知に際し、異議申立者には本条第1項及び第3項の報告を、監査委員会には本条第3項の報告を付さなければならない。

(調査委員会による再調査)

第24条 前条第5項に基づき学長の措置として調査委員会による再調査の実施が決定された場合は、調査委員会は、通報者又は被通報者等に対し、先の調査結果を覆すに足る資料等の提出、当該事案の速やかな解決に向けて再調査に協力することを求めることができる。

2 調査委員会は、前項に定める再調査に対する通報者又は被通報者等からの協力が得られない場合は、再調査を打ち切ることができる。なお、その場合は、学長に再調査を打ち切った旨を速やかに報告し、学長は、通報者又は被通報者等にその旨を通知する。

3 再調査について調査委員会は、50日以内に先の調査結果を覆すか否かを決定し、その結論を学長に報告するものとする。ただし、再調査が第17条第3項の定めにより悪意のある通報者と認定された者からの異議申立てに基づくものである場合は、30日以内に結論を学長に報告するものとする。

4 学長は、前項に定める報告を受けた際には、その内容を被通報者等及び通報者に通知するとともに、必要な措置を採らなければならない。ただし、当該報告が第17条第3項の定めにより悪意のある通報者と認定された者からの異議申立てに対するものであり、再調査を終え、それに係る第20条から第24条までの手続を経て、なお悪意のある通報者と認定された場合は、その内容を被通報者等、通報者及び通報者の所属する機関に通知するとともに、必要な学長の措置を採るものとする。

5 学長は、第3項に定める報告を受けた際には、その事案に係る公的研究費配分機関及び文部科学省に報告するものとする。

(監査委員会の権限等)

第25条 監査委員会の権限等については、第14条第2項から第12項、第17条及び第27条を準用する。

(学長の措置の関係部署への通知、調査委員会及び通報者への報告)

第26条 学長は、学長の措置を以下のとおり関係部署に通知及び報告しなければならない。

(1) 被通報者等が教育職員の場合は、その職員が所属する学部等の所属長宛に通知する。

- (2) 被通報者等が事務職員の場合は、総務局長宛に通知する。
- (3) 被通報者等が学生の場合は、その学生が所属する学部等の所属長宛に通知する。
- (4) 調査委員会及び通報者に報告する。

2 前項の学長の措置を通知するに当って、被通報者等及び悪意のある通報者に対する処分を含む場合は、第18条を準用する。

3 学長は不正行為の発生の態様に応じて、本条第1項以外の部署に対しても学長の措置を通知することができる。

(学生生活指導会議等の権限委譲)

第27条 前条第1項第3号の学生がかかわる不正行為に関する事項については、学生生活指導組織規程に基づく学生生活委員会並びに学生生活指導会議及び学生生活連絡会議の権限を、調査委員会に委譲する。

(調査結果の公表等)

第28条 学長は、第11条から第24条までの調査、又は調査及び監査の結果、不正行為があったと認定された場合は、速やかに次の事項を公表するものとする。ただし、第5号に定める措置の内容に懲戒処分を含む場合は、職員懲戒手続規程又は学生懲戒手続規程に基づく手続の終了後、速やかに次の事項を公表するものとする。

- (1) 不正行為を行った研究者等の氏名又はグループ名
- (2) 不正行為の内容
- (3) 調査委員会委員の所属、氏名
- (4) 調査委員会が行った調査方法、内容等
- (5) 被通報者等又は悪意のある通報者に対する措置の内容

2 学長は、不正行為の内容が第2条第1号に該当する場合には、被通報者等に対し、研究成果の取り下げ等を勧告するなど、必要な措置を講ずる。

3 学長は、不正行為の内容が第2条第2号に該当する場合には、被通報者等に対し、学内研究費の受給停止及び学内外研究資金への申請停止など、必要な措置を講ずる。

4 学長が前2項に定める措置を講じる際には、その事案に係る公的研究費配分機関等が定める規則その他関連法令等に規定される措置をもってかえることができる。

5 学長は、通報が悪意によるものであったと認定した場合には、通報者の所属、氏名を公表する。

(配分機関への報告及び調査への協力等)

第29条 学長は、告発等の受付から210日以内に当該不正事案に係る最終報告書(様式2)

をその事案に係る公的研究費配分機関、及び文部科学省に提出するものとする。なお、期限までに第11条から第24条に規定する調査及び監査が完了しない場合であっても、学長は、様式2に沿った内容の調査の中間報告をその事案に係る公的研究費配分機関及び文部科学省に提出しなければならない。

- 2 学長は、調査に支障がある等、正当な事由がある場合を除き、公的研究費配分機関又は文部科学省から要請があった場合は、当該事案に係る資料の提出若しくは閲覧又は現地調査に応じるものとする。

(名誉回復等)

第30条 学長は、本調査の結果により、不正行為がなかったと認定された場合には、第16条で実施した研究費の執行停止等の措置を解除するとともに、被通報者等の名誉回復に努めなければならない。

(不利益扱いの禁止)

第31条 学長は、第9条に規定する通報を行ったことあるいは通報をされたことのみを理由として、当事者に不利益な取扱いをしてはならない。

(守秘義務)

第32条 不正行為等に起因する問題に対応するすべての者は、当事者のプライバシー、名誉その他の人権を尊重するとともに、その任務の遂行上知り得た情報を他に漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。

(学外者への措置)

第33条 学長は、次のいずれかの号に該当する者が学外者である場合は、学外者の所属する機関の長と協議のうえ、必要な措置を講ずる等適切な処置を行うものとする。ただし、第3号に該当する学外者に対しては、刑事告訴等の措置を講じることもある。

- (1) 不正行為を行ったと認定された研究者等
- (2) 不正行為への関与が認定された研究者等
- (3) 通報が悪意によるものと認定された通報者

- 2 学長は、不正行為に関与したと認定された業者等に対し、取引停止等の措置を講じるものとする。

- 3 前項で定める措置については、学校法人龍谷大学固定資産及び物品調達規程等の本学諸規程及び関係法令によるものとする。

(事務処理)

第34条 本学における研究活動に係る不正行為の防止及び対応に係る事務処理は、以下の

通り行う。

- (1) 第6条から第31条に定める事項に係る事務処理は、研究部が行う。
- (2) 第33条第1項に定める学外者への措置に係る事務処理は、研究部が行う。
- (3) 第33条第2項に定める取引停止処分 of 事務処理は、財務部管理課又は瀬田事務部が行う。

(監査体制)

第35条 本学における研究活動に係る不正行為の防止等に対して、内部監査室は内部監査実施細則に基づき、適宜適正な監査を実施する。

(雑則)

第36条 この規程に定めるもののほか、不正行為の防止及び対応等の必要な事項は、学長が別に定める。

(事務所管)

第37条 この規程に伴う事務は、研究部が所管する。

(改廃)

第38条 この規程の改廃は、評議会において決定する。

付 則

- 1 この規程は、制定日から施行する。
- 2 この規程の施行に伴い、公的研究費の適正な管理に関する規程（平成20年2月21日制定）は廃止する。
- 3 前項の規定にかかわらず、平成25年度は、この規程で定める研究不正行為防止委員会の構成員のうち第3号から第8号委員については、公的研究費の適正な管理に関する規程に定める公的研究費不正防止計画推進委員会の委員をもって充てる。

付 則（平成27年2月26日第5条、第6条、第9条～第11条、第14条、第15条、第17条、第19条、第20条、第22条、第23条、旧別紙様式改正、旧第25条、旧第26条、旧第28条～旧第31条、旧第33条～旧第36条繰下、旧第24条、旧第27条、旧第32条繰下・改正、第6条の2、第6条の3、第24条、第29条、様式2新設）

この規程は、制定日（平成27年2月26日）から施行する。

付 則（抄）（平成29年3月22日第5条、第15条改正）

- 1 この規程は、平成29年4月1日から施行する。

様式1

年 月 日

龍谷大学 研究部長 殿

所属：
氏名： 印
連絡先：

研究活動に係る不正行為について(通報)

「研究活動における不正行為の防止及び対応に関する規程」第9条第1項の規定に基づき、
下記の研究者の不正行為について明確な合理的理由を添えて通報いたします。

記

1 不正行為を行ったとする研究者等(グループ)名

所属：
研究者等(又はグループ)名：

2 不正行為の内容(該当事項について具体的に)

- ①捏造：
 - ②改ざん：
 - ③盗用：
 - ④研究費の不正使用：
 - ⑤その他の不正行為：
- ※①～③において、既に論文として公表している場合には、論文名も記載すること。

3 不正であるとする合理的理由(根拠資料を添付して提出のこと。)

4 不正行為が発生した日時・場所

5 秘匿を希望する事項

以上

様式2

年 月 日

公的研究費配分機関 殿

龍谷大学

学長 ○ ○ ○ ○ 印

〇〇〇の不正等について(報告)

平成〇年度(競争的資金等の名称を記載)において(不正の名称を記載)が行われたことが判明しましたので、下記のとおり報告します。

記

1 経緯・概要

- ※ 発覚の時期及び契機(※「告発(通報)」の場合はその内容・時期等)
- ※ 調査に至った経緯等

2 調査

- (1) 調査体制
 - ※ 調査委員会の設置, 構成
- (2) 調査内容
 - ※ 調査期間
 - ※ 調査対象(例: 対象者(研究者・業者等), 対象研究活動, 対象経費(競争的資金等, 基盤的資金等))
 - ※ 調査方法・手順(書面調査, ヒアリング, 再実験等)
 - ※ 調査委員会の開催日時・内容
 - ※ 監査委員会の開催日時・内容

3 調査結果(不正等の内容)

- (1) 認定した不正等の種別(研究費の不正使用(預け金, カラ出張, プール金など), 不正行為(ねつ造, 改ざん, 盗用))
- (2) 不正等に関与した研究者(※共謀者, 不正行為(ねつ造, 改ざん, 盗用)があったと認定した研究に係る論文等の内容について, 責任を負う者として認定した研究者を含む。)

氏 名(所属・役職)	研究者番号

(3) 不正等が行われた研究課題

基盤的経費(私学助成金)				
競争的資金等				
制度名	研究種目名	研究期間		
研究課題名 :				
研究代表者氏名(所属・役職) :				
研究者番号 :				
交付決定額又は委託契約額 (単位:円)				
平成〇〇年度	平成〇〇年度	平成〇〇年度	平成〇〇年度	平成〇〇年度
研究組織(研究分担(連携)者氏名(所属・役職)・研究者番号)				

(4) 不正等の具体的な内容

- ・動機／背景
- ・手法／内容
- ・私的流用の有無

(5) 調査を踏まえた龍谷大学としての結論と判断理由

(6) 不正等に支出された競争的資金等の額

平成〇〇年度(内訳)

(単位:円)

費目	交付決定額又は委託契約額	実績報告額	適正使用額	不正使用・不適切使用額
物品費				
旅費				
謝金等				
その他				
直接経費計				
間接経費				
合計				

4 本学がこれまでに行った措置の内容

(例) 競争的資金等の執行停止等の措置, 関係者の処分, 論文等の取下げ勧告等

5 不正等の発生要因と再発防止策

- (1) 不正等が行われた当時の競争的資金等の管理・監査体制
- (2) 発生要因
- (3) 再発防止策

6 添付書類一覧

以上

○研究活動に係る不正行為の防止及び対応に関する規程第6条の2にかかる運用細則

平成27年2月26日

改正 平成29年1月26日

(目的)

第1条 この細則は、研究活動に係る不正行為の防止及び対応に関する規程（以下「規程」という。）第6条の2に規定する研究倫理教育に係る実施方法等の詳細について定める。

(対象)

第2条 次の各号に定める者は、研究倫理教育を受けなければならない。

- (1) 規程第5条第1項第1号から第3号までに掲げる部署に所属する者
- (2) 規程第5条第1項第4号に掲げる部署に所属する者のうち、規程第5条に規定するコンプライアンス推進責任者（以下「コンプライアンス推進責任者」という。）が必要と判断する者
- (3) 本学が受け入れる独立行政法人日本学術振興会の特別研究員
- (4) その他コンプライアンス推進責任者が必要と判断する者

(教育内容)

第3条 龍谷大学及び龍谷大学短期大学部において、研究倫理教育は、次の各号に定めるいずれかの教材によって実施するものとする。

- (1) 日本（CITI JAPAN Program）及び米国（Collaborative Institutional Training Initiative : CITI）の2つのNPO団体が協力して作成した科学研究及び医学教育のためのe-learning教材（CITI Japan On スクリーン）のうち、「責任ある研究行為について」、「データの扱い」、「盗用」及び「公的研究費の取り扱い」の4科目
- (2) 前号に規定するものに類する教材
- (3) その他学長が適当と判断する教材

2 前項の規定にかかわらず、第2条第2号に該当する者は、前項第1号に規定する4科目のうち、「公的研究費の取り扱い」のみを受講するものとする。

3 前2項の規定にかかわらず、コンプライアンス推進責任者の判断により、受講する科目又は教材を追加することができるものとする。

(実施方法)

第4条 前条第1項第1号の教材を使用する研究倫理教育は、コンプライアンス推進責任者の指示により行われる研修講義及び講義後のe-learning確認クイズによって実施するものとする。

のとする。確認クイズを完了することにより、研究倫理教育は、修了したものとみなす。

(実施頻度)

第5条 研究倫理教育は、平成27年度を起点とし、5年度ごとに実施する。

2 前項の規定にかかわらず、第2条第1号に該当する者のうち新規に採用された者及び第2条第2号から第4号までに該当する者に対する初回の研究倫理教育は、着任時又は必要と判断された時に実施する。

(改廃)

第6条 この細則の改廃は、全学研究運営会議の議を経て、部局長会において決定する。

付 則

この細則は、制定日（平成27年2月26日）から施行する。

付 則（平成29年1月26日旧第5条繰下、第5条新設）

この細則は、制定日（平成29年1月26日）から施行する。

年次	セメスター	時期	内容	主な研究活動	指導内容
1年次	1セメ	4月	入学式	研究の論理的枠組みの構築	教員による履修計画及び 演習教員選定への助言
			履修説明会・履修登録指導期間		
			履修登録		
			演習指導教員選定届の提出		
	5月		研究計画書の提出	基礎的資料・データの収集、整理	指導教員・副指導教員の選定 研究指導計画書の策定・共有
	2セメ	1月	研究経過報告書の提出		
2年次	3セメ	4月	履修登録		
	4セメ	1月	研究経過報告書の提出		研究指導計画書の策定・共有 (博士論文提出資格試験の実施)
		1月以降	博士論文提出資格試験の受験		
3年次	5セメ	4月	履修登録	関連学会での研究発表	公開研究発表に対する助言
		4月以降	公開研究発表		
	6セメ	11月	博士論文の提出	学会誌等への論文投稿	博士論文提出への助言
		1月以降	受理審査 本審査・論文審査会 (審査は最長1年間)		
		3月	学位授与		

【 省 略 】

1(書類等の題名)

資料 17 「国際学研究科大学院合同研究室の見取り図」

2(出典)

「龍谷大学 和顔館 4 階及び 22 号館 4 階平面図」からデータを抽出

3(その他の説明)

安全上の観点から、本資料は【省略】とする。

以上

学術雑誌等一覧

資料18

和雑誌	1,061
洋雑誌	402
計	1,463

雑誌コード	タイトル、著者名、発行元	和文・英文
SB30005423	'67英文学論集 : in spite of the thirteen superstition / '67英文学会 [編]	和文
SB30012957	Africa	英文
SB30013170	Agricultural and forest meteorology	英文
SB30006177	Akzente : Zeitschrift für Dichtung	英文
SB30001814	The albion. New series / 京大英文学会	和文
SB31001025	Allgemeine Zeitschrift von Deutschen für Deutsche	英文
SB31003861	Alternatives : a journal of world policy	英文
SB30010341	Amerasia journal : a joint quarterly publication of the UCLA Asian American Studies	英文
SB30006182	The American historical review / American Historical Association	英文
SB30007000	American journal of philology / Johns Hopkins University	英文
SB30007002	American literature : a journal of literary history, criticism, and bibliography	英文
SB30013185	The analysis of verbal behavior	英文
SB30007342	Anglia : Zeitschrift für englische Philologie	英文
SB30005656	Anglica	和文
SB30013583	Annual review of applied linguistics	英文
SB30013157	Anthropological linguistics / Anthropological Dept., Indiana University	英文
SB31002980	Anthropology today	英文
SB31006532	Anuario estatístico do Brasil / Instituto Nacional de Estatística	英文
SB30013159	Applied linguistics	英文
SB31004281	Ars Islamica / Research Seminary in Islamic Art, Division of Fine Arts, University of	英文
SB30012963	Ars orientalis : the art of Islam and the East	英文
SB30012952	Arts of Asia	英文
SB31004127	Asian ethnology	和文
SB30013539	Asian survey / Institute of International Studies, University of California	英文
SB30013584	Asian theatre journal : ATJ	英文
SB30005281	Asphodel / 同志社女子大学英文学会 [編]	和文
SB31009188	L'Assiette au beurre	英文
SB30008146	The Atlantic	英文
SB31003511	Aurora / 岐阜女子大学英語英米文学会 [編]	和文
SB30013158	The Australian and New Zealand journal of sociology / Sociological Association of	英文
SB31003625	Australian journal of international affairs	英文
SB31003808	AUSTRALIAN MACWORLD	英文
SB31003626	The Australian outlook : the journal of the Australian Institute of International Affairs /	英文
SB31000401	Autrement. Collection mutations	英文
SB30010371	Autrement. Série mutations	英文
SB30005282	Baika review / 梅花女子大学英米文学会 [編]	和文
SB30014053	La Banque des mots : revue semestrielle de terminologie française	英文
SB30004082	Beacon / 賢明女子学院短期大学 [編]	和文
SB30012005	Beihefte zur Zeitschrift für Deutsche Philologie	英文
SB30013192	Berlinische Blätter für deutsche Frauen	英文
SB31006823	Bibliographie zur Symbolik, Ikonographie und Mythologie : internationales	英文
SB31001775	Blätter der Thomas Mann Gesellschaft / Thomas Mann Gesellschaft	英文
SB30014325	Boletín de la Real Academia de Buenas Letras de Barcelona	英文
SB30014313	Boletín de la Real Academia Espanola. Indices	英文
SB30010296	Brain and language	英文
SB31001588	British journal of educational technology	英文
SB31003873	British journal of international studies	英文
SB30014321	Browning Institute studies	英文
SB30010294	Bulletin critique du livre français / Association pour la diffusion de la pensée française	英文
SB30006297	Bulletin of Hispanic studies	英文
SB31001828	Bulletin of Hispanic studies / University of Glasgow	英文
SB31001845	Bulletin of Spanish studies : Hispanic studies and researches on Spain, Portugal and	英文
SB30007219	Business week	英文
SB30006321	Cahiers du 20e siècle	英文
SB31001587	CALICO journal	英文
SB30013166	Canadian journal of forest research	英文
SB30013243	Car & maintenance = 自動車と整備	和文
SB30013167	Central Asian survey	英文
SB30012964	Change	英文
SB30012965	Change in higher education	英文
SB31002443	Chimères	英文
SB30013543	The Chronicle of higher education	英文
SB30013175	Cognitive linguistics	英文
SB30005441	Colloquia / 慶應義塾大学大学院文学研究科英米文学専攻『コロキア』同人 [編]	和文
SB30013544	Communication education	英文
SB30010300	Communication monographs	英文
SB30013603	Communication theory : CT : a journal of the International Communication	英文
SB30007029	Comparative literature	英文
SB30006334	Comparative politics / the Political Science Program of the City University of New York	英文
SB30013598	Computer assisted language learning	英文
SB31003889	Cooperation and conflict : Nordic studies in international politics	英文
SB31003890	Cooperation and conflict : Nordic studies in international politics / Nordic Committee	英文
SB30005440	Core / 同志社大学英文学会Core編集部	和文
SB30000002	Cosmica / 京都外国語大学 [編]	和文
SB30013156	Courier international	英文
SB30007341	Criterion : a literary review	英文
SB30012709	The criterion : a quarterly review	英文

SB31001167	Critical studies in media communication : CSMC	英文
SB30013542	Critique : revue générale des publications françaises et étrangères	英文
SB30013545	Critique of anthropology	英文
SB31002993	Cross currents : a quarterly review to explore the implication of christianity for our	英文
SB30012682	Cuadernos americanos	英文
SB30006318	Cuadernos hispanoamericanos : revista mensual de cultura hispanica / Seminario de	英文
SB30013592	Cultural critique	英文
SB31002893	大公報 = L'impartial	和文
SB30006355	Defoe's review	英文
SB30006347	Deutsch als Fremdsprache : Zeitschrift zur Theorie und Praxis des Deutschunterrichts für	英文
SB30007358	Deutsche Vierteljahrsschrift für Literaturwissenschaft und Geistesgeschichte	英文
SB31001026	Deutschland	英文
SB31002300	Deutschland = Germany	和文
SB31000233	Deutschland = ドイツチュラント : 政治・文化・経済・科学の雑誌	和文
SB31001580	Development and change / Institute of Social Studies	英文
SB30012959	Development policy review : the journal of the Overseas Development Institute	英文
SB31008483	Dickens studies annual : essays on Victorian fiction	英文
SB30010343	Discourse : Berkeley journal for theoretical studies in media and culture	英文
SB30005835	Doshisha literature / 同志社大学英文学会	英文
SB30013597	The drama review : TDR / New York University, School of Arts	英文
SB31001202	The Dublin penny journal	英文
SB31002581	Dynamis : ことばと文化 / 京都大学大学院人間・環境学研究科文化環境言語基礎論講座 [編]	和文
SB31003177	e trans learning = イートランス・ラーニング	和文
SB31000773	eとらんず : portal site to translation	和文
SB30005854	The eastern buddhist. New series / the Eastern Buddhist Society	英文
SB30011612	Ebara review / Ebara review	和文
SB30012956	Economic botany	英文
SB30006374	The economist : or the political, commercial, agricultural, and free-trade journal	英文
SB30014322	Edad de Oro	英文
SB30003349	The Edgewood review / the Edgewood review同人	和文
SB31001207	Educational researcher / American Educational Research Association	英文
SB30013790	Educational Resources Information Center [CD-ROM]	英文
SB30006392	Eighteenth century studies : a journal of literature and the arts / American Society for	英文
SB30007037	ELH : a journal of english literary history	英文
SB30012958	ELT journal / Oxford University Press in association with the British Council	英文
SB30006380	Encounter : literature, arts, politics	英文
SB30012953	Energy policy	英文
SB30012966	English language teaching : a periodical devoted to the teaching of English as a	英文
SB30012967	English language teaching journal	英文
SB30006381	English studies	英文
SB30013168	English today	英文
SB30007438	Esprit : revue internationale	英文
SB30001817	Essays & studies / the English literary Society, Kyoto Women's University	和文
SB30007041	Essays in criticism	英文
SB31002776	Essential teacher : ET	英文
SB31001010	Etc. : a review of general semantics / International Society for General Semantics	英文
SB30010302	Études : revue bimensuelle / Pères de la Compagnie de Jésus	英文
SB30013548	Études internationales	英文
SB30013022	Euphorion : Zeitschrift für Literaturgeschichte	英文
SB30006396	Euromoney : the journal of the international money and bond markets	英文
SB30010825	Europe-Asia studies	英文
SB30013574	European human rights reports	英文
SB30010368	Événement du jeudi	英文
SB30006403	Fabula : Zeitschrift für Erzählforschung : journal of folklore studies : revue des études sur	英文
SB30013981	Farming Japan	英文
SB30006405	FF communications / Folklore Fellows	英文
SB30012618	Film comment / Film Society of Lincoln Center	英文
SB30006406	Finance and development / International Monetary Fund and International Bank for	英文
SB30010647	Financial times	英文
SB30001818	Focus / 愛知大学英米文学研究会	和文
SB30006412	Foreign affairs : an American quarterly review	英文
SB31003836	Foreign language annals / American Council on the Teaching of Foreign Languages	英文
SB30013078	Foreign Language Institute / 愛知大学外国語研究室	和文
SB30007236	Fortune	英文
SB30006413	Le Français dans le monde : revue de l'enseignement du français hors de France	英文
SB31004163	Francophonies du sud : le français dans le monde supplément	英文
SB31008026	Freie Bühne für den Entwicklungskampf der Zeit	英文
SB31008025	Freie Bühne für modernes Leben	英文
SB31001160	GA	和文
SB31001159	GA document	和文
SB31000727	GA houses : global architecture	和文
SB31000726	GA Japan : environmental design	和文
SB30006421	Germanisch-Romanische Monatsschrift. Neue Folge	英文
SB30006422	Germanistik : internationales Referanorgan mit Bibliographischen Hinweisen	英文
SB31001891	The Grub-Street journal	英文
SB30012711	Die Harfe	英文
SB30005873	Harvard business review / Graduate School of Business Administration, Harvard	英文
SB30007042	Harvard educational review	英文
SB30013599	Harvard human rights journal	英文
SB30007242	Harvard international law journal	英文
SB30007043	Harvard theological review / Faculty of Divinity in Harvard University	英文
SB30001821	Heron : essays on literature & linguistics by the group for the cultural study of America	和文

SB30012712	Die Hesperiden : Blüten und Früchte aus der Heimat der Poesie und des Gemüths	英文
SB30013834	HI-Q FILM REVIEW	英文
SB30005878	Hispania : a journal devoted to the interests of the teaching of Spanish and	英文
SB30005880	Hispanic review : a quarterly journal devoted to research in the Hispanic languages &	英文
SB31000563	Hispanica / 日本イスパニヤ語学会	和文
SB30013594	History of the human sciences	英文
SB30014320	Household words : a weekly journal	英文
SB30007048	The Hudson review	英文
SB31003659	Human communication research / International Communication Association	英文
SB30007171	Human rights law journal : HRLJ	英文
SB30013581	Human rights quarterly	英文
SB31003002	Humanistica Lovaniensia : journal of neo-Latin studies	英文
SB30001822	Humanitas / 奈良県立医科大学人文系教室 [編]	和文
SB30010280	Humanite Dimanche Parti Pris des gens	英文
SB30008161	Huntington Library quarterly	英文
SB30014113	IDC forum : 国際開発問題実務者のための理論情報誌 / 国際開発センター	和文
SB30014115	IDCJ forum : 国際開発問題実務者のための理論情報誌 / 国際開発センター [編]	和文
SB30014014	Indiana alumni magazine	英文
SB30003377	Infinity / Infinity同人会	和文
SB31003003	Les inrockuptibles	英文
SB30014319	Die Insel : Monatsschrift mit Buchschmuck und Illustrationen	英文
SB30005299	Insight / ノートルダム女子大学英語英文学会 [編]	和文
SB30010788	Ínsula : revista bibliográfica de ciencias y letras	英文
SB31002436	Intelligence = インテリジェンス / 20世紀メディア研究所編	和文
SB30013180	International documents review : the weekly newsletter on the United Nations	英文
SB30010785	International herald tribune	英文
SB30013620	International journal of applied linguistics	英文
SB31000172	International journal of cultural studies	英文
SB30013612	International journal of educational telecommunications	英文
SB30013555	International journal of intercultural relations : IJIR / the Society for Intercultural	英文
SB30013595	International journal of refugee law	英文
SB31004015	International journal of testing	英文
SB31001814	International journal on e-learning : corporate, government, healthcare, & higher	英文
SB30006445	International law reports	英文
SB30006446	International legal materials : current documents / American Society of International	英文
SB31008149	International review of industrial and organizational psychology	英文
SB30012954	IRAL : international review of applied linguistics in language teaching	英文
SB30012968	Iran : journal of the British Institute of Persian Studies	英文
SB30006472	Ireland to-day	英文
SB31001203	The Irish penny journal	英文
SB31001204	The Irish penny magazine	英文
SB30007169	Irish renaissance annual	英文
SB31009154	JACET関西支部ライティング指導研究会紀要 / 大学英語教育学会(JACET)関西支部ライティン	和文
SB30012713	Die Jahreszeiten : eine Vierteljahrsschrift für romantische Dichtungen	英文
SB31002786	JALT journal : journal of the Japan Association of Language Teachers	英文
SB30012960	Japan forum / British Association for Japanese Studies	英文
SB30013231	Japan quarterly	英文
SB30007343	JEGP : journal of English and Germanic philology	英文
SB30006486	The journal of American history	英文
SB31002315	The journal of American Literature Society of Japan	英文
SB30010789	Journal of Asian history	英文
SB30010309	Journal of child language	英文
SB30013556	Journal of communication	英文
SB30013557	Journal of cross-cultural psychology	英文
SB30013160	Journal of development economics	英文
SB30013605	Journal of educational multimedia and hypermedia	英文
SB30006551	The journal of Japanese studies	英文
SB30010651	Journal of linguistics / Linguistics Association of Great Britain	英文
SB30014081	Journal of management information systems : JMIS	英文
SB30011668	The Journal of medieval and Renaissance studies	英文
SB30010358	Journal of memory and language	英文
SB30005927	Journal of personality and social psychology / American Psychological Association	英文
SB30010315	Journal of phonetics	英文
SB31003013	Journal of politeness research	英文
SB30013558	Journal of popular culture / Popular Culture Association	英文
SB30013161	Journal of pragmatics : an interdisciplinary quarterly of language studies	英文
SB30013611	Journal of social studies research	英文
SB31001038	Journal of sociology : the journal of the Australian Sociological Association / Australian	英文
SB30013181	The journal of the Royal Anthropological Institute : incorporating man	英文
SB30013176	Journal of women's history	英文
SB31004149	Journalism = ジャーナリズム	和文
SB31000485	Jugend : Münchener Illustrierte Wochenschrift für Kunst und Leben	英文
SB30006579	Keats-Shelley journal : Keats, Shelley, Byron, Hunt, and their circles / Keats-Shelley	英文
SB31001012	Keats-Shelley journal : Keats, Shelley, Byron, Hunt, and their circles / Keats-Shelley	英文
SB30006580	Keats-Shelley memorial bulletin	英文
SB30010964	The Keats-Shelley review	英文
SB30008162	Kenyon review. New series	英文
SB31003164	Kobe English Language Teaching : KELT / 神戸大学大学院教育学研究科英語教育研究会	和文
SB30003354	Kobe miscellany / 神戸大学英米文学会 [編]	和文
SB31000452	Die Kunst : Monatshefte für freie und angewandte Kunst	英文
SB30005948	Kursbuch	英文
SB30013266	Kyoto journal	英文

SB30013366	Kyushu American literature / Kyushu American Literature Society = 九州アメリカ文学 /	和文
SB30011985	L'arche / 明治大学大学院院生仏語仏文学研究会編	和文
SB30014413	L'Égalité	英文
SB30014415	L'Égalité. Sér. 3	英文
SB31001061	L'événement	英文
SB30012686	L'Expansion	英文
SB30014326	La Quinzaine Littéraire (Supplement) / Paris	英文
SB31005079	La revue internationale des livres & des idées	英文
SB30010317	Labor history	英文
SB30014314	Langages	英文
SB30006601	Langenscheidts Sprach-Illustrierte	英文
SB30006602	Language : journal of the Linguistic Society of America	英文
SB30013591	Language and education	英文
SB30010822	Language and speech	英文
SB31004016	Language assessment quarterly : an international journal	英文
SB31003837	The language educator	英文
SB30010318	Language in society	英文
SB30013179	Language international : the magazine for the language professions	英文
SB30013560	Language learning : a quarterly journal of applied linguistics	英文
SB30012697	Language sciences / Indiana University. Research Center for the Language Sciences	英文
SB30013367	The language teacher / the Japan Association of Language Teachers = / 全国語学教師	英文
SB30013538	Language teaching research : LTR	英文
SB31000122	Language testing	英文
SB30011980	Lanterna : 英米文学試論 / 帝塚山学院大学英文学科	和文
SB31004173	Le monde diplomatique en español	英文
SB31003831	The legal.comm = リーガルコム	和文
SB30010427	Les Nouveaux cahiers	英文
SB30014064	Letras de Deusto	英文
SB30005950	Life	英文
SB30006608	Linguistic inquiry	英文
SB31001165	Linguistics and education	英文
SB30012010	Lire	英文
SB30014424	Lire magazine	英文
SB30008163	The Listener / British Broadcasting Corporation	英文
SB30006617	Literature and psychology / Department of English, Fairleigh Dickinson University	英文
SB31001009	Literature and psychology : news-letter of the conference on literature and	英文
SB30007078	London magazine. N.S. : a monthly review of literature	英文
SB30010802	The London review of books	英文
SB30012714	Lyceum der schönen Kuenste	英文
SB30013174	Macworld : the Macintosh magazine	英文
SB30006639	Magazine littéraire	英文
SB31001007	Mark Twain journal	英文
SB30007345	The Mark Twain quarterly	英文
SB30005974	März : Halbmonatsschrift für deutsche Kultur	英文
SB31006679	Media culture & society	英文
SB30012698	Meiroku zasshi : journal of the Japanese enlightenment	英文
SB30012715	Memnon : eine Zeitschrift	英文
SB30005966	Merkur : deutsche Zeitschrift für europäisches Denken	英文
SB31003623	Millennium : journal of international studies / London School of Economics	英文
SB30014049	Mini-world	英文
SB30014298	Modern Asian studies	英文
SB30010653	Modern drama	英文
SB30007082	Modern fiction studies	英文
SB30005971	The Modern language journal / National Federation of Modern Language Teachers	英文
SB30008165	Modern language quarterly / University of Washington	英文
SB30005972	Modern language review : quarterly journal devoted to the study of medieval and	英文
SB30007083	Modern philology / University of Chicago	英文
SB30010790	Le Monde	英文
SB30013162	Le Monde diplomatique : journal des cercles diplomatiques et des grandes	英文
SB30013980	Monetary and economic studies / Institute for Monetary and Economic Studies, Bank	和文
SB31001147	Monthly bulletin / European Central Bank	英文
SB30007340	The monthly criterion : a literary review	英文
SB31003573	Monthly Jica	和文
SB30006637	Monumenta Nipponica : studies on Japanese culture past and present	英文
SB30008322	Moreana : organe de l'Association Amici Thomae Mori	英文
SB30005286	Mulberry / 愛知県立女子短期大学英文学会 [編]	和文
SB31002468	Multitudes	英文
SB30012741	Muse : Monatsschrift für Freunde der Poesie und der mit ihr verschwisterten Künste	英文
SB30012737	Musen : eine norddeutsche Zeitschrift	英文
SB30012742	Museum für altdeutsche Literatur und Kunst	英文
SB30001827	Nanzan review / 南山大学英米学会	和文
SB30014079	Nebulous : ねびゆらす / 明治学院大学大学院英文学専攻『ねびゆらす』会	和文
SB31008027	Neue deutsche Rundschau (Freie Bühne)	英文
SB30005986	Neue Rundschau	英文
SB30007339	The new criterion : a quarterly review	英文
SB31003500	New German critique	英文
SB30005988	The New Yorker	英文
SB30011931	Newsweek : the magazine of news significant	英文
SB30003367	The Northern review / 北海道大学英語英米文学研究会 [編]	和文
SB30006664	Le Nouvel observateur	英文
SB30007390	La Nouvelle revue française	英文
SB30006665	Nueva revista de filología hispánica / el Colegio de Mexico	英文

SB30003370	Oberon / オペロン会 [編]	和文
SB30001829	Ohtsuma review : studies in English language and literature / 大妻女子大学英文学会 [編]	和文
SB31001581	Oriental art. New series	英文
SB31001024	Orpheus : eine Zeitschrift in zwanglosen Heften	英文
SB30005288	Osaka literary review / 大阪大学大学院英文学談話会	和文
SB30001828	Otsuka review / the English Society of the Graduate School, Tokyo University of	和文
SB30013563	Pacific historical review / Pacific Coast Branch of the American Historical Association	英文
SB30006720	Pan	英文
SB31001626	Pantheon : eine Zeitschrift für Wissenschaft und Kunst	英文
SB30007416	Partisan review : a literary monthly	英文
SB30003369	Paulownia review / 大東文化大学大学院英文学研究会	和文
SB30013163	Petroleum intelligence weekly	英文
SB30008167	Philological quarterly : a journal devoted to scholarly investigation in the classical and	英文
SB30005445	Phoenix / 『Phoenix』編集部 [編]	和文
SB30013636	Phonology	英文
SB30014128	Phonology yearbook	英文
SB30006009	Plays and players	英文
SB30011967	Plumdom / 梅花女子大学大学院英米文学会 [編集]	和文
SB30007391	PMLA : publications of the Modern Language Association of America / Modern	英文
SB30006694	Poetry / Modern Poetry Association	英文
SB30003562	Poesis / 関西大学大学院英語英米文学研究会 [編集]	和文
SB31002633	Politis,	英文
SB30013564	Popular music and society / Department of Sociology, Bowling Green State University	英文
SB31008475	The poster : an illustrated monthly chronicle	英文
SB30012874	Profectus / 武庫川女子大学大学院文学研究科英語英米文学専攻院生会 [編]	和文
SB31003879	Profession	英文
SB31003968	Profil	英文
SB31003644	Program / Organization of American Historians ... Annual Meeting	英文
SB30010327	Projet	英文
SB31001627	Prometheus : eine Zeitschrift	英文
SB30014305	Public administration and development : a journal of the Royal Institute of Public	英文
SB31000207	Qué leer	英文
SB30011692	Queries / 大阪市立大学大学院英文学研究会	和文
SB30011789	Quest / 京都大学大学院英文学研究会	和文
SB30011687	Quest : studies in English linguistics and literature / 西南英語英文学研究会	和文
SB30011477	Random / 東京外国語大学英米科大学院 [編]	和文
SB30010679	Reading in a foreign language / the Language Studies Unit, University of Aston in	英文
SB31001589	Recall	英文
SB30008170	Renaissance quarterly / Renaissance Society of America	英文
SB30013172	Research on language and social interaction	英文
SB31002629	Resurgence	英文
SB30006739	The Review / International Commission of Jurists	英文
SB31007340	Review of international economics	英文
SB31003874	Review of international studies / British International Studies Association	英文
SB30014315	Revista da Universidade Catolica de Campinas	英文
SB31003824	Revista de estudios orteguianos	英文
SB30006741	Revista de filología española / Centro de Estudios Históricos	英文
SB31001027	Revista de filología española / Instituto Miguel de Cervantes	英文
SB30006788	Revista de occidente	英文
SB30006789	Revista de Occidente. Segunda época	英文
SB30006773	Revista de Occidente. Tercera época / Spottorno, José Ortega	英文
SB30014317	Revista do livro / Instituto Nacional do Livro	英文
SB30007410	Revue de littérature comparée	英文
SB30008088	Revue française de sociologie / Centre d'études sociologiques	英文
SB31003001	Rhetorica : a journal of the history of rhetoric / International Society for the History of	英文
SB31003371	Rikkyo American studies / the Institute for American Studies, Rikkyo University = 立教アメ	和文
SB30013164	Russian history = Histoire russe	英文
SB30014055	Saturday review	英文
SB30014056	Saturday review world	英文
SB30006039	The Savoy : an illustrated quarterly	英文
SB31008577	Der Schlern	英文
SB31000178	Sciences humaines : SH	英文
SB31001002	Scrutiny : a quarterly review	英文
SB30013236	SD : スペースデザイン / 鹿島研究所出版会	和文
SB30013587	Second language research	英文
SB31000986	Seijo English monographs	英文
SB30011448	SELL : studies in English linguistics & literature / 京都外国語大学英米語学科研究会	和文
SB31000384	Senri ethnological studies / National Museum of Ethnology	英文
SB30007108	The Sewanee review	英文
SB30005801	The Shakespeare Association bulletin / Shakespeare Association of America	英文
SB30006799	Shakespeare quarterly / Folger Shakespeare Library	英文
SB31001013	The Shakespeare quarterly / Folger Shakespeare Library	英文
SB30000010	Shoin literary review / edited by the English Departments of Shoin University and Shoin	和文
SB31002957	Shu zhai = Digest	和文
SB30003310	Shukugawa studies in linguistics and literature / 夙川学院短期大学英文学会 [編]	和文
SB30006800	Sinn und Form : Beiträge zur Literatur	英文
SB30013566	Social education	英文
SB30013567	The social studies : a periodical for teachers and administrators	英文
SB30014416	Le Socialiste	英文
SB30014418	Le Socialiste. [Sér. 3.] / Organe central du Parti ouvrier	英文
SB30014422	La Socialiste. N.S. / Organe central du Parti socialiste de France (U.S.R.)	英文
SB30014417	Socialiste. Ser. 2 / Organe du Parti ouvrier	英文

SB30014419	Socialiste. Sér. 4 / Organe central du Parti ouvrier	英文
SB30014420	Socialiste. Sér. 5 / Organe central du Parti ouvrier français	英文
SB30014421	Socialiste. Sér. 6 / Organe central du Parti ouvrier français	英文
SB30014423	Le Socialiste. Sér. Nouvelle / Organe central du Parti socialiste de France (U.S.R)	英文
SB31000235	South Pacific newsletter / Kagoshima University Research Center for the South Pacific	英文
SB30014344	Southern literary journal	英文
SB30014318	Southern literary journal. New series	英文
SB30007124	Southern review. N.S / Louisiana State University	英文
SB30008172	Speculum : a journal of mediaeval studies / Medieval Academy of America	英文
SB30006811	Der Spiegel	英文
SB30006839	Sprachpflege : Zeitschrift für gutes Deutsch	英文
SB30013214	Sprachpflege und Sprachkultur : Zeitschrift für gutes Deutsch	英文
SB30013570	Stanford journal of international law / Stanford University School of Law	英文
SB30008174	Stern	英文
SB30003311	Studia Anglistica / ストウディア・アングリスティカ編集部	和文
SB31000731	Studia culturae islamicae / Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia	英文
SB30000011	Studia humana et naturalia / 京都府立医科大学 [編]	和文
SB30013311	Studies in Browning and his circle : a journal of criticism, history, and bibliography	和文
SB30007116	Studies in English literature / English Literary Society of Japan	英文
SB30006817	Studies in English literature 1500-1900	英文
SB30006842	Studies in language	英文
SB30007117	Studies in philology : a quarterly journal / University of North Carolina	英文
SB30007118	Studies in romanticism / the Graduate School, Boston University	英文
SB30013169	Studies in second language acquisition	英文
SB30006843	Studies in the literary imagination	英文
SB30013569	System	英文
SB31002743	T・L・S, the Times literary supplement	英文
SB30011811	Tabard / 神戸女子大学英文学会 [編]	和文
SB31004314	Teacher education quarterly	英文
SB30013596	Teaching history	英文
SB30006850	Tel quel	英文
SB31000177	Télérama : la semaine radio télé	英文
SB30006851	Les temps modernes	英文
SB31003838	TESL Canada journal / TESL Canada Federation = Revue TESL du Canada / Fédération	英文
SB30013178	TESOL journal : a journal of teaching and classroom research	英文
SB30013177	TESOL matters	英文
SB30012955	TESOL quarterly : a journal for Teachers of English to Speakers of Other Languages /	英文
SB30013247	THE FILM ANALYST	英文
SB30013459	The Han-Kyoreh Shinmun	英文
SB30006065	Theater heute : die deutsche Theaterzeitschrift für Schauspiel, Oper, Ballett	英文
SB30013165	Third world quarterly / Third World Foundation	英文
SB30006068	Time : the weekly newsmagazine	英文
SB30007137	Time : the weekly newsmagazine	英文
SB30010670	The Times educational supplement	英文
SB31002089	The Times literary supplement	英文
SB30011848	Tokai review / 東海学園女子短期大学英文学科研究室	和文
SB30005384	Tomorrow / 大阪女子大学大学院英米文学研究会	和文
SB30011859	Touchstone : literature & linguistics / 関西学院大学英文科院生会	和文
SB30005289	Tsurumi review / 鶴見女子大学英語・英文学会 [編集]	和文
SB31001436	TV magazine : france soir	英文
SB31002975	UNdiplomatic times	英文
SB30006074	Universitas : Zeitschrift für Wissenschaft, Kunst und Literatur	英文
SB30012287	The University of Saga studies in English	和文
SB30013004	Vesta : 食文化のひろば / 味の素食の文化センター [編]	和文
SB30013629	Victorian poetry / West Virginia University	英文
SB30006083	Victorian studies : a quarterly journal of the humanities, arts, and sciences / Indiana	英文
SB30003231	Viewpoints / 神戸市外国語大学大学院文学研究会	和文
SB30006084	Visão	英文
SB30005290	Walpurais / 國學院大學外國語研究室 [編]	和文
SB31001023	Die Weissen Blätter. N.F. : eine Monatsschrift	英文
SB30006096	Die Weissen Blätter : eine Monatsschrift	英文
SB30006090	Die Weltbühne : Wochenschrift für Politik, Kunst, Wirtschaft	英文
SB31001625	Winter-Monate : für Freunde leichter Unterhaltung und froher Laune	英文
SB30006876	Wirkendes Wort : deutsches Sprachschaffen in Lehre und Leben	英文
SB30010333	World development / Society for the Promotion of International Law and Order	英文
SB30013171	World Englishes : WE : journal of English as an international and intranational language	英文
SB31003726	World language English	英文
SB30006882	World politics : a quarterly journal of international relations / Center of International	英文
SB30007146	The Yale review. New ser	英文
SB30006889	The Year's work in English studies	英文
SB30008366	Die Zeit : Wochenzeitung für Politik, Wirtschaft, Handel und Kultur	英文
SB30014343	Zeitschrift des Vereins für Volkskunde	英文
SB30006894	Zeitschrift für deutsche Philologie	英文
SB30010336	Zeitschrift für Volkskunde / Verband Deutscher Verein für Volkskunde	英文
SB30011793	Zephyr / 京都大学大学院英文学研究会	和文
SB30011593	Ζηνησια / アレーティア文学研究会	和文
SB30011580	藍	和文
SB30005595	愛知学院大学教養部紀要 / 愛知学院大学教養部	和文
SB30000013	愛知学院大学語研紀要 / 愛知学院大学語学研究所 [編]	和文
SB31000701	愛知学院大学大学院文学研究科文研会紀要 / 愛知学院大学大学院文学研究科文研会 [編]	和文
SB30011578	愛知教育大学大学院国語研究 / 愛知教育大学大学院国語教育専攻	和文
SB30000022	愛知県立大学文学部論集. 国文学科編 / 愛知県立大学文学部国文学科, 愛知県立女子短期大学	和文

SB30011603	愛知淑徳大学国語国文 / 愛知淑徳大学国文学会	和文
SB31002363	愛知女子短期大学国語国文 / 愛知女子短期大学国語国文学会 [編]	和文
SB30005450	愛知大學國文學 / 愛知大学国文学研究会	和文
SB30000033	愛知論叢 / 愛知大学大学院生協議会	和文
SB31004957	愛文 / 愛媛大学文理学部国語国文研究会	和文
SB31000388	青須我波良 / 帝塚山短期大学日本文藝研究室 [編集]	和文
SB30005292	青山語文 / 青山学院大学日本文学会 [編集]	和文
SB30001849	あげひばり / 橘女子大学英米文学会	和文
SB30013466	朝霞 = Zhao xia	和文
SB30001621	朝日アジアレビュー = The Asahi Asia review	和文
SB31003907	朝日総研リポートAIR21 : asahi inquiry & research	和文
SB30011456	旭川国文 / 北海道教育大学旭川分校国語国文学研究室	和文
SB30000045	アジア経済 / アジア経済研究所	和文
SB30003566	アジア経済旬報 / 中國研究所貿易委員会	和文
SB30001854	芦屋ゼミ / 芦屋ゼミ	和文
SB30001856	跡見学園国語科紀要 / 跡見学園国語科研究会 [編]	和文
SB30000052	跡見学園女子大学紀要 / 跡見学園女子大学 [編]	和文
SB30001857	跡見学園女子大学国文学科報 / 跡見学園女子大学国文学科 [編]	和文
SB31000066	跡見学園女子大学短期大学部紀要 / 跡見学園女子大学短期大学部 [編]	和文
SB31002423	跡見学園女子大学文学部紀要 / 跡見学園女子大学 [編]	和文
SB30000053	跡見学園短期大学紀要 / 跡見学園短期大学	和文
SB30013263	アフリカ研究 / 日本アフリカ学会 [編]	和文
SB30005694	アメリカ小説研究	和文
SB30001859	アメリカ文学研究 = American literature / 日本アメリカ文学会 [編]	和文
SB30003956	アルビオン / 京大英文學研究會	和文
SB30000056	池坊短期大学紀要 / 池坊短期大学 [編]	和文
SB31001235	イスパニア図書 / 京都セルバンテス懇話会編	和文
SB31000562	イスパニカ / 日本イスパニヤ語学会	和文
SB31006307	遺跡 / 遺跡発行会 [編]	和文
SB31008154	遺跡学研究 : 日本遺跡学会誌 / 日本遺跡学会 [編]	和文
SB30001864	茨城大学人文学部紀要. 人文学科論集 / 茨城大学人文学部 [編]	和文
SB30013390	茨女国文 / 茨城女子短期大学国語国文学懇話会 [編集]	和文
SB31009111	移民政策研究 = Migration policy review / 移民政策学会編	和文
SB30011599	いわき明星文学・語学 / いわき明星大学日本文学会 [編]	和文
SB31003650	岩手郷土文学の研究 / 岩手郷土文学研究会 [編集]	和文
SB30002108	均社論叢 / 均社	和文
SB31002707	インターカルチュラル : 日本国際文化学会年報 = Intercultural : annual review of the	和文
SB31003651	浮世草子研究 / 浮世草子研究会	和文
SB30011878	歌子 / 実践女子短期大学国文学科	和文
SB31000623	海燕 = XAIJAN	和文
SB30000069	英学 / 平安女学院短期大学英学会	和文
SB30003286	英學論考 / 東京学芸大学英語教育学科 [編]	和文
SB30005301	英語英文學研究 = Hiroshima studies in English language and literature / 広島大學英文學	和文
SB30004359	英語英文学研究紀要 / 東北学院大学 [編]	和文
SB30000070	英語英文學論集 = Kagoshima studies in English language and literature / 鹿児島大学英文	和文
SB30001472	英語英文學論叢 / 龍谷大学英語英文学研究会	和文
SB30001876	英語英文學論叢 / 日本大学大学院英語英文学研究会	和文
SB30001878	英語英米文学 / 中央大学英米文学会	和文
SB30000071	英語英米文学研究 / 龍谷大学大学院英語英米文学会 [編]	和文
SB30011608	英語英米文学論集 / 安田女子大学英語英米文学会	和文
SB30010698	英語教育 = The English teachers' magazine	和文
SB30003957	英語研究 = The study of English	和文
SB30001490	英語青年 : the rising generation	和文
SB30005715	英語青年 / 英語青年社	和文
SB30005302	英語と英米文学 / 山口大学文理学部英米文学研究室 [編] = English and English-American	和文
SB30011486	英語文化研究 / 獨協大学大学院外国語学研究科 [編]	和文
SB30001771	英語文学世界	和文
SB30005466	英語・英米文学論叢 / 別府大学英文学会	和文
SB30001891	英文学会会報 / 大谷大学英文学会 [編]	和文
SB30001880	英文學 : 研究と鑑賞 / 早稲田大學英文學會 [編]	和文
SB30001170	英文學研究 / 東京帝國大學英文學會	和文
SB30001881	英文學研究 / 東京帝國大學英文學會 [編]	和文
SB31004239	英文学研究. 支部統合号 = Studies in English. The regional branches combined issue / 日	和文
SB30001884	英文學思潮 / 青山學院大學英文學會編	和文
SB30001885	英文學試論 / 英文學試論會	和文
SB30005303	英文學と英語學 = English literature and language / 上智大学英文学科・英語学科	和文
SB30005304	英文學評論 / 京都大学教養部英語教室 [編]	和文
SB30001886	英文學論考 / 立正大學英文學會	和文
SB30005460	英文學論考 / 東洋大学工学部英語研究室	和文
SB30001887	英文學論集 / 関西大学英文学会 [編]	和文
SB30011609	英文學論集 / 佛教大学英文学科	和文
SB30001889	英文學論叢 / 日本大学英文学会	和文
SB30001890	英文學論叢 / 京都女子大学英文学会	和文
SB30001883	英文學誌 / 法政大学英文学会	和文
SB30011610	英米言語文化研究 = British & American language and culture / 大阪府立大学英米言語文化	和文
SB30001892	英米文学 / 関西学院大学英米文学会 [編集]	和文
SB30002696	英米文学 / 京都光華女子大学英米文学会 [編集] エイバイ プンガク	和文
SB30003958	英米文学 / 立教大学英文学会	和文
SB30011488	英米文学 / 戸板女子短期大学英米文学研究会	和文
SB30011611	英米文学 / 神戸山手女子短期大学英文学科	和文
SB30001895	英米文學 : 研究と鑑賞 / 浪速大学英米文学研究会 [編集]	和文
SB30005307	英米文学研究 / 梅光女学院大学英米文学会 [編] = Studies in English literature / by the	和文

SB30001896	英米文学評論 / 東京女子大学英米文学研究会	和文
SB30014041	英米文学研究年誌 / 金沢学院大学英米文学研究室 [編集]	和文
SB30001897	英米文学会誌 / 橘女子大学英米文学会	和文
SB31000084	エコソフィア : 自然と人間をつなぐもの = Ecosophia	和文
SB31004200	江戸文学 = The Edo bungaku	和文
SB30013005	エネルギー = Energy / 日本工業新聞社 [編]	和文
SB30013238	エネルギーフォーラム	和文
SB30013365	えぱんげりあ / 梅光女学院大学院文学研究科英米文学	和文
SB30001903	愛媛國文研究 / 愛媛國語國文学會	和文
SB30005308	愛媛大学法文学部論集. 文学科編 / 愛媛大学法文学部 [編]	和文
SB31004951	燕京學報. 新 / 燕京研究院 [編]	和文
SB30001910	演劇研究 / 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館 [編]	和文
SB30012411	追大英文学会論集 / 追手門学院大学英文学会 [編]	和文
SB30011613	王朝文学研究誌 / 大阪教育大学古典文学研究室 [編]	和文
SB30011617	大阪青山短大国文 / 大阪青山短期大学国文学会	和文
SB31003993	大阪大谷国文 / 大阪大谷大学日本語日本文学会 [編]	和文
SB31003996	大阪大谷大学英語英文学研究 / 大阪大谷大学英文学会 [編集]	和文
SB30001922	大阪学院大学外国語論集 / 大阪学院大学外国語学会	和文
SB30001924	大阪教育大学英文学会誌 / 大阪教育大学英語英文学教室	和文
SB30005311	大阪樟蔭女子大学英米文学会誌 / 大阪樟蔭女子大学英米文学会 [編]	和文
SB31002384	大阪樟蔭女子大学日本語研究センター報告 / 大阪樟蔭女子大学日本語研究センター = Reports	和文
SB30001672	大阪城南女子短期大学研究紀要 / 大阪城南女子短期大学	和文
SB30001672	大阪城南女子短期大学研究紀要 / 大阪城南女子短期大学	和文
SB30004362	大谷女子大学英語英文学研究 = Ohtani Women's College studies in English language and	和文
SB30000138	大谷女子大学紀要	和文
SB30001938	大谷女子大國文 / 大谷女子大学国文学会	和文
SB31000390	大谷大学短期大学部文化学科紀要 / 大谷大学短期大学部文化学科 [編集]	和文
SB30001942	大妻国文 / 大妻女子大学国文学会	和文
SB30011661	大妻女子大学紀要. 文系	和文
SB30011643	大妻女子大學大學院文學研究科論集 / 大妻女子大学大学院文学研究科 [編]	和文
SB30001943	大妻女子大学文学部紀要	和文
SB30001946	岡大國文論稿 / 岡山大学法文学部言語・国語・国文学研究室	和文
SB30000144	岡山商大論叢 / 岡山商科大学学会 [編]	和文
SB31004436	オスカー・ワイルド研究 = Oscar Wilde studies / 日本ワイルド協会 [編]	和文
SB31003403	尾道大学芸術文化学部紀要 = Bulletin of Onomichi University/Faculty of Artistic Culture	和文
SB30001956	帯広大谷短期大学紀要	和文
SB30014323	海外英語学論叢 : 英潮社語学年刊	英文
SB31002935	外语教学与研究	和文
SB30001961	外国文学研究 / 奈良女子大学文学部英語英米文学科	和文
SB30011450	外語研紀要 / 愛知大学外国語研究室運営委員会 [編集]	和文
SB30001963	解釈 : 国語・国文 / 解釈学会編集	和文
SB30010724	科學通報 / 中國科學院編印	和文
SB30001968	香川大学国文研究 / 香川大学国文学会	和文
SB30012896	学芸国語国文学 / 東京学芸大学国語国文学会 [編]	和文
SB31000630	学習と批判 = Xuexi yu piping / 上海学習と批判雑誌編輯部 [編]	和文
SB30001975	学習院大学国語国文学会誌 / 学習院大学文学部国語国文学会	和文
SB30003390	学習院大学上代文学研究 / 「学習院大学上代文学研究会」同人	和文
SB30011630	学習院大学人文科学論集 / 学習院大学大学院人文科学研究科 [編]	和文
SB30001978	學術研究. 外国語・外国文学編 / 早稲田大学教育学部	和文
SB30001980	學術研究. 国語・国文学編 / 早稲田大学教育学部 [編]	和文
SB30005318	学大國文 / 大阪学芸大学国語国文学研究室 [編]	和文
SB30011659	鹿大英文學 / 鹿児島大学法文学部英文研究室	和文
SB30011654	活水日文 / 活水女子短期大学日本文学会	和文
SB30003161	神奈川県立外語短期大学紀要. 語学篇 / 神奈川県立外語短期大学	和文
SB30011655	金沢大学国語国文 / 金沢大学国語国文学会 [編]	和文
SB31000386	河南論集 / 大阪藝術大学藝術学部文藝学科研究室 [編]	和文
SB31002369	かほよとり : 武庫川女子大学大学院雑誌 / 武庫川女子大学大学院文学研究科国語・国文学専	和文
SB30013975	上方藝能 / 上方落語をきく会 [編]	和文
SB30011472	川村短期大学研究紀要 / 川村短期大学 [編]	和文
SB31005960	汉语与汉语教学研究	和文
SB31001427	韓國現代小説理論資料集 / 韓國學振興院	和文
SB30010598	関西文学 / 関西文学の会 [編]	和文
SB30010769	漢字文化 / 漢字文化雑誌編輯部 [編集]	和文
SB31009331	甘肃統計年鑑 / 甘肅省統計局編	和文
SB30011600	岩大語文 / 「岩大語文」編集委員会 [編集]	和文
SB30011650	関東短期大学国語国文 / 関東短期大学国語国文学会	和文
SB30011651	上林曉研究 / 園田学園女子大学(吉村研究室) [編集]	和文
SB30000235	季刊英文学 / あぼろん社	和文
SB30013302	季刊考古学	和文
SB31000200	季刊戦争責任研究 / 日本の戦争責任資料センター [編] = The report on Japan's war	和文
SB30012500	季刊中国研究 / 中国研究所 [編集]	和文
SB30013394	季刊文化遺産 = The cultural heritage	和文
SB30003500	季刊民族学 / 国立民族学博物館監修	和文
SB30012729	戲劇報 : Xijubao / 《戲劇報》編輯委員会	和文
SB30011462	北九州大学国語国文学 / 北九州大学国語国文学会 [編集]	和文
SB31002724	きのくに国文 : 教育と研究 / 和歌山大学国文学会	和文
SB31001926	岐阜聖徳学園大学国語国文学 / 岐阜聖徳学園大学国語国文学会 [編]	和文
SB30003200	岐阜大学研究報告. 人文科学 / 岐阜大学学芸学部	和文
SB30002033	岐阜大学国語国文学 / 岐阜大学国語国文学会 [編]	和文
SB30002335	汲古 / 古典研究会 [編]	和文
SB30003184	九州大谷国文 / 九州大谷短期大学国語国文学会 [編集]	和文
SB30012604	九州国際大学論集. 教養研究 / 九州国際大学法経学会	和文

SB30000271	九州産業大学教養部紀要 / 九州産業大学教養部	和文
SB31000060	九州産業大学国際文化学部紀要 / 九州産業大学国際文化学部 [編]	和文
SB31002662	九州大学言語学論集 / 九州大学大学院人文科学研究院言語学研究室編	和文
SB30014066	九州帝京短期大学紀要 / 九州帝京短期大学 [編]	和文
SB30004956	九州龍谷短期大学紀要 / 九州龍谷学会	和文
SB30005614	九州龍谷短期大学国文学論集 / 九州龍谷短期大学国語・国文学会	和文
SB30010776	九十年代：月刊 = The nineties	和文
SB31002584	九大言語学研究室報告 / 九州大学文学部言語学研究室 [編]	和文
SB30000306	紀要 / 共立女子短期大学文科	和文
SB31004112	紀要. 言語・文学・文化 / 中央大学文学部	和文
SB30001866	紀要. 人文科学 / 茨城大学文学部	和文
SB30000279	紀要. 文学部 / 中央大学文学部	和文
SB30013777	鏡花研究 / 石川近代文学館	和文
SB30002084	京都教育大学国文学会誌 / 京都教育大学国文学会	和文
SB31000836	京都語文 / 佛教大学国語国文学会 [編集]	和文
SB31002372	京都大学国文学論叢 / 京都大学大学院文学研究科国語国文学研究室 [編]	和文
SB30010487	京都橘女子大学研究紀要	和文
SB31004111	京都橘大学研究紀要	和文
SB31004343	京都府立大学学術報告. 人文 / 京都府立大学 [編]	和文
SB31000327	京都府立大学学術報告. 人文・社会 / 京都府立大学 [編]	和文
SB30003507	共同研究 / 大阪教育大学国語学科(共同研究)運営委員会	和文
SB30014268	嚮導週報 = The Guide weekly / 嚮導週報社	和文
SB30000301	京都府立大学学術報告. 人文 / 京都府立大学	和文
SB30013456	教養研究 / 九州国際大学教養学会 [編]	和文
SB30002098	共立女子大学紀要 / 共立女子大学	和文
SB30011483	杏林大学外国語学部紀要 / 杏林大学外国語学部	和文
SB31005492	玉文化 / 日本玉文化研究会 [編]	和文
SB30003995	近畿大学工学部紀要. 人文・社会科学篇 / 近畿大学工学部	和文
SB31003316	近畿大学日本語・日本文学	和文
SB31000612	今古傳奇 / 《今古伝奇》叢刊編輯部編輯	和文
SB31003367	金城学院大学大学院文学研究科論集 / 金城学院大学大学院論集編集委員会 [編集]	和文
SB30001847	金城学院大学論集. 英米文学編 / 金城学院大学 [編]	和文
SB30002113	金城国文 / 金城学院大学国文学会 [編]	和文
SB31002323	金城日本語日本文化 / 金城学院大学日本語日本文化学会 [編]	和文
SB30002115	近世文藝 / 日本近世文藝會 [編]	和文
SB30002116	近世文芸研究と評論 / 早大文学部暉峻研究室 [編]	和文
SB31002413	近代文学研究 / 日本文学協会近代部会	和文
SB30002118	近代文学論集 / 日本近代文学会九州支部	和文
SB30010516	近代史研究	和文
SB30004345	釧路公立大学紀要. 人文・自然科学研究 / 釧路公立大学	和文
SB31003031	熊楠研究 / 南方熊楠資料研究会編	和文
SB31000780	熊本県立大学国文研究 / 熊本県立大学国文談話会 [編集]	和文
SB31006627	熊本古墳研究 / 熊本古墳研究会 [編]	和文
SB30004397	熊本大学英語英文学 / 熊本大学英文学会	和文
SB30002131	訓点語と訓点資料 / 訓点語学会編	和文
SB31003056	群馬県立女子大学英語英米文学研究	和文
SB30001853	群馬県立女子大学紀要. 英語英文学篇 / 群馬県立女子大学	和文
SB31000503	群馬県立女子大学紀要. 英語学英文学篇 / 群馬県立女子大学 [編]	和文
SB31000504	群馬県立女子大学紀要. 英文学英語学篇 / 群馬県立女子大学 [編]	和文
SB30005661	群馬県立女子大学紀要. 国語国文学篇 / 群馬県立女子大学	和文
SB30013354	群馬県立女子大学紀要. 国文学国語学篇	和文
SB30002132	群馬県立女子大学国文学研究 / 群馬県立女子大学国語国文学会	和文
SB30004399	慶應義塾大学日吉紀要. 英語英米文学 / [慶應義塾大学]日吉紀要刊行委員会	和文
SB30011728	藝術論集 / 大阪藝術大学藝術学部文藝学科研究室	和文
SB30013780	藝能文化史 / 芸能文化史研究会 [編]	和文
SB30000395	藝文研究 / 慶應義塾大学藝文学会 [編]	和文
SB30014283	劇本	和文
SB30002158	月刊言語 / 大修館書店 [編]	和文
SB30013239	月刊日本語	和文
SB30013716	月刊文化財発掘出土情報 / ジャパン通信社 [編]	和文
SB30004588	月刊文献ジャーナル / 富士短期大学出版部 [編]	和文
SB30001744	月刊みんぱく / 国立民族学博物館編集	和文
SB30014260	月月小説	和文
SB30001398	研究紀要 / 立正女子大学短期大学部	和文
SB30001998	研究紀要 / 華頂短期大学 [編]	和文
SB30013122	研究紀要 / 賢明女子学院短期大学 [編]	和文
SB31000721	研究紀要 / 志學館大学文学部 [編]	和文
SB30004407	研究紀要. 人文科学 / 京都市立西京高等学校	和文
SB31002031	研究と資料 / 研究と資料の会	和文
SB30001976	研究年報 / 学習院大学文学部	和文
SB31001561	研究年報 / 鹿児島県立短期大学地域研究所 [編集]	和文
SB30011756	研究報告集 / 国立国語研究所 [編]	和文
SB30002015	研究論集 / 関西外国語大学	和文
SB30002073	研究論叢 / 京都外国語大学 [編]	和文
SB31002562	言語科学論集 / 東北大学文学部言語科学専攻 [編]	和文
SB31006912	言語教育評価研究 = Assessment and evolution in language education / 桜美林大学・独	和文
SB30014212	言語研究 / 日本言語學會 [編]	和文
SB31000740	言語と文化 / 愛知大学語学教育研究室 [編]	和文
SB30002694	言語表現研究 / 兵庫教育大学言語表現学会 [編集]	和文
SB30002162	言語文化 / 一橋大学語学研究室	和文
SB30002163	言語文化研究 / 大阪大学言語文化部 [編] = Studies in language and culture / Faculty of	和文
SB30004008	言語文化研究 / 創価大学言語文化研究センター [編]	和文

SB30012605	言語文化研究 / 東京女子大学現代文化学部言語文化学科 [編]	和文
SB31000034	言語文化研究 : 中部大学女子短期大学紀要 = Journal of language and culture / 中部大学	和文
SB31002029	源氏研究 : Genji kenkyu	和文
SB30014254	現代 = Les contemporains	和文
SB31005552	現代アメリカデータ総覧 / 合衆国商務省センサス局編	和文
SB30010639	現代英語教育 / 研究社 [編]	和文
SB30004414	現代英語文学研究 / 現代英語文学研究会	和文
SB31002583	現代日本語研究 / 大阪大学文学部日本学科現代日本語講座	和文
SB30002169	現代のエスプリ	和文
SB30002170	現代のエスプリ. 別冊 / 至文堂	和文
SB31000725	建築設計資料 = Data file of architectural design & detail / 建築思潮研究所 [編集]	和文
SB30012961	建築文化 = The architectural culture / 彰国社	和文
SB31003470	原爆文学研究 / 原爆文学研究会 [編集] = Journal of genbaku literature / Society of	和文
SB30011731	言文だより = Newsletter / 大阪大学言語文化部視聴覚教育委員会	和文
SB30013300	光華女子大学研究紀要. 日本文学科篇	和文
SB30012813	光華日本文学 / 光華女子大学日本文学会 [編]	和文
SB30013465	紅旗 / 紅旗杂志編輯委員会	和文
SB31004977	工藝	和文
SB30010528	考古学集刊	和文
SB30012989	広告批評	和文
SB31003735	洪水	和文
SB31009330	江西統計年鑑	和文
SB30014241	抗戦	和文
SB30014281	抗戦文藝 : 中華全國文藝界抗敵協會會報 / 中華全國文藝界抗敵協會抗戦文藝編輯委員會編輯	和文
SB30011569	抗戦文藝研究 / 社会科学研究丛刊編輯部編	和文
SB30002193	高知大國文 / 高知大学国語国文学会 [編]	和文
SB30011729	甲南英文学 / 甲南英文学会	和文
SB30002194	甲南国文 / 甲南女子短期大学国語国文学会	和文
SB30002195	甲南女子大学英文学研究 / 甲南女子大学英文学会	和文
SB30011478	甲南女子大学大学院英文学論集 / 甲南女子大学大学院英文学研究会	和文
SB30000462	甲南大学紀要. 文学編 / 甲南大学 [編]	和文
SB30011484	神戸英米論叢 / 神戸英米学会	和文
SB30000472	神戸女子大学紀要 = Bulletin of Kōbe Women's College / 神戸女子大学学会 [編集]	和文
SB30002204	神戸女子薬科大学人文研究 / 神戸女子薬科大学教養課程研究室	和文
SB30013121	神戸親和女子大学英語英文学 : Kobe Shinwa Joshi Daigaku eigo eibungaku	和文
SB30012846	神戸親和女子大学研究論叢	和文
SB30002205	神戸山手女子短期大学紀要	和文
SB30010779	光明日報	和文
SB30014277	光明	和文
SB30002206	高野山大学国語国文 / 高野山大学国文学会 [編集]	和文
SB31000509	高麗日報	和文
SB30002207	語学と文学 / 群馬大学語文学会	和文
SB30012893	語学と文学 / 九州女子大学国語国文学会	和文
SB30002208	語学文学 / 北海道教育大学語文学会	和文
SB30002212	國學院大學大学院文学研究科論集 / 國學院大學大学院文学研究科	和文
SB30000486	國學院大學日本文化研究所紀要	和文
SB30011734	国語教育論叢 / 島根大学教育学部国文学会	和文
SB30002217	國語國文 / 京都帝国大學國文學會	和文
SB30002221	国語国文学報 / 愛知学芸大学国語国文学会	和文
SB30002222	国語国文研究 / 北海道大学国文学会 [編]	和文
SB30011469	国語国文研究と教育 / 熊本大学教育学部国文学会 [編集]	和文
SB30004435	国語国文薩摩路 / 鹿児島大学文理学部国文研究室 [編]	和文
SB30002224	国語国文論集 / 学習院女子短期大学国語国文学会	和文
SB30002225	国語国文論集 / 安田女子大学日本文学科 [編集]	和文
SB30002219	国語国文学 / 福井大学国語国文学会 [編集]	和文
SB30011736	国語国文学 / 目白学園女子短期大学国語国文科研究室 [編]	和文
SB31003314	国語国文学研究 / 熊本大学法文学部国語国文学会	和文
SB30005695	国語と教育 / 大阪学芸大学国語国文学研究室	和文
SB31003241	国語と教育 / 長崎大学国語国文学会	和文
SB30002226	國語と國文學 / 東京大学国語国文学会	和文
SB30002227	国語の研究 / 大分大学国語国文学会 [編]	和文
SB30011735	国語フォーラム / 教育システム開発センター編	和文
SB30002213	國語學 / 國語學會編	和文
SB30002214	国語学研究 / 東北大学文学部『国語学研究』刊行会 [編]	和文
SB30002215	国語学研究と資料	和文
SB30013240	国際開発ジャーナル = International development journal / 国際開発ジャーナル社	和文
SB30010480	国際協力 / 国際協力事業団 [編]	和文
SB30011732	国際児童文学館紀要 / 大阪国際児童文学館 [編]	和文
SB30000497	国際政治 / 日本国際政治学会編	和文
SB30003392	国際日本文学研究集會會議録 = Proceedings of the International Conference on	和文
SB30000507	国士館短期大学紀要	和文
SB30002236	国文 / お茶の水女子大学国語国文学会	和文
SB31002694	国文 : 研究と教育 / 奈良教育大学国文学会	和文
SB30012884	国文学報 / 尾道短期大学国文学会 [編]	和文
SB30002246	国文白百合 / 白百合女子大学 [編]	和文
SB30002247	国文橘 / 橘女子大学国文学会	和文
SB30002248	国文鶴見 / 鶴見女子大学日本文学会編	和文
SB30002249	国文目白 / 日本女子大学国語国文学会	和文
SB30002250	国文論叢 / 神戸大学文学部国語国文学会	和文
SB30000511	國文學 / 関西大学國文學會	和文
SB30000510	國文學 : 解釈と教材の研究 / 學燈社 [編]	和文
SB30003157	國文學解釋と鑑賞	和文

SB31001205	国文学解釈と鑑賞. 別冊, 芥川龍之介	和文
SB31002886	国文学解釈と鑑賞. 別冊, 石坂洋次郎: 映画と旅とふるさと	和文
SB31001003	国文学解釈と鑑賞. 別冊, 井上ひさしの宇宙	和文
SB31002880	国文学解釈と鑑賞. 別冊, 江戸川柳を読む / 江戸川柳研究会編	和文
SB30011464	国文学解釈と鑑賞. 別冊, 近代名作のふるさと	和文
SB31001005	国文学解釈と鑑賞. 別冊, 源氏物語の鑑賞と基礎知識	和文
SB31002889	国文学解釈と鑑賞. 別冊, 坂口安吾事典[作品編]	和文
SB31002888	国文学解釈と鑑賞. 別冊, 坂口安吾事典[事項編]	和文
SB31002887	国文学解釈と鑑賞. 別冊, 司馬遼太郎の世界	和文
SB31001405	国文学解釈と鑑賞. 別冊, 立原道造	和文
SB30011468	国文学解釈と鑑賞. 別冊, 平安時代の文学と生活	和文
SB31001004	国文学解釈と鑑賞. 別冊, 山本周五郎	和文
SB30002237	國文學研究 / 早稲田大學國文學會編	和文
SB30002238	国文学研究 / 梅光女学院短期大学国語国文学会	和文
SB30002239	国文学研究資料館紀要 / 国文学研究資料館 [編集]	和文
SB30003511	国文学研究資料館講演集 / 国文学研究資料館参考室 [編集]	和文
SB30002241	国文学研究ノート / 神戸大学「研究ノート」の会 [編]	和文
SB30002161	国文学言語と文芸	和文
SB30002243	国文学試論 / 大正大学大学院文学研究科	和文
SB30005669	國文學踏査 / 大正大學郊北文學會	和文
SB30002244	国文学論考 / 都留文科大学国文学会	和文
SB30011738	國文學論輯 / 国士館大学国文学会	和文
SB30002242	国文學放 / 広島文理科大学国語国文学会	和文
SB30003375	国立国語研究所年報 / 国立国語研究所	和文
SB30012596	國立中央研究院歷史語言研究所集刊	和文
SB30000516	国立民族学博物館研究報告 / 国立民族学博物館	和文
SB30014009	国立民族学博物館研究報告. 別冊 / 国立民族学博物館 [編]	和文
SB30011161	国立民族学博物館友の会ニュース / 民族学振興会千里事務局 [編]	和文
SB31002936	語言科学 = Linguistic sciences	和文
SB31002693	語言暨語言學 / 中央研究院語言學研究所(籌備處) [編] = Language and linguistics / Institute	和文
SB31000962	語言教学与研究	和文
SB31006142	語言研究集刊 / 复旦大学中国文学語言研究所編	和文
SB31001733	語言文字应用 = Applied linguistics	和文
SB30014247	古建園林技術 / 北京:古建園林技術期刊編集部	和文
SB31000618	語言學論叢 / 北京大学中国語言文学系編	和文
SB30014245	語絲	和文
SB30010703	古事記年報 / 古事記学会 [編]	和文
SB30002258	古代研究 / 早稲田古代研究会	和文
SB30002259	古代中世国文学 / 広島平安文学研究会	和文
SB30003393	古代文学研究 / 古代文学研究会	和文
SB30011697	古代文学研究. 第二次 / 古代文学研究会 [編集]	和文
SB30010925	古代文学理論研究 / 中国古代文学理論学会編	和文
SB30011745	古典研究 / ノートルダム清心女子大学国文学科	和文
SB30002266	古典論叢 / 古典論叢会	和文
SB30003513	ことば: 女性による研究誌 / 現代日本語研究会 [編]	和文
SB31004162	子どもと昔話 = A quarterly children and folktale : 子どもと昔話を愛する人たちの季刊誌	和文
SB30002267	語文 / 大阪大学文学部国文学研究室	和文
SB30002268	語文 / 日本大学国文学会	和文
SB31000602	語文学習 / 上海師範大学語文学習叢刊編輯組 [編]	和文
SB31001731	語文学習	和文
SB31000603	語文学習小学版 = yuwen xuexi / 語文学習双刊小学版編輯組 [編輯]	和文
SB31001730	語文教学与研究 / 华中师范大学主办	和文
SB30005344	語文研究 / 九州大学国語国文学会	和文
SB31000604	語文現代化 = Yuwen xian daihua	和文
SB31001729	語文世界 / 中国語文報刊協会	和文
SB31001735	語文知識 = Yuwen zhishi / 鄭州市大学路鄭州大学	和文
SB30014237	語文知識: 通俗的語文刊物 = Ywen zhsh / 上海新文字工作者協會編輯	和文
SB30013369	語文と教育 / 鳴門教育大学国語教育学会	和文
SB30002270	語文論叢 / 千葉大学人文学部国語国文学会 [編]	和文
SB30014209	語文論叢 / 上海市語文学会	和文
SB31002370	駒木原国文 / 江戸川女子短期大学国文学研修会 [編集]	和文
SB30002271	駒澤國文 / 駒沢大学国文学会	和文
SB30010094	駒澤大學北海道教養部研究紀要 / 駒澤大學北海道教養部 [編]	和文
SB30002282	駒沢短大国文 / 駒沢短期大学国文科研究室	和文
SB31001725	駒澤法學 / 駒澤大学法学部 [編]	和文
SB31002576	語用論研究 / 日本語用論学会 [編]	和文
SB31006822	西行学: 越境する西行、脱領域する西行を「西行学」の名の下に再構築する = Journal of	和文
SB30002290	埼玉大学紀要. 外国語学文学篇 / 埼玉大学	和文
SB30005429	堺女子短期大学紀要	和文
SB30002295	佐賀大國文 / 佐賀大学教育学部国語国文学会	和文
SB30002296	相模國文 / 相模女子大学国文研究会	和文
SB30004095	札幌学院大学人文学部紀要 / 札幌学院大学人文学部学会	和文
SB30005539	札幌学院大学人文学会紀要 / 札幌学院大学人文学会	和文
SB30007545	左聯期資料	和文
SB31000605	山茶: 文芸叢刊 / 雲南人民出版社編輯	和文
SB31002387	山陽女子短期大学研究紀要 = Bulletin of the Sanyo Women's College	和文
SB31004325	ジェイン・オースティン研究 = The journal of the Jane Austen Society of Japan / 日本	和文
SB30005349	滋賀英文學會論集	和文
SB30000570	史學雜誌	和文
SB30011759	志学台英文学論叢 / 志学台英文学研究会	和文
SB31000933	志学台レビュー / 大谷女子大学大学院英文学研究会 [編集]	和文
SB30002326	滋賀大國文 / 滋賀大國文会	和文

SB31000619	詩刊 / 詩刊社	和文
SB30004236	四国学院大学論集	和文
SB31004319	四国学院大学論集 / 四国学院大学文化学会 [編]	和文
SB31002264	四国学院論集 / 四国学院文化学会 [編]	和文
SB30004437	時事英語研究 / 研究社出版	和文
SB31000627	字詞天地	和文
SB31000611	辞書研究 = Cishu yanjiu	和文
SB31009333	四川統計年鑑	和文
SB30002342	實踐英文學 / 実践女子大学内実践英文学会	和文
SB30002343	實踐國文學 / 実践国文学会	和文
SB30002362	島大國文 / 島大國文会	和文
SB31005491	島根考古学会誌 / 島根考古学会	和文
SB30011764	島根国語国文 / 島根県立島根女子短期大学国語国文会 [編]	和文
SB30002363	島根大学論集. 人文科学 / 島根大学	和文
SB30010614	社会科学战线	和文
SB31000048	社会文学 / 日本社会文学会	和文
SB30014274	上海故事 / 上海故事編輯部	和文
SB30012811	秋櫻: cosmos	和文
SB31000626	收穫	和文
SB31001101	十月 / 北京出版社	和文
SB30003142	就実英学論集 / 就実女子大学英文学会 [編]	和文
SB30002381	就實語文 / 就実女子大学日本文学会 [編]	和文
SB30014263	繡像小説	和文
SB31002390	十文字国文 / 十文字学園女子短期大学国語国文学会 [編集]	和文
SB30011750	淑徳国文 / 愛知淑徳短期大学国文学会刊行	和文
SB30000661	ジュリスト	和文
SB30002384	主流 / 同志社大学英文学会 [編]	和文
SB30011787	純心英米文化研究 / 純心女子短期大学英米文化科 [編]	和文
SB30014073	シュンボシオン / 近畿大学日本語・日本文学会編	和文
SB30011791	上越教育大学国語研究 / 上越教育大学国語教育学会	和文
SB31000615	小学数学教師 = Xiao xue shu xue jiao shi / 上海教育出版社 [編]	和文
SB31000616	小説月報	和文
SB30007590	小説選刊 / 人民文学雜誌社編輯	和文
SB30014262	小説林	和文
SB30002389	上代文學 / 上代文學会	和文
SB30002391	上智英語文学研究 = Sophia English studies / the English Literary Society of Sophia	和文
SB30011786	上智近代文学研究 / 上智大学日本近代文学会 [編集]	和文
SB30011452	上智大学国文学科紀要 / 上智大学国文学科	和文
SB30002393	上智大学国文学論集 / 上智大学国文学会 [編]	和文
SB31000733	象徴図像研究	和文
SB30002096	聖徳学園岐阜教育大学国語国文学 / 聖徳学園岐阜教育大学国語国文学会	和文
SB30004110	城南国文 / 大阪城南女子短期大学国語国文学会 [編]	和文
SB30002397	湘南史学 / 東海大学大学院日本史学友会	和文
SB30002398	湘南文学 / 東海大学日本文学研究会 [編]	和文
SB30005357	昭和学院国語国文 / 昭和学院短期大学国語国文学会	和文
SB30011467	昭和女子大学大学院日本文学紀要 / 昭和女子大学 [編]	和文
SB31000982	昭和文学研究 / 昭和文学研究会	和文
SB30013001	食の科学	和文
SB30013234	食生活研究 / 食生活研究会 [編]	和文
SB30003384	女子聖学院短期大学英文学会会誌	和文
SB31002446	書誌學月報	和文
SB31002447	書誌學月報. 別冊	和文
SB30002405	女子大國文 / 京都女子大学国文学会	和文
SB31000743	女子大文学. 英語学英米文学篇 / 大阪女子大学人文学科英語英米文学専攻 [編]	和文
SB30002407	女子大文学. 外國文學篇 / 大阪女子大学文学会 [編]	和文
SB30002408	女子大文学. 國文篇: 大阪女子大學紀要	和文
SB30013303	女性学: 日本女性学会会誌 = Journal of Women's Studies Association of Japan / 日本女	和文
SB30002410	叙説 / 奈良女子大学国語国文学研究室 [編]	和文
SB30002411	書陵部紀要 / 宮内庁書陵部	和文
SB30002414	白百合女子大學研究紀要	和文
SB31002312	資料と研究 / 山梨県立文学館 [編集]	和文
SB30003325	シルクロード	和文
SB30002420	試論 / 東北大学「試論」同人会 [編]	和文
SB30002421	試論 / 駒沢大学大学院英文学研究会	和文
SB30014267	新小説	和文
SB31003737	新消息	和文
SB31001197	新眞婦人	和文
SB30013402	新文學研究	和文
SB30013149	新華半月刊 / 新華半月刊社 [編輯]	和文
SB30002428	新建築 / 新建築社 [編]	和文
SB30013264	新建築. 住宅特集 = The Japan architect	和文
SB31000629	新时代	和文
SB30005361	新樹 / 梅光女学院大学院文学研究科日本文学	和文
SB30011763	神女大國文 / 神戸女子大学国文学会編	和文
SB30014261	新新小説	和文
SB30014259	新青年 = La Jeunesse / 新青年雜誌社	和文
SB30014270	新潮雜誌: 景印本新潮 / 東方文化書局	和文
SB31001734	人物と思想	和文
SB30011001	人文科学データベース研究 / 人文科学データベース刊行会編	和文
SB30002449	人文科学科紀要. 國文學・漢文學 / 東京大学教養学部	和文
SB30000720	人文学報 / 東京都立大学人文学会編集	和文
SB30004867	人文研究 / 大阪市立大學文學會 [編]	和文

SB31006069	人文叢刊 / 北京外国语大学国际交流学院編	和文
SB31009124	人文中國學報 = Sino-humanitas / 人民中國學報編輯委員會編	和文
SB30002457	人文論集 / 神戸商科大学経済研究所 [編]	和文
SB31006240	人文論叢	和文
SB31004859	新文学史料 / 人民文学出版社《新文学史料》編輯組 [編]	和文
SB30002456	人文学論集 / 佛教大学文学部学会	和文
SB31000609	新文学論叢 / 人民文学出版社《新文学論叢》編輯組 [編]	和文
SB30012725	人民戏剧 = Renmin xiju	和文
SB30007822	人民日報 = Renmin ribao	和文
SB31002891	人民日報 = Renmin ribao	和文
SB30010778	人民文學	和文
SB31000617	人民文學 / 中華全國文學工作者協會、人民文學編輯委員會編輯	和文
SB30002467	親和國文 / 親和女子大学国語国文学会 [編]	和文
SB30002468	親和女子大学英語英文学	和文
SB30002469	親和女子大学研究論叢	和文
SB30010772	隨筆	和文
SB30011438	椋山國文學 / 椋山女学園大学国文学会	和文
SB30005362	鈴峯女子短期大学人文社会科学研究集報 = Bulletin of the Suzugamine Women's College.	和文
SB31003740	鈴屋学会報 / 鈴屋学会	和文
SB31006068	スペイン学 / 京都セルバンテス懇話会編	和文
SB30012090	駿河台英文学 / 明治大学大学院英文研究室 [編]	和文
SB30011920	清華學報 = Tsing Hua journal of Chinese studies. New series	和文
SB30002479	成蹊國文 / 成蹊大学文学部日本文学科 [編]	和文
SB30011785	成城英文学 / 成城英文学同人	和文
SB30005363	成城国文 / 成城大学大学院国文科院生会	和文
SB30011454	成城国文学 / 成城国文学会編集	和文
SB30002482	成城文藝 / 成城大学文藝学部 [編集]	和文
SB31000397	聖心女子大学大学院論集 / 聖心女子大学 [編集]	和文
SB30000761	清泉女子大学紀要	和文
SB30002485	清泉女子大学人文科学研究所紀要 / 清泉女子大学人文科学研究所	和文
SB30002486	西南アジア研究 / 西南アジア研究会 [編]	和文
SB30005712	青年 / 英語青年社	和文
SB30005714	青年 / 英語青年社	和文
SB30014258	青年雑誌 = La Jeunesse / 青年雑誌社	和文
SB31000838	星美学園短期大学研究論叢 / 星美学園短期大学	和文
SB31000628	西北嚮導 / 西北嚮導社	和文
SB31005096	西洋中世研究 = Medieval European studies / 西洋中世学会 [編]	和文
SB30011485	聖隷学園聖泉短期大学人文・社会科学論集 / 聖泉人文・社会学会	和文
SB30000779	聖和 / 聖和学園短期大学	和文
SB30013305	聖和学園短期大学紀要 / 聖和学園短期大学 [編]	和文
SB31001732	世界漢語教学 = Chinese teaching in the world / 世界漢語教学学会《世界漢語教学》編輯部	和文
SB30014219	世界之日本	和文
SB30013265	世界の日本語教育. 日本語教育論集 / 国際交流基金日本語国際センター編	和文
SB30002494	説林 / 愛知県立女子大学 [編]	和文
SB30010705	説話文学研究 / 説話文学会 [編]	和文
SB31001196	全関西婦人聯合會	和文
SB30002500	専修語学ラボラトリー論集 / 専修大学LL研究室	和文
SB30002501	専修国文 / 専修大学国語国文学会 [編]	和文
SB30014070	専修大学外国語教育論集 / 専修大学LL研究室	和文
SB30014266	淺草：文藝季刊 / 淺草社 [編輯]	和文
SB30000802	千里山文学論集 / 関西大学大学院文学研究科院生協議会 [編集]	和文
SB31003741	川柳学 / 川柳学会 [編]	和文
SB30011463	相愛国文 / 相愛女子短期大学国文学研究室	和文
SB30005008	相愛大学研究論集	和文
SB30004129	総合文化研究所紀要 = Bulletin of Institute for Interdisciplinary Studies of Culture, Doshisha	和文
SB31000046	漱石研究	和文
SB31003732	創造 = La kreo / 創造社編輯	和文
SB30014278	創造：文藝季刊 / 創造社 [編]	和文
SB31003736	創造月刊	和文
SB31003733	創造週報	和文
SB31002368	創造と思考 / 湘南短期大学国語国文学会 [編]	和文
SB31003734	創造日	和文
SB31002535	争鳴	和文
SB31000621	外国文学季刊 / 外国文学出版社編輯	和文
SB31004027	ソトコト : sotokoto : 地球と人をながもちさせるエコ・マガジン	和文
SB30011457	園田語文 / 園田学園国文懇話会 [編集]	和文
SB31002539	そのだ語文 / 園田学園日本語日本文学懇話会 [編]	和文
SB30011818	大学英語教育学会紀要 / 大学英語教育学会	和文
SB30007603	大学生	和文
SB30012951	大正大學研究紀要. 佛教學部・文學部 / 大正大學出版部	和文
SB30002524	大東文化大学漢学会誌 / 大東文化大学漢学会	和文
SB31002571	第二言語としての日本語の習得研究 = Acquisition of Japanese as a second language /	和文
SB30014240	太白	和文
SB31006386	臺灣語文研究 / 臺灣語文學會主編 = Journal of Taiwanese languages and literature /	和文
SB30011779	高岡市万葉歴史館紀要 / 高岡市万葉歴史館	和文
SB30011453	滝川国文 / 國學院女子短期大学国文学会 [編]	和文
SB30011816	滝川文藝 / 國學院女子短期大学国語国文学会 [編集]	和文
SB31000355	太宰治研究	和文
SB31002367	太宰府国文 / 福岡女子短期大学国語国文学会 [編集]	和文
SB31001896	玉藻 / フェリス女学院大学国文学会	和文
SB30013077	短大論叢 / 関東学院短期大学 [編]	和文
SB31004246	地域研究 : JCAS review	和文

SB31006440	地域研究論集：JCAS review	和文
SB30011419	近松研究所紀要 / 園田学園女子大学近松研究所	和文
SB30013778	近松論集 / 近松の会	和文
SB31000835	筑紫國文 / 筑紫女学園短期大学国文科	和文
SB31002784	筑紫語文 / 筑紫女学園大学日本語日本文学科 [編]	和文
SB31003329	千葉大学日本文化論叢 / 千葉大学文学部日本文化学会 [編]	和文
SB30001986	中央大學國文 / 中央大學國文學會	和文
SB31000606	中華醫學雜誌	和文
SB30011391	中華文史論叢	和文
SB30002547	中京英文学 / 中京大学文学部英文学研究会 [編]	和文
SB30001988	中京國文學 / 中京大学国文学会	和文
SB31001761	中帰連：戦争の真実を語り継ぐ	和文
SB30010712	中古文学 / 中古文学会 [編集]	和文
SB30001658	中国 / 中国の会	和文
SB30012727	中国科学	和文
SB30011574	中国科学. A輯, 数学・物理学・天文学・技術科学 = Scientia sinica / 中国科学院主办	和文
SB30011575	中国科学. B輯, 化学・生物学・農学・医学・地学 = Scientia sinica / 中国科学院主办	和文
SB31000974	中国科学. B輯, 化学・生命科学・地学 / 中国科学院主办	和文
SB31001721	中國學術 = China scholarship	和文
SB31005842	中国関係論説資料. [第2分冊] / 中国関係論説資料保存会 [編]	和文
SB30011573	中国戲劇 = Chinese theatre / 《中国戲劇》編輯委員會 [編集]	和文
SB30000866	中国研究月報 / 中国研究所 [編]	和文
SB30011459	中国研究集刊 / 大阪大学文学部中国哲学研究室編輯	和文
SB30000867	中國研究所所報	和文
SB30011394	中國現代文学研究叢刊	和文
SB31006070	中国交通年鑑	和文
SB31006143	中国語音学報 / 《中国語音学報》編委会編	和文
SB30014232	中國語學 / 中国語学研究会	和文
SB31000613	中国語言学報 / 《中国語言学報》編委会編	和文
SB30011866	中国古典研究 / 早稲田大学中国古典研究会	和文
SB30010771	中國語文	和文
SB30007619	中国語文通訊 / 中国語文通訊編輯部 [編輯]	和文
SB31004437	中国四国英文学研究 / 日本英文学会中国四国支部 [編]	和文
SB30010707	中国思想史研究 / 京都大学中国哲学史研究室 [編]	和文
SB31004972	中国出版年鑑	和文
SB30001475	中國資料月報 / 中國研究所調査部 [編]	和文
SB31004971	中国电影年鑑	和文
SB31008155	中国图书馆年鑑 / 《中国图书馆年鑑》編委会編	和文
SB30014248	中国農村(影印)(中国資料叢書10) / 中国農村經濟研究所編 東京:大安	和文
SB31008962	中国煤炭工業年鑑 / 煤炭工業部中国煤炭工業年鑑编审委员会編	和文
SB31004068	中國婦女	和文
SB30002553	中國文學 / 中國文學研究会 [編]	和文
SB30003204	中國文學月報 / 中國文學研究会	和文
SB31008472	中国文史論叢 / 中国文史研究会	和文
SB30007605	中国老年	和文
SB31005488	中国語研究	和文
SB31009192	中国語文法研究 = Journal of Chinese grammar / 中国語文法研究会編集	和文
SB30012583	中國語學 / 中國語學研究会	和文
SB30010708	中世文學	和文
SB30002555	中世文学研究 / 中四国中世文学研究会 [編]	和文
SB30005368	中世文学論叢 / 東京学芸大学中世文学研究会	和文
SB30002556	中世文藝 / 広島中世文芸研究会	和文
SB30000871	中世文藝論稿 / 龍谷大學中世文藝談話会 [編]	和文
SB31000599	中南米音楽 / 中南米音楽研究会 [編]	和文
SB30003397	調査研究報告 / 国文学研究資料館文献資料部 [編]	和文
SB30002561	朝鮮學術通報 / 在日本朝鮮人科学者協会	和文
SB30002562	朝鮮学報 / 朝鮮學會 [編集]	和文
SB31002582	筑波応用言語学研究 / 筑波大学大学院博士課程文芸・言語研究科応用言語学コース [編]	和文
SB30012490	筑波大学平家部会論集 / 筑波大学平家部会	和文
SB31002572	筑波大学留学生センター日本語教育論集	和文
SB31002364	筑波日本語研究 / 筑波大学文芸・言語研究科日本語学研究室 [編]	和文
SB31003580	辻馬車	和文
SB31000039	都留文科大学大学院紀要 / 都留文科大学大学院 [編]	和文
SB31003253	鶴見英語英米文学研究 / 鶴見大学大学院英米文学専攻 [編]	和文
SB30002567	鶴見大学紀要. [第1部], 国語国文学篇 / 鶴見大学	和文
SB31004088	鶴見大学紀要. 第1部, 日本語・日本文学編 / 鶴見大学	和文
SB30002568	鶴見大学紀要. 第2部, 外国語・外国文学編 / 鶴見大学	和文
SB30013880	テアトロ：綜合演劇雑誌	和文
SB30014145	帝京国文学 / 帝京大学国語国文学会 [編集]	和文
SB31000781	帝京大学福岡短期大学紀要 / 帝京大学福岡短期大学 [編]	和文
SB31004010	帝京日本文化論集 / 帝京大学日本文化学会 [編集]	和文
SB30002577	テオリア / 法政大学大学院英友会 [編]	和文
SB31002402	ておりあ / 法政大学大学院英友会 [編]	和文
SB30000895	帝塚山學院大学研究論集	和文
SB31002007	帝塚山學院大学研究論集. 文学部	和文
SB30002594	帝塚山學院大学日本文学研究 / 帝塚山學院大学日本文学会 [編]	和文
SB30001932	帝塚山學院短期大学研究年報 / 帝塚山學院短期大学 [編]	和文
SB31004103	テレビでスペイン語	和文
SB31006072	唐研究 = Journal of Tang studies	和文
SB30013232	東欧史研究 / 東欧史研究会 [編]	和文
SB30011855	東海英米文学 = Tokai English review / 東海英米文学会	和文
SB30002609	東海学園国語国文 / 東海学園女子短期大学国語国文学会 [編集]	和文

SB30005376	東京学芸大学紀要. 第2部門, 人文科学	和文
SB30000918	東京經大學會誌 / 東京經濟大學研究室	和文
SB31002425	東京經大学会誌. 経営学 / 東京經濟大学経営学会 [編集]	和文
SB31002424	東京經大学会誌. 経済学 / 東京經濟大学経済学会 [編集]	和文
SB30002624	東京女子大学紀要論集 / 東京女子大学 [編]	和文
SB31000502	東京女子大学言語文化研究 / 東京女子大学言語文化研究会 [編]	和文
SB31000392	東京成徳国文 / 東京成徳短期大学国語国文学会	和文
SB31002577	東京大学言語学論集 / 東京大学文学部言語学研究室 = Tokyo University linguistics papers	和文
SB30004988	東西交渉	和文
SB30005378	同志社外国文学研究 / 同志社大学外国文学会 [編]	和文
SB30002636	同志社国文学 / 同志社大学国文学会	和文
SB30002637	同志社女子大学學術研究年報	和文
SB30003496	同志社女子大学総合文化研究所報告 / [同志社女子大学]総合文化研究所 = / Institute for	和文
SB30012414	同志社女子大学日本語日本文学 / 同志社女子大学日本語日本文学会	和文
SB30002638	同志社大学英語英文学研究 / 同志社大学人文学会 [編]	和文
SB30007607	当代: 文学季刊 / 人民文学出版社 [編輯]	和文
SB31004026	当代语言学 = Contemporary linguistics	英文
SB30000946	東南アジア: 歴史と文化 / 東南アジア史学会 [編] = Southeast Asia: history and culture /	和文
SB30002644	東南アジア研究 / 京都大学東南アジア研究センター [編]	和文
SB30002649	同朋国文 / [同朋大学]国文学研究会 [編]	和文
SB31005088	东方语言学 = Eastling / 《东方语言学》編委会, 上海高校比较语言学E-研究院 [編]	和文
SB31000255	同朋文学 / 同朋大学日本文学会 [編集]	和文
SB30002656	東北 / 東北学院大学大学院英語英文学研究科	和文
SB30011863	東北大学文学部日本語学科論集: 言語学・国語学・日本語教育学 / 東北大学文学部日本語学	和文
SB30013414	東北文学の世界 / 盛岡大学文学部日本文学科	和文
SB30000973	東洋大学短期大学紀要 / 東洋大学短期大学 [編]	和文
SB30002683	東洋大学短期大学論集. 日本文学篇 / 東洋大学短期大学 [編集]	和文
SB30000983	東横国文学 / 東横学園女子短期大学国文学会 [編]	和文
SB30011858	徳島大学国語国文学 / 徳島大学国語国文学会 [編集]	和文
SB30011481	徳島文理大学比較文化研究所年報	和文
SB30004491	徳島文理大学文学叢書	和文
SB31002534	读者 = Readers	和文
SB30010559	读书	和文
SB30002714	都大論究 / 東京都立大学国語国文学会 [編集]	和文
SB30001006	獨協大学英語研究 / 獨協大学学術研究会	和文
SB31005423	中原中也研究 = Bulletin of Nakahara Chuya Memorial Museum	和文
SB30014255	中山大学 民間文芸 / 東方文化書局	和文
SB30001031	名古屋学院大学論集. 人文・自然科学篇	和文
SB30011876	名古屋近代文学研究	和文
SB30011877	名古屋大学国語国文学 / 名古屋大学国語国文学会 [編]	和文
SB31002793	名古屋大学日本語・日本文化論集 / 名古屋大学留学生センター	和文
SB30001646	並木の里	和文
SB30011882	奈良大学紀要. 分冊, 国文学研究室編	和文
SB30011864	鳴尾説林: 国文学研究誌 / 狂夜会 [編]	和文
SB31006071	南開語言學刊 = Nankai linguistics / 南开大学文学院汉语言文化学院外国语学院合办	和文
SB30003322	南山英文学 = Nanzan studies in English language & literature / 南山大学大学院英文学研究	和文
SB30002738	南山国文論集 / 南山大学国語学国文学会 [編集]	和文
SB31002596	南山大学日本文化学科論集	和文
SB30014276	南方土俗 / 南方土俗學會 [編]	和文
SB30014340	南方民族 / 南方土俗學會	和文
SB30005622	新潟大学国語国文学会誌 / 新潟大学人文学部国文学会	和文
SB30002744	新潟大学国文学会誌 / 新潟大学国文学会	和文
SB30004576	二松: 大学院紀要 / 二松學舎大学大学院文学研究科	和文
SB30001059	二松学舎大学人文論叢 / 二松学舎大学人文学会	和文
SB30004034	日中議連資料月報 / 日中貿易促進議員連盟 [編]	和文
SB31007034	日中言語研究と日本語教育 = Journal of Japanese and Chinese Linguistics and	和文
SB31004028	日中言語対照研究論集 / 日中言語対照研究会 [編]	和文
SB30003501	日本歌謡研究 / 日本歌謡学会	和文
SB30012880	日本近代文学 / 日本近代文学会 [編]	和文
SB31003435	日本近代文学館年誌: 資料探索 / 日本近代文学館 [編集]	和文
SB30007714	日本研究: 国際日本文化研究センター紀要 / 国際日本文化研究センター	和文
SB30002766	日本女子大学英米文学研究 / 日本女子大学英語英文学会 [編]	和文
SB31003657	日本大学大学院国文学専攻論集	和文
SB30002774	日本大学文学部研究年報 / 日本大学文学部 [編]	和文
SB30013003	日本中東学会年報 = Annals of Japan Association for Middle East Studies / 日本中東学会	和文
SB31000391	日本東洋文化論集: 琉球大学法文学部紀要 / 琉球大学法文学部 [編]	和文
SB31002575	日本認知言語学会論文集 = Proceedings of the ... annual meeting of the Japanese	和文
SB30012795	日本文化論叢 / 愛知教育大学日本文化研究室	和文
SB30002783	日本文学 / 日本文学協會 [編]	和文
SB30001087	日本文学研究 / 梅光女学院大学日本文学会 [編] = Studies in Japanese literature /	和文
SB30002784	日本文学研究 / 大東文化大学日本文学研究会 [編]	和文
SB30014141	日本文学研究年誌 / 金沢女子大学日本文学研究室	和文
SB30005438	日本文学研究会会報 / 東洋大学短期大学日本文学研究会 [編]	和文
SB30014140	日本文学ノ一ト / 宮城学院女子大学日本文学会	和文
SB30002787	日本文学論究 / 国学院大学文学会	和文
SB30002788	日本文学論集 / 大東文化大学大学院 [編]	和文
SB30011889	日本文学論叢 / 法政大学大学院日本文学専攻委員会	和文
SB30002786	日本文学誌要 / 法政大学國文學會 [編]	和文
SB31003071	日本文學會學生紀要 / 盛岡大学日本文学会	和文
SB30013412	日本文学会誌 / 盛岡大学日本文学会	和文
SB30002790	日本文芸論稿 / 東北大学文芸談話会 [編]	和文
SB30002791	日本文芸論集 / 山梨英和短期大学国文学会 [編]	和文

SB30011890	日本文芸論叢 / 東北大学文学部国文学研究室 [編]	和文
SB31004976	日本語・日本文化研修生・レポート集	和文
SB30013233	日本語教育 / 日本語教育学会 [編]	和文
SB30013002	日本語教育研究 / 言語文化研究所 [編]	和文
SB31002362	日本語教育研究 / 日本語教育協議会 [編]	和文
SB31007827	日本語教育ジャーナル = The Japanese education journal	和文
SB30014102	日本語研究センター報告 / 大阪樟蔭女子大学日本語研究センター [編]	和文
SB31002586	日本語・日本文化研究 / 大阪外国語大学日本語学科 [編集]	和文
SB30012814	日本語日本文学 / 創価大学日本語日本文学会	和文
SB30012904	日本語日本文学 / 輔仁大学外語学院東方語文学會	和文
SB31005816	日本語/日本語教育研究 / 日本語/日本語教育研究会 [編] = Studies in Japanese language	和文
SB31003045	日本語の研究 / 日本語学会 [編]	和文
SB31001855	日本語文法 / 日本語文法学会編集	和文
SB31002874	日本語・日本文化研修コース研究レポート集 / 名古屋大学総合言語センター	和文
SB30004496	日本語学 / 明治書院 [編]	和文
SB30004496	日本語学 / 明治書院 [編]	和文
SB31003351	日本語学論集 / 東京大学大学院人文社会系研究科国語研究室 [編]	和文
SB30002797	能楽研究: 能楽研究所紀要 / 野上記念法政大学能楽研究所 [編]	和文
SB30001112	ノートルダム清心女子大学紀要. 国語・国文学編 / ノートルダム清心女子大学	和文
SB31002371	ノートルダム清心女子大学紀要. 日本語・日本文学編 / ノートルダム清心女子大学	和文
SB30001115	ノートルダム清心女子大学国文学科紀要 / ノートルダム清心女子大学 [編]	和文
SB31003210	梅花女子大学短期大学部研究紀要	和文
SB30004511	梅花女子大学文学部紀要. 英語・英米文学篇	和文
SB30005625	梅花女子大学文学部紀要. 国語・国文学篇	和文
SB31002389	梅花短期大学研究紀要 / 梅花短期大学	和文
SB30011449	梅花短大国語国文 / 梅花短期大学国語国文学会	和文
SB30012796	梅花日文論叢 / 梅花女子大学大学院 [編]	和文
SB30012911	白山英文学 / 東洋大学英米文学会 [編]	和文
SB30001118	白山英米文学 / [東洋大学文学部英米文学科]	和文
SB30002813	博物館研究 / 日本博物館協会	和文
SB30004593	博物館学雑誌 / 全日本博物館学会 [編]	和文
SB31002958	博覧群書	和文
SB31000600	八方	和文
SB30001124	花園大学研究紀要 / 花園大学文学部	和文
SB30002817	花園大学国文学論究 / 花園大学国文学会 [編]	和文
SB31006306	埴輪研究会誌 / 埴輪研究会 [編]	和文
SB31002110	阪神近代文学研究 / 阪神近代文学研究会 [編]	和文
SB31003658	阪大近代文学研究 / 大阪大学近代文学研究会 [編]	和文
SB31002585	阪大日本語研究 / 大阪大学文学部日本学科(言語系) [編]	和文
SB30004260	比較文学研究 = Etudes de littérature comparée / 東大比較文学会 [編]	和文
SB30014228	比較文学研究 = Etudes de littérature comparée / 東大比較文学会	和文
SB30013881	悲劇喜劇	和文
SB31000732	美術史論叢 / 東京大学文学部美術史研究室	和文
SB31008996	一橋日本語教育研究 / 一橋日本語教育研究会 [編] = The Hitotsubashi journal for Japanese	和文
SB31008589	表現研究 / 表現学会 [編]	和文
SB31003568	弘学大語文 / 弘前学院大学国語国文学会	和文
SB30002843	弘前学院大学英米文学 / 弘前学院大学英語英文学会	和文
SB30002846	弘前大学人文社会 / 弘前大学人文社会學會	和文
SB30011957	広島女学院大学英語英米文学研究 / 広島女学院大学文学部英米文学科 [編]	和文
SB30002847	広島女学院大学国語国文学誌 / 広島女学院大学日本文学会 [編]	和文
SB30011956	広島女学院大学日本文学 / 広島女学院大学日本文学科 [編]	和文
SB30011948	広島女子大国文 / 広島女子大学国文学会	和文
SB31000961	拼音	和文
SB31006389	風絮 = Fūjo / 宋詞研究会 [編集]	和文
SB31003924	フォーリン・アフェアーズ = Foreign affairs	和文
SB31004268	フォーリン・アフェアーズリポート = Foreign affairs report	和文
SB30002873	福岡教育大学国語国文学会誌 / 福岡教育大学国語国文学会	和文
SB31000293	福岡教育大学国語科研究論集 / 福岡教育大学国語国文学会	和文
SB30013373	福岡大学日本語日本文学 / 福岡大学日本語日本文学会	和文
SB30005639	藤女子大学国文学雑誌 / 藤女子大学国語国文学会	和文
SB30002881	藤女子大学・藤女子短期大学紀要. 第1部 / 藤女子大学, 藤女子短期大学 [編]	和文
SB30002884	富士論叢 / 富士短期大学大世学院政治経済研究会 [編]	和文
SB31001198	婦人文藝	和文
SB30001196	佛教研究 / 国際佛教徒協會 [編]	和文
SB30001199	佛教大学研究紀要 / 佛教大学学会 [編]	和文
SB30001419	佛教文化研究所紀要 / 龍谷大学仏教文化研究所 [編集]	和文
SB30014335	佛教文学 / 仏教文学研究会 [編集]	和文
SB30010725	風土記研究	和文
SB30011480	ブロンテ・スタディーズ / 日本ブロンテ協会	和文
SB30002915	文化 / 東北帝國大学文科會編輯	和文
SB31003581	文科	和文
SB31002386	文化研究 / 樟蔭女子短期大学 [編]	和文
SB31002845	文化展望	和文
SB30003341	文化學年報 / 神戸大学大学院文化学研究科	和文
SB30011570	文学遺産	和文
SB30004530	文学藝術 / 共立女子大学文学藝術研究所 [編]	和文
SB30012881	文学研究 / 聖徳学園短期大学国語国文学会	和文
SB30013183	文学時代: bungaku jidai	和文
SB30014251	文学周报	和文
SB30014250	文学旬刊	和文
SB30005406	文学と評論 = Letters & essays	和文
SB30010773	文学評論	和文

SB31000610	文学評論丛刊	和文
SB30002925	文學論輯 / 文學研究會 [編]	和文
SB30001218	文学論藻 / 東洋大学国語国文学会	和文
SB30011364	文学・芸術・文化：近畿大学文芸学部論集	和文
SB30003229	文学・語学 / 全国大学国語国文学会 [編]	和文
SB30002921	文學史研究 / 文学史研究会編	和文
SB30002924	文学部紀要 / 中京大学学術研究会	和文
SB30011959	文学部論集 / 佛教大学学会 [編]	和文
SB31002350	文化財発掘出土情報：歴史・考古の情報誌	和文
SB30001222	文科報 / 跡見学園短期大学文科	和文
SB31002383	文教國文學 / 広島文教女子大学国文学会 [編集]	和文
SB30002928	文教大学国文 / 文教大学国語研究室 [編]	和文
SB31000389	文藝 / 園田学園女子短期大学国文学会 [編]	和文
SB30011441	文藝俱樂部	和文
SB30002929	文芸研究 / 明治大学文芸研究会 [編]	和文
SB30011445	文藝研究 / 日本文藝研究会 [編]	和文
SB31003577	文藝公論	和文
SB30014252	文藝陣地	和文
SB30002930	文芸と思想 / 福岡女子大学 [編]	和文
SB30014243	文藝突撃 / 文藝突撃社編	和文
SB30002932	文藝論叢 / 大谷大学文芸研究会 [編集]	和文
SB30011962	文藝論叢 / 立正学園女子短期大学文芸科教室 [編]	和文
SB30014280	文獻	和文
SB30002933	文獻探究	和文
SB30002934	文研論集 / 専修大学大学院学友会 [編]	和文
SB30011958	文研会紀要 / 愛知学院大学大学院文学研究科文研会 [編]	和文
SB30010576	文史知識	和文
SB31000601	文叢：純創作月刊	和文
SB30002935	文体論研究 / 日本文体論協会 [編]	和文
SB30005408	文莫 / 鈴木胆学会 [編]	和文
SB30010700	文物 / 文物編輯委員会	和文
SB30002937	文林 / 松蔭女子学院大学国文学研究室編	和文
SB31002895	文匯報	和文
SB30002939	平安朝文学研究 / 平安朝文学研究会	和文
SB31000597	北京周報 / 北京周報社	和文
SB30014272	北京大学歌謡週刊 / 東方文化書局:北京大学歌謡研究会	和文
SB31000648	北京大学学報：人文科学 語文関係	和文
SB31000647	北京大学学報：人文科学 哲学篇	和文
SB31000649	北京大学学報：人文科学 文学篇	和文
SB31009329	北京統計年鑑 / 北京市统计局編	和文
SB30004290	別冊國文學 / 學燈社	和文
SB30001233	別冊ジュリスト	和文
SB30010701	別冊翻訳の世界	和文
SB30002942	別府大学国語国文学 / 別府大学国語国文学会 [編]	和文
SB31000607	邊政公論 / 邊政公論社主編	和文
SB30001254	法学論集 / 駒沢大学法学会 [編]	和文
SB30010777	方言	和文
SB30001268	法政大学文学部紀要 / 法政大学 [編]	和文
SB31003336	法政文芸：日本文學誌要別冊 / 法政大学国文学会 [編]	和文
SB30012571	ポエトリ関東 / 関東学院大学	和文
SB30004535	北星学園大学文学部北星論集 / 北星学園大学 [文学部] [編]	和文
SB31002366	北陸古典研究 / 北陸古典研究会編	和文
SB30005599	北海学園大学学園論集 / 北海学園大学学術研究会	和文
SB30001289	北海道駒澤大學研究紀要 = Journal of the Hokkaido Komazawa University / 北海道駒澤大	和文
SB31002365	北海道大学留学生センター紀要 / 北海道大学留学生センター [編]	和文
SB31003238	ほらいずん：英文学研究と批評	和文
SB31009221	香港經濟年鑑 / 香港大公報[編輯]	和文
SB30003172	翻訳の世界 / 日本翻訳家養成センター [編]	和文
SB31001791	マーク・トウェイン：研究と批評 = Journal of Mark Twain studies	和文
SB31004102	まいにちスペイン語	和文
SB30014084	マス・コミュニケーション研究 / 日本マス・コミュニケーション学会	和文
SB30002979	待兼山論叢. 文学篇 / 大阪大学文学部	和文
SB31000341	松本清張研究	和文
SB31003569	松本清張研究	和文
SB31005819	満族史研究 / 満族史研究会 [編]	和文
SB30002984	萬葉 / 萬葉學會	和文
SB30011945	萬葉：万葉文庫「万葉研究会」報 / 奈良県立橿原図書館 [編]	和文
SB30011952	三重大学日本語学文学	和文
SB31002294	みずぼ / 大和弥生文化の会 [編]	和文
SB30005432	三田國文	和文
SB31003390	緑の枝：ゼリョーナヤ・パーロチカ：日本トルストイ協会報	和文
SB31001583	南アジア研究：JJASAS / 日本南アジア学会 [編集]	和文
SB30004541	ミネルヴァ / 親和女子大学英文学会	和文
SB30002999	美夫君志：萬葉研究誌 / 美夫君志會 [編]	和文
SB31003317	宮城学院女子大学大学院人文学会誌	和文
SB30012890	都の華	和文
SB31003920	明清小説研究 / 江蘇省社會科學院文學研究所明清小説研究中心主辦	和文
SB31001140	明清文学言語研究会会報 / 明清文学言語研究会 [編]	和文
SB30014273	民間月刊 / 東方文化書局:中国民俗学会	和文
SB31000622	民間文芸集刊	和文
SB30011576	民族語文	和文
SB30011571	民族團結	和文

SB30014246	民俗学 / 民俗学会 [編]	和文
SB31000650	民俗学集錦 / 妻子匡編	和文
SB30003025	武庫川国文 / 武庫川女子大学国文学会 [編]	和文
SB30011951	武庫川女子大学言語文化研究所年報 / 武庫川女子大学言語文化研究所	和文
SB31000035	武庫川女子大学生生活美学研究所紀要 / 武庫川女子大学生生活美学研究所編集委員会 [編集]	和文
SB30001310	武蔵大学人文学会雑誌 / 武蔵大学人文学会 [編]	和文
SB30001312	武蔵野女子大学紀要 / 武蔵野女子大学文化学会 [編]	和文
SB30012922	武蔵野日本文学 / 武蔵野女子大学国文学会 [編]	和文
SB30003400	武蔵野文学 : 国語国文図書総目録 / 武蔵野書院	和文
SB31002008	むらさき	和文
SB31002373	明海日本語 / 明海大学日本語学会 [編集]	和文
SB31002844	明月記研究 : 記録と文学 / 明月記研究会編	和文
SB30011479	明治学院論叢. 英語・英米文学 / 明治学院大学文学会 [編]	和文
SB30005416	明治大学教養論集	和文
SB30003039	明治大学日本文学 / 明治大学日本文学土曜会	和文
SB30011947	明星英米文学 / 明星大学英米語学文学会 [編]	和文
SB31004849	明星国際コミュニケーション研究 = Meisei international studies / 明星大学国際コミュニ	和文
SB30010774	明報月刊 / 明報月刊編輯委員会 [編輯]	和文
SB31001994	メディア史研究 = Media history / メディア史研究会	和文
SB30014242	文字改革	和文
SB30003298	百舌鳥国文 / 大阪女子大学大学院国語国文学専攻院生の会 [編]	和文
SB30005419	物語研究 / 編集同人・物語研究・会 [編集]	和文
SB31001799	物語研究 / 物語研究会 [編]	和文
SB30001351	安田女子大学紀要 = Journal of Yasuda Women's University	和文
SB31000394	安田女子大学大学院文学研究科紀要. 合冊	和文
SB30001352	野草 / 中国文芸研究会	和文
SB30003050	山口国文 / 山口大学文学部国語国文学会	和文
SB30003401	山手国文論攷 / 神戸山手女子短期大学国文学科 [編]	和文
SB31002719	山手日文論攷 / 神戸山手女子短期大学日本語・日本文化学科 [編]	和文
SB30003056	山辺道 : 国文学研究誌 / 天理大学国文学研究室	和文
SB31000014	ユネスコ世界遺産年報 = The yearbook of the world heritage / 日本ユネスコ協会連盟 [編]	和文
SB31000608	榕樹文学叢刊 / 中国作家協会福建分会編	和文
SB30011439	横浜国大語研究 / 横浜国立大学国語国文学会	和文
SB30013010	米沢国語国文 / 山形県立米沢女子短期大学国語国文学会	和文
SB30007546	駱駝草 附駱駝	和文
SB30003071	立教大学日本文学 / 立教大学日本文学会 [編]	和文
SB30003072	立教レビュー / 立教大学文学部英米文学科	和文
SB30003076	立正大学國語國文 / 立正大学國語國文學會 [編集]	和文
SB30003077	立正大学人文科学研究所年報 = Annual report of the Institute of Cultural Science, Rishō	和文
SB30005563	立正大学文学部論叢 / 立正大学文学部	和文
SB30011482	立命英米文学 / 立命館大学衣笠英米文学懇話会 [編]	和文
SB30011975	立命館英米文学 / 立命館大学英米文学会	和文
SB30001508	立命館文学 / 立命館研究所	和文
SB31004958	琉球大学言語文化論叢 / 琉球大学言語文化研究会 [編]	和文
SB30003093	琉球大学語学文学論集 / 琉球大学法文学部	和文
SB30003875	龍谷大学大学院研究紀要. 社会科学 / 龍谷大学大学院紀要編集委員会 [編集]	和文
SB30014089	良友 = The Young companion / 良友印刷公司出版部編輯	和文
SB30003107	緑岡詞林	和文
SB30001426	麗沢大学紀要	和文
SB30013404	列册新文學研究. 作品部	英文
SB30013405	列册新文學研究. 評論部	和文
SB30003124	連歌俳諧研究 / 俳文学會	和文
SB30011572	連環画報 / 連環画報編輯部編輯	和文
SB30013241	ロシア研究 = Russian studies / ロシア研究センター幹事会	和文
SB30012962	ロシア史研究 / ロシア史研究会	和文
SB30010924	魯迅研究年刊 / 西北大學學報編輯部編	和文
SB30013427	魯迅風	和文
SB30003284	論究 / 三松学舎大学佐古研究室	和文
SB30003127	論究日本文学 / 立命館大学日本文学会 [編集]	和文
SB30002203	論集 / 神戸女学院大学	和文
SB30005424	論集 / 駒沢大学大学院国文学会 [編]	和文
SB30014142	論集 / 青山学院大学大学院文学研究科英米文学専攻	和文
SB30003316	論叢 / [甲南女子大学大学院]「論叢」の会	和文
SB30003128	和歌文学研究	和文
SB31002997	和漢語文研究 / 京都府立大学国文学会	和文
SB30013362	早稲田大学大学院文学研究科紀要. 第2分冊. 英文学フランス文学ドイツ文学ロシア文学中国文	和文
SB31002867	早稲田大学大学院文学研究科紀要. 第3分冊. 日本文学演劇映像美術史日本語日本文化	和文
SB30013363	早稲田大学大学院文学研究科紀要. 第3分冊. 日本文学演劇美術史日本語日本文化	和文
SB31002579	早稲田大学日本語研究教育センター紀要 / 早稲田大学日本語研究教育センター [編]	和文
SB30003139	和洋英文学 = Wayo study of English / 和洋女子大学短期大学部英文学会	和文
SB30003140	和洋國文研究 / 和洋女子大学國文学会 [編]	和文
SB30001461	和洋女子大学英文学会誌 / 和洋女子大学英文学会	和文
SB31006308	考古廣場 / 釜山考古學研究會 [編]	和文
SB31004161	考古美術 / 韓國美術史學會 [編]	和文

2015年度FD研究会実施一覧

開催日	タイトル	テーマ・内容等	メイン コーディネータ	講演者	学外 参加
5月27日	大学院FD研究会	本研究会では、大学院のコアとなる科目(国際文化学、コアセミナー、国際文化研究A～D)の教員が集まり、科目間の連携を深めるために相互の授業内容の点検やさならる相互連携に向けての検討を行った。そこで、それぞれの専門分野における主流となるコンセプトおよびフレームワークが説明され、その多様性と関連性をどのように学生達に理解し応用してもらえるかの視点のもと議論が重ねられた。	カルロス 教務主任	—	—
11月4日	国際文化学研究科共催 第25回オーストラリア学会 地域研究会(関西例会)	現在にも一定の拘束力を有する冷戦時代の記憶の表象を対象とし、その記憶の表象の形態と手段を検討する。記憶の構築される空間／メディア／言説を考察することを通して、歴史と記憶の複雑な関わりを照射することを試みる。シンポジウムには国際文化学研究科修士課程2年次生も登壇予定であり、大学院生の研究者としてのステップとするのみならず他研究科生へのモデルケースの提示も目指す。	瀧口 大学院委員	①平山 陽洋 助教 (名古屋外国語大学外国語学部) ②土屋 貴寛 (龍谷大学国際文化学研究科・修士課程2年)	○
11月25日	国際文化学研究科共催 インターナショナルワーク ショップ: "Rethinking Interaction between Indigenous Traditional Knowledge and Modern Knowledge"	2大学間でテレビ会議システムを使った研究交流。大学院生発表と討論のセッション。 山口県立大学からの発表 ・「中国の帰国子女教育について—日本の経験から学ぶ異文化教育」 ・「山口市阿東地域の観光を主体とした地域活性化」 ・「心地よさから発想を得た生活道具の研究」 龍谷大学発表からの発表 ・「外国にルーツをもつ若者の進路選択」 ・「日本の英語教育の小中連携について—評価基準構築の観点から—」	斎藤 研究科長	①相良 翔子 ②鷲尾 晴貴 (2名共に龍谷大学 国際文化学研究科・ 修士課程2年)	○
12月11日	国際文化学研究科 FD研究会 「田園回帰する人びとと地域 づくりの展望」	人口減少に伴い地方消滅が起こるなどと言われているが、そのような論調は現実をみていない。実際には田園回帰の傾向が東日本大震災以降も持続的に続いており、日本の地域作りはまず実際に起こっていることを正しく認識することから始まる。今回は著名な出版者・ジャーナリストの大江正章氏から、今私たちが考えなければならない視点や論点についてお話をいただき、今後の地域のあり方をお互いに議論した。	斎藤 研究科長	大江 正章氏(ジャーナリスト)	○
1月27日	2015年度 国際文化学研究 科シンポジウム(FD研究会) 「文化のはざまを生きる～日 本とヨーロッパにおける第二 世代移民」	第1部では、はじめに多文化のはざまに生きる5人のハーフの複雑な心境や切ない経験を描いた「HAFUハーフ」(2013)を上映する。次に第2部では、2名の当事者の方々より個人としての経験や思いなどを語っていただき、現状を具体的に明らかにしてもらう。第3部では、第二世代移民(全体)のホスト社会での統合の課題についてパネル・セッションを行う。まず、シーガー氏およびタンラン氏には日本やドイツを事例にとった研究成果を報告していただく。その後、樽本先生よりヨーロッパにおける多文化社会の挑戦への取り組みの現状とその課題を明らかにしてもらい、それをもとに日本における課題、とりわけ第二世代に関して考察する予定である。	カルロス 教務主任	①菊池まや氏(バングラデシュと日本のハーフ) ②飯川椎名氏(フィリピンと日本のハーフ) ③シーガー・フィオナカタリナ氏(京都大学東南アジア研究所JSPS フェロー) ④タンランゴブラダ氏(龍谷大学大学院国際文化学研究科修士1年) ⑤樽本秀樹氏(北海道大学文学部准教授)	○
—	ランチタイムセミナー(計6回)	教員・学外の研究者が行っている研究発表をお昼休みにランチを食べながら気軽に聞く機会として実施。教員、大学院生、学部生を問わずだれでも参加可能。 (回数 日付 講演者 テーマ) 1 5月13日 William Bradley "The Critical Turn in Intercultural Communication: Understanding the Critiques Is One Issue, Building on Them Is Another" 2 6月10日 陳 慶昌(国際学部准教授) (CHEN Ching-Chang) "Why is the North Korea problem so difficult to resolve?" 3 6月24日 Julian PIGOTT(国際学部講師) "English learning as a means of self-betterment: A grounded theory of language learning motivation in Japan." 4 7月29日 友永 雄吾(国際学部准教授) "Social Movement for the Environmental Management of the Australian Indigenous People in South East Australia at Present" 5 10月21日 村田 和代(政策学部教授) "Raising awareness of 'participant-ship' for constructive 'hanashiai': effects of a sociolinguistically-informed communication programme" 6 1月10日 佐倉弘祐(龍谷大学地域公共人材・政策開発リサーチセンター(LORC)博士研究員)、並木 洲太郎(政策学研究科博士後期課程) Potential and Vulnerability of North Kyoto- Pilot Study of Regional Linkage through Applying Spatial Analysis -	カルロス 教務主任	左記に記載	○

2016年度FD研究会実施一覧

開催日	タイトル	テーマ・内容等	メイン コーディネータ	講演者	学外 参加
5月11日	大学院FD研究会 (共通科目授業検討会)	大学のコアとなる科目(国際文化学、コアセミナー、国際文化研究A～D)の教員が集まり、科目間の連携を深めるために相互の授業内容の点検や更なる相互連携に向けての検討をおこなった。	斎藤研究科長	—	—
12月14日	国際文化学研究科共催 第25回オーストラリア学会 地域研究会(関西例会)	1996年、龍谷大学瀬田学舎に国際文化学部が設立してから、20年が経過した。この間、カリキュラム改革や教学内容の更なる充実、社会から求められる人材の変化など、様々な変革を遂げた。2015年には、国際学部へ改組し2学科体制を展開、深草学舎へ移転し、益々の盛り上がりを見せている。設立から20年経った今、設立時に目指したもの、育成しようとした人材について振り返ると共に、これからの国際学部は何を継続し、どのようなことがより新しく取り組むべきテーマなのかについて、シンポジウムを開催した。	カルロス教務主任	権 五定 氏 国際文化学部名誉教授 神先 明日香 氏 国際文化学部同窓会長 本多 善 氏 国際文化学研究科 修了生	○
1月10日	国際文化学研究科共催 インターナショナルワーク ショップ: “Rethinking Interaction between Indigenous Traditional Knowledge and Modern Knowledge”	民主主義と包摂をテーマとし、アジアの中の「カースト」問題に焦点を当てていきます。インドについては、不可触民とされるダリットの現状と課題、そしてこれからを展望し、。そうした問題をアジアにおける類似する問題と可能な限り比較検討することで、私たちにとってのよりよい民主主義社会とはいかなるものかについて考える機会とした。インドからの客員教授による講演により、リアルなインド上について迫るものとなった。	斎藤研究科長	ロンキ ラム 氏(パンジャブ大学(インド)教養学部長、本学客員教授)	○
2月9日～ 2月11日	山口県立大学・龍谷大学 大学院研究交流会	本学研究科院生・教員が山口県立大学院国際文化学研究科を直接訪ね、交流した。	斎藤研究科長 斎藤理教授(山口県立大学)	—	×
—	ランチタイムセミナー(計4回)	教員・学外の研究者が行っている研究発表をお昼休みにランチを食べながら気軽に聞く機会として実施。教員、大学院生、学部生を問わずだれでも参加可能。 (回数 日付 講演者(所属) テーマ) 1 5月18日 清水 耕介(国際学部教授) The Kyoto School and the Westphalian Language: A tragic story of being and language in non-Western international relations 2 7月6日 長尾 明子 (国際学部講師) 日本人英語学習者の新人から経験者への移行に関する一考察: Communities of Practiceの概念を授業実践へ応用 How First-Year Japanese University Students Become Experienced Learners from Novices in a Community of Practice as an EFL Language Classroom 3 10月19日 Dr. Stephen Lofts (King's University College, CANADA) Cassirer, Heidegger and the Cultural-Event 4 10月26日 河合沙織(国際学部講師) ブラジルの地域経済の発展と労働市場	カルロス教務主任	左記に記載	○

2017年度FD研究会実施一覧

開催日	タイトル	テーマ・内容等	メイン コーディネータ	講演者	学外 参加
5月25日	大学院FD研究会 (共通科目担当者授業検討会)	大学のコアとなる科目(国際文化学、コアセミナー、国際文化研究A～D)の教員が集まり、科目間の連携を深めるために相互の授業内容の点検や更なる相互連携に向けての検討をおこなった。	斎藤研究科長	—	—
10月14日	国際文化学研究科共催 第25回オーストラリア学会 地域研究会(関西例会)	発表1: Title: "Anger intervention model" Abstract: Prof Nakata will share research work he and his colleagues undertook to investigate Indigenous Australian men's understandings and expressions of anger, and the design of an intervention model for Indigenous men. 発表2 タイトル: 「ニュージーランドのマオリの飲酒、ドラッグアディクト問題とその支援について」 要旨: 元来、ニュージーランド先住民であるマオリに飲酒、喫煙、薬物摂取の習慣はなかったが、西洋人の入植後、次第にマオリの間にも広がり、現在では16歳から64歳までのマオリの64.7%が日常的または時折、大麻やパーティービルをはじめとした薬物使用の経験があり、また、タバコ、アルコール摂取量もマオリ以外の民族と比べ高くなっている。これらの経緯、背景と取り組まれている支援、今後の課題について報告。	友永教務主任	Professor Martin Nakata (James Cook University) 山田美智子(ニュージーランドDonaldson Trust コミュニティサポートワーカー、The Chris Ruth Centre Trust 職業支援員)	○
10月15日	国際文化学研究科共催 インターナショナルワーク ショップ: "Rethinking Interaction between Indigenous Traditional Knowledge and Modern Knowledge"	For the management of sustainable cultural and natural resources, the interaction of indigenous traditional knowledge with different values and interests of various stakeholders is essential. In this symposium, we explore how such a collaboration would be achieved as well as what political, economic, and cultural effects it has had on local communities, both positively and negatively. Introducing case studies from the Asia Pacific region, we also examine a way of cooperatively managing cultural and natural resources through the interaction of the indigenous traditional knowledge and the modern knowledge, highlighting moral questions and dilemmas of the management.	友永教務主任	Martin F. NAKATA (James Cook University) 松島泰勝(龍谷大学経済学部教授) 田辺 明生(東京大学) 友永 雄吾(国際学部准教授) 林 麗英(国際文化学研究科 特別専攻生)	○
11月20日	山口県立大学大学院国際文化 学研究科との交流事業 「古都の文化的ダイナミズム を解剖する」	山口県立大学大学院国際文化学研究科院生・教員と本研究科大学院生・教員との研究交流事業。3回目の今回は、京都で実施。「古都」の文化継承を課題とする山口と京都の二地域を比較考察し、古都ならではの特性ともいえる新旧の文化が交錯するダイナミズムや、文化を軸とした社会的包摂に関わる蓋然性を浮き彫りにすることを目的に、フィールドワークやワークショップ、プレゼンを実施。	斎藤研究科長 斎藤理教授(山口県立大学)	—	
—	ランチタイムセミナー(計5回)	教員・学外の研究者が行っている研究発表をお昼休みにランチを食べながら気軽に聞く機会として実施。教員、大学院生、学部生を問わずだれでも参加可能。 (回数 日付 講演者 テーマ) 1 6月20日 Dr. Stephen Lofts (King's University College, CANADA) An introduction to Cassirer's Theory of Culture. 1 7月19日 Bradley William (国際学部教授) Multicultural Education in the U.S. in an Era of Backlash 2 10月19日 Dr. Stephen Lofts (King's University College, CANADA) Cassirer, Heidegger and the Cultural-Event 3 10月26日 Lydia Mischkulnig (Austrian novelist) Off to Battle "sugoroku" ----- War and Propaganda in Japanese Games 4 11月22日 鈴木 滋 (国際学部教授) 現代進化論は宗教と共生できるか?	友永教務主任 福山FD委員	左記に記載	○
—	研究報告会(計4回)	教員・学外の研究者が行っている研究発表を気軽に聞く機会として実施。教員、大学院生、学部生を問わずだれでも参加可能。 (回数 日付 講演者 テーマ) 1 11月20日 斎藤 文彦(国際学部教授) 持続可能な未来? 2 12月25日 瀧口 順也(国際学部准教授) コミュニスト・アイデンティティの形成～1920年代のイギリス共産党員を事例に～ 3 1月15日 脇田 博文(国際学部教授) A Genealogical Perspective of Linguistic Nationalism in Central Europe: Language Conflicts in the Multinational Hapsburg Empire 4 1月15日 福山 泰子(国際学部准教授) インドにおける仏教衰退とミャンマーにおける新たな聖地の創出 ーバガンの仏教美術を中心にー	友永教務主任 福山FD委員	左記に記載	○